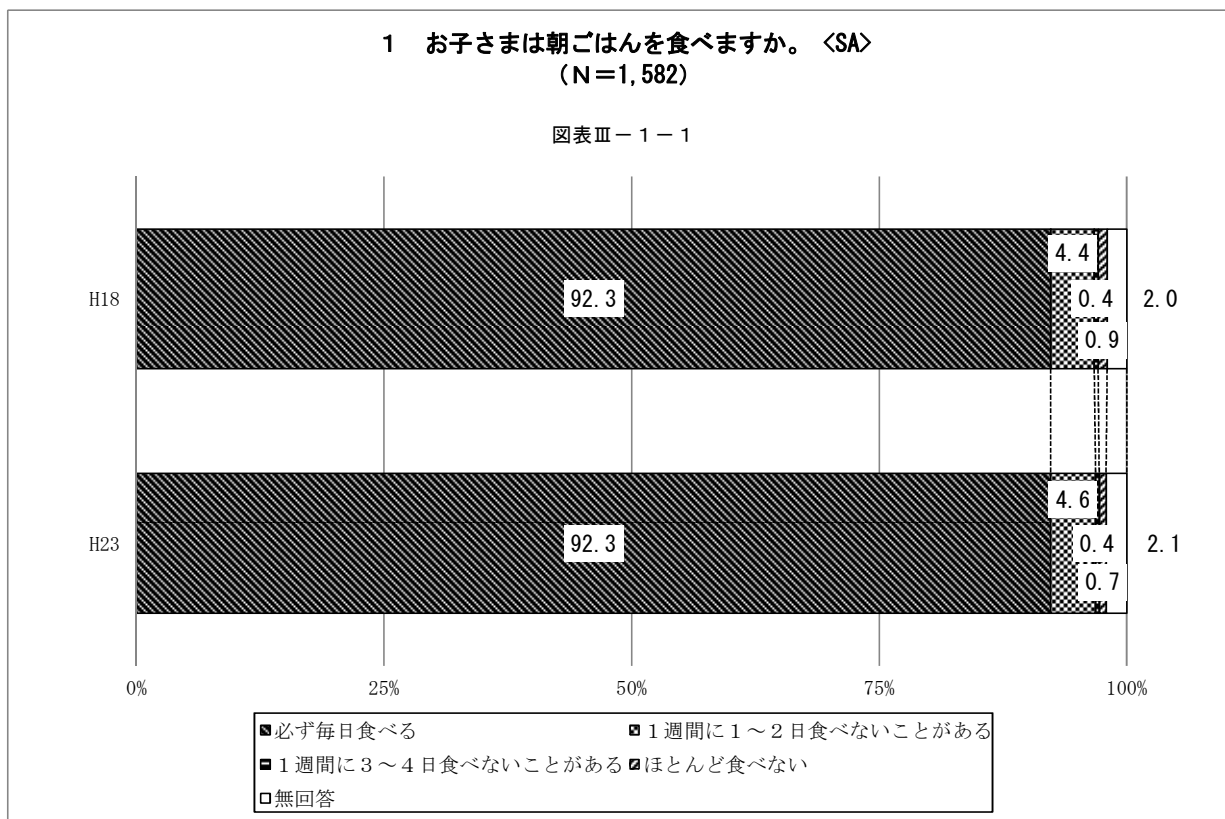


I 子どもの食生活について

(1) 朝食摂取度

1 お子さまは朝ごはんを食べますか。

◆9割以上が「必ず毎日食べる」



朝食の摂取状況は、「必ず毎日食べる」(92.3%)が9割を超え、平成18年度調査と同数となっている。「1週間に1～2日食べないことがある」(4.6%)が0.2%増加しているが、他もほぼ横ばいとなっている。(図表Ⅲ-1-1)

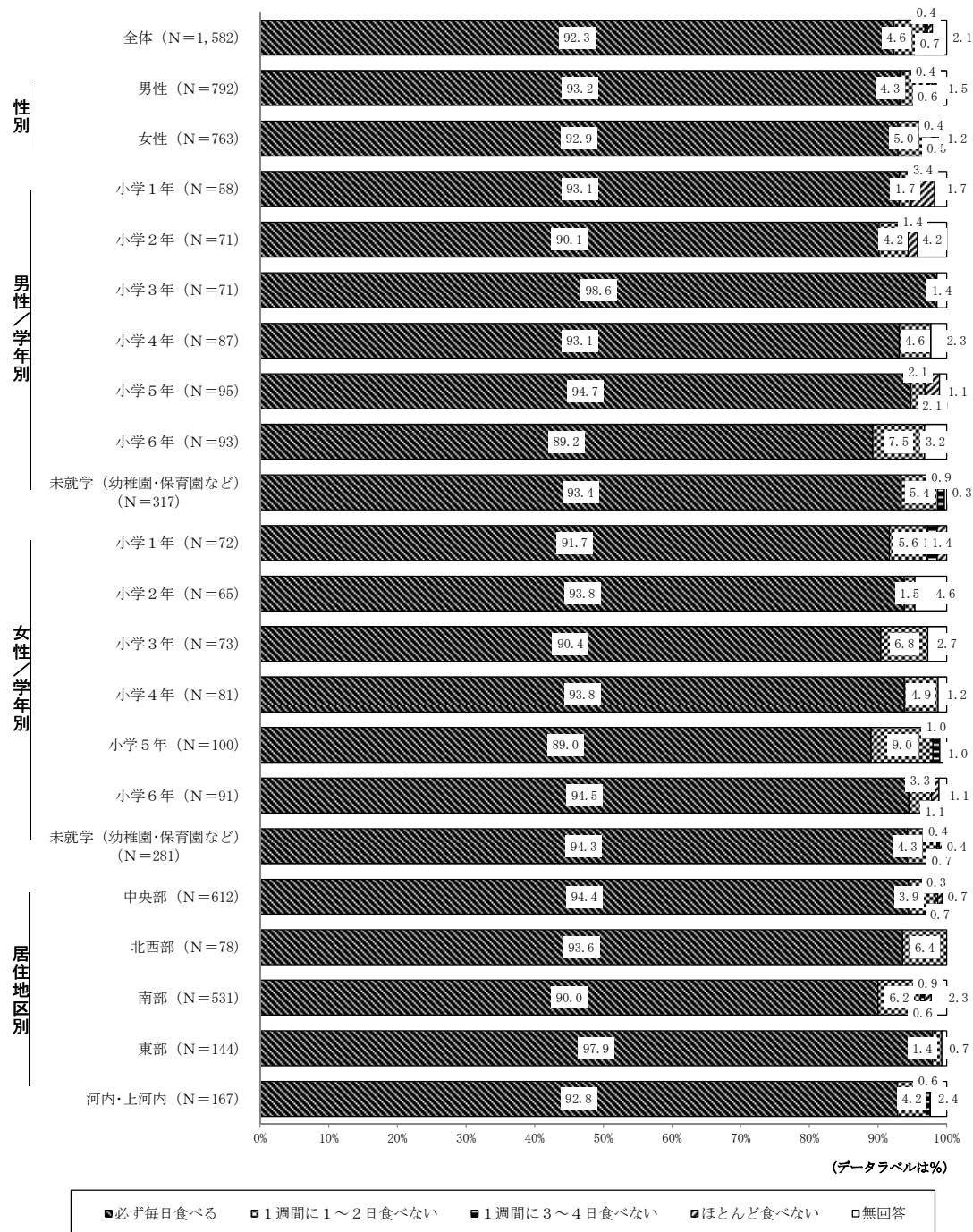
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、「必ず毎日食べる」割合は、男性小学6年生（89.2%）と女性小学5年（89.0%）でやや低くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－2）

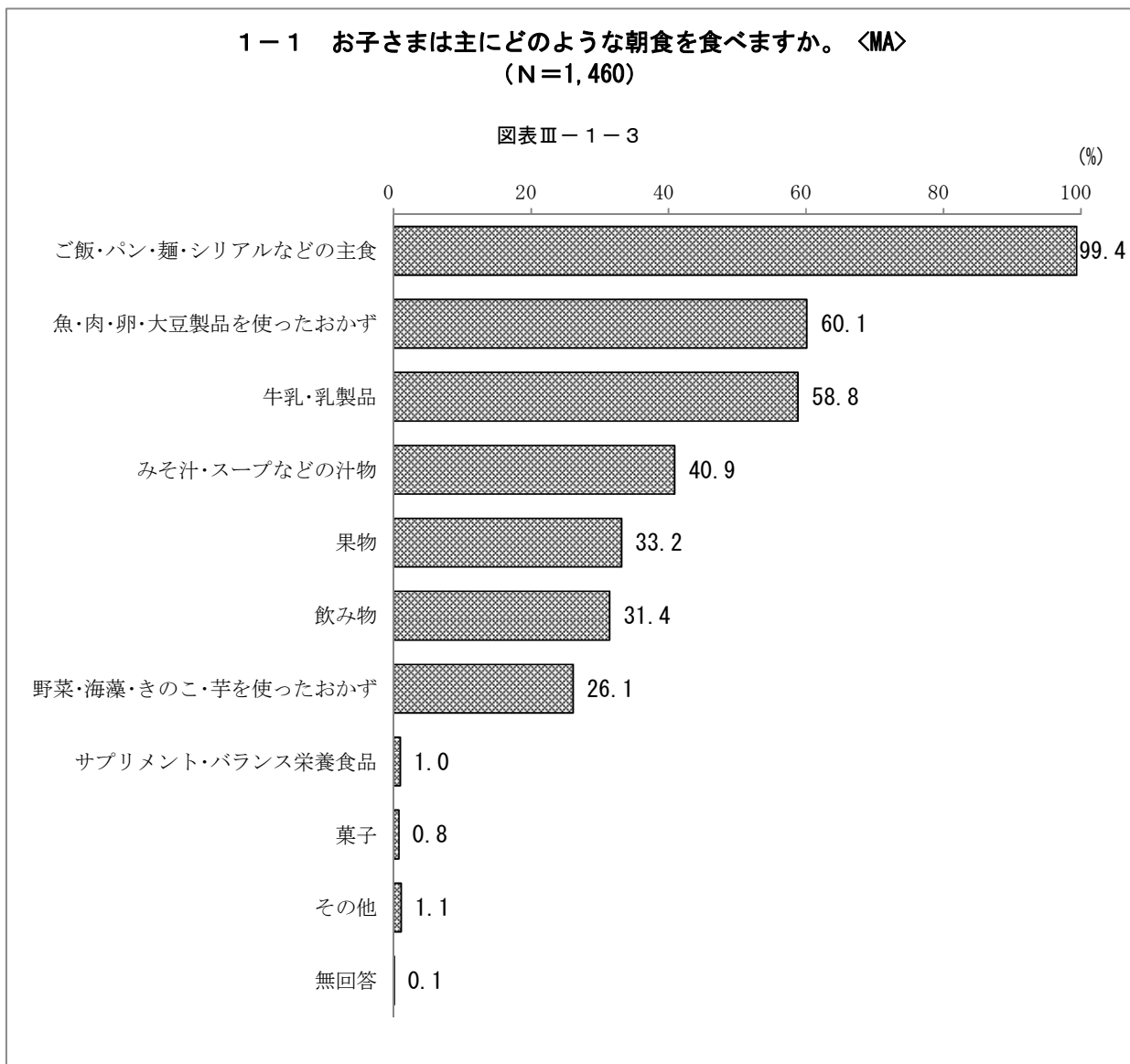
図表Ⅲ－1－2



(1-1) 朝食の内容

1-1 お子さまは主にどのような朝食を食べますか。

◆「ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食」がほぼ100%



前問で「必ず毎日食べる」と答えた人に朝食の内容を聞いたところ、ほぼ100%の人が「ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食」(99.4%)と回答し、次いで、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」(60.1%)が6割、「牛乳・乳製品」(58.8%)がほぼ6割となっている。(図表Ⅲ-1-3)

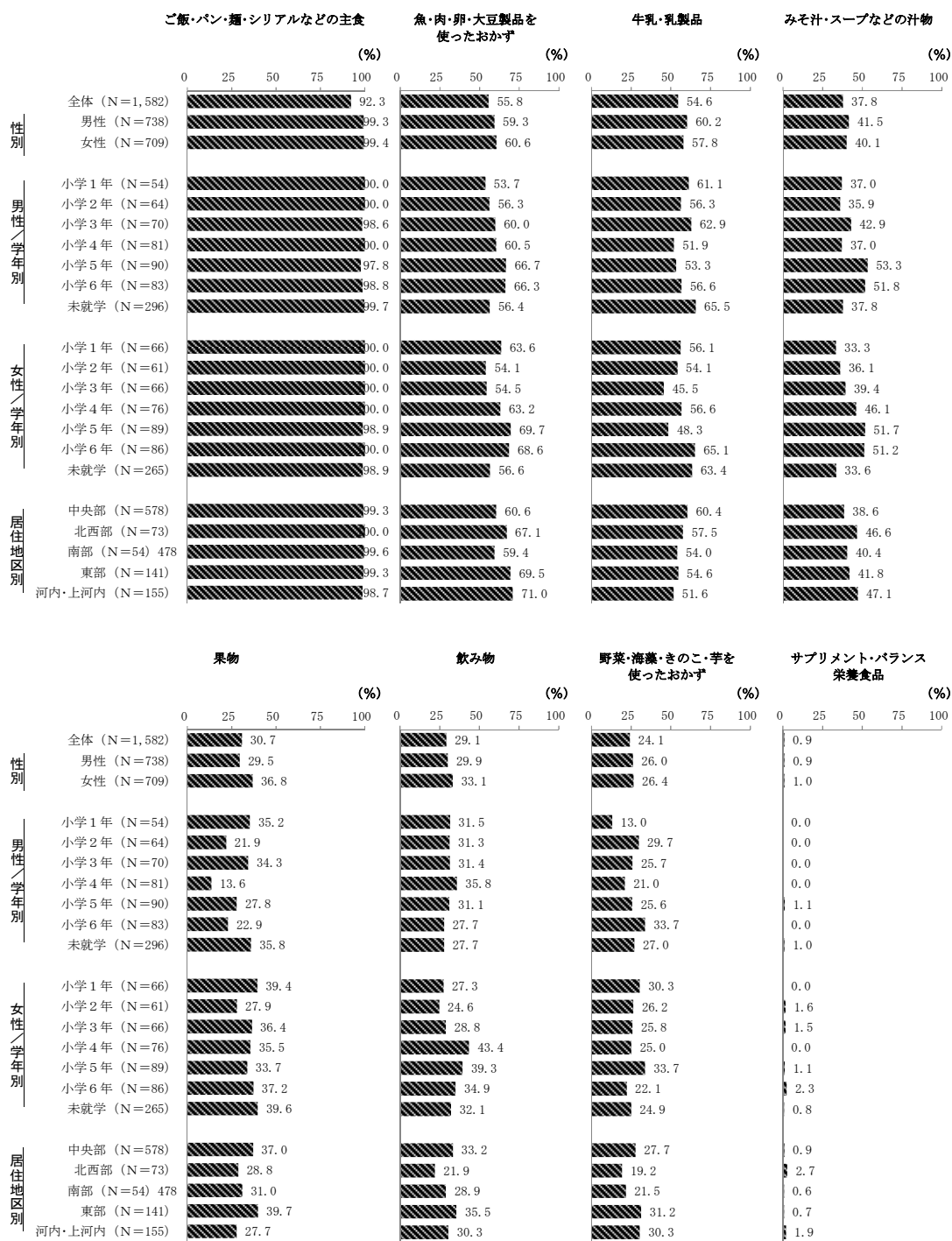
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

上位8項目を子どもの性別で見ると、「果物」では女性（36.8%）が男性（29.5%）よりもやや高くなっている他は、大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」は、男女とも5年生以上の高学年で6割を超えている。「牛乳・乳製品」は、男女とも「未就学」が6割を超えている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－4）

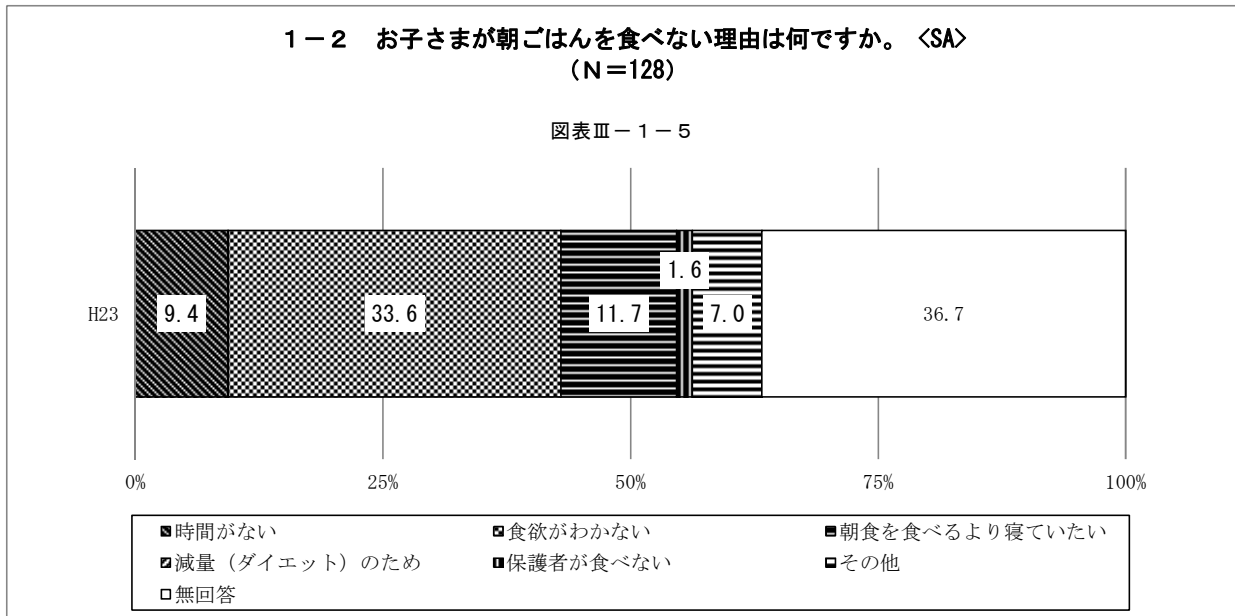
図表Ⅲ－1－4（上位8項目）



(1-2) 朝食を食べない理由

1-1 お子さまが朝ごはんを食べない理由は何ですか。

◆「食欲がわからない」が3割超



子どもが朝食を毎日は食べないと答えた人にその理由を聞いたところ、「食欲がわからない」(33.6%)が3割超と最も多くなっている。以下、「朝食を食べるより寝ていたい」(11.7%)、「時間がない」(9.4%)の順となっている。(図表Ⅲ-1-5)

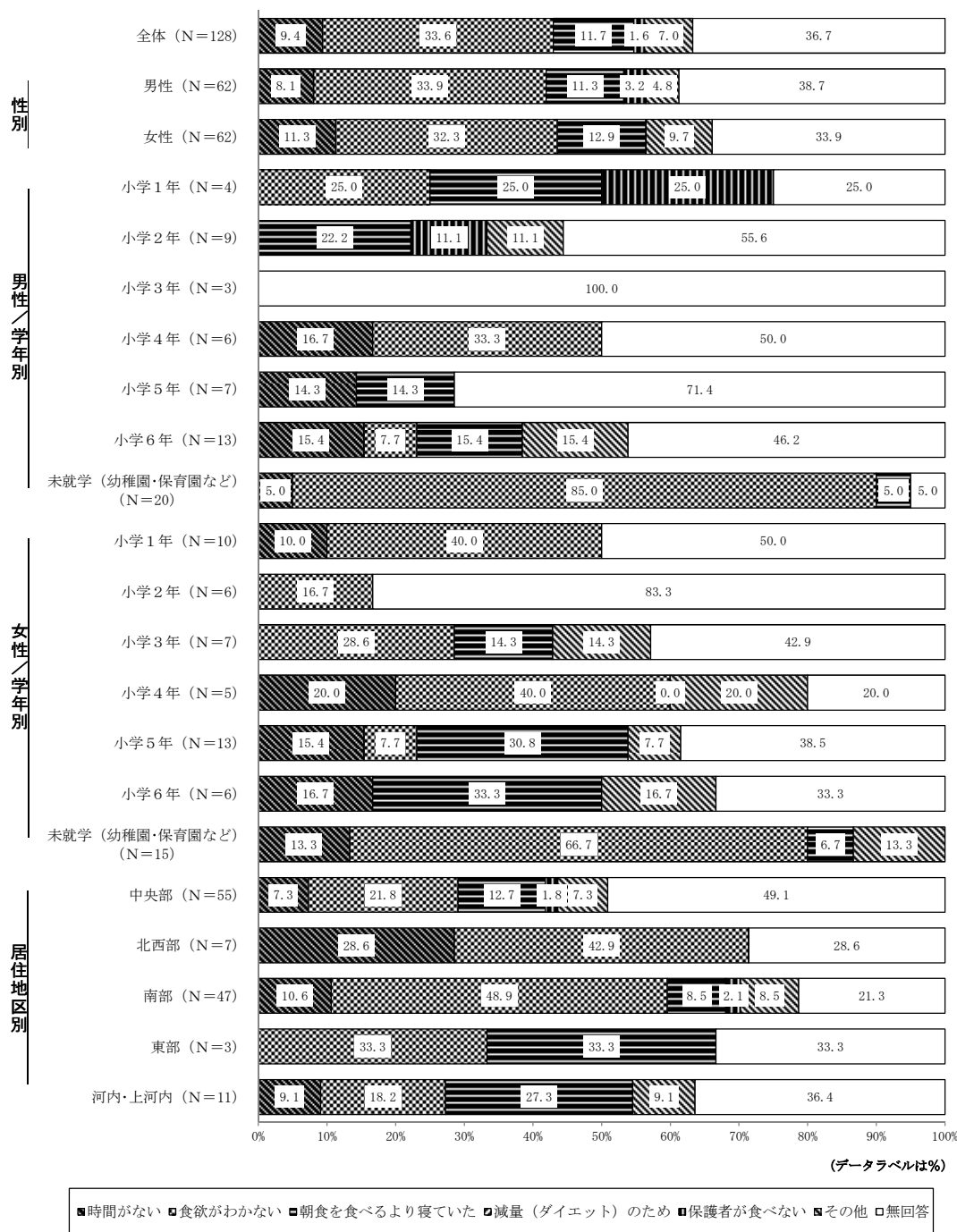
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、「時間がない」、「食欲がわからない」、「朝食を食べるより寝ていたい」、「その他」のいずれも女性の方が高く、男性では「保護者が食べない」(3.2%)がわずかに見られる。

子どもの性・学年別で見ると、未就学では男女とも「食欲がわからない」が高い値を示している。女性の小学5年、小学6年は、「朝食を食べるより寝ていたい」が3割程度となっている。

居住地区別では、ほとんどの地区で「食欲がわからない」が最も多くなっている。(図表Ⅲ－1－6)

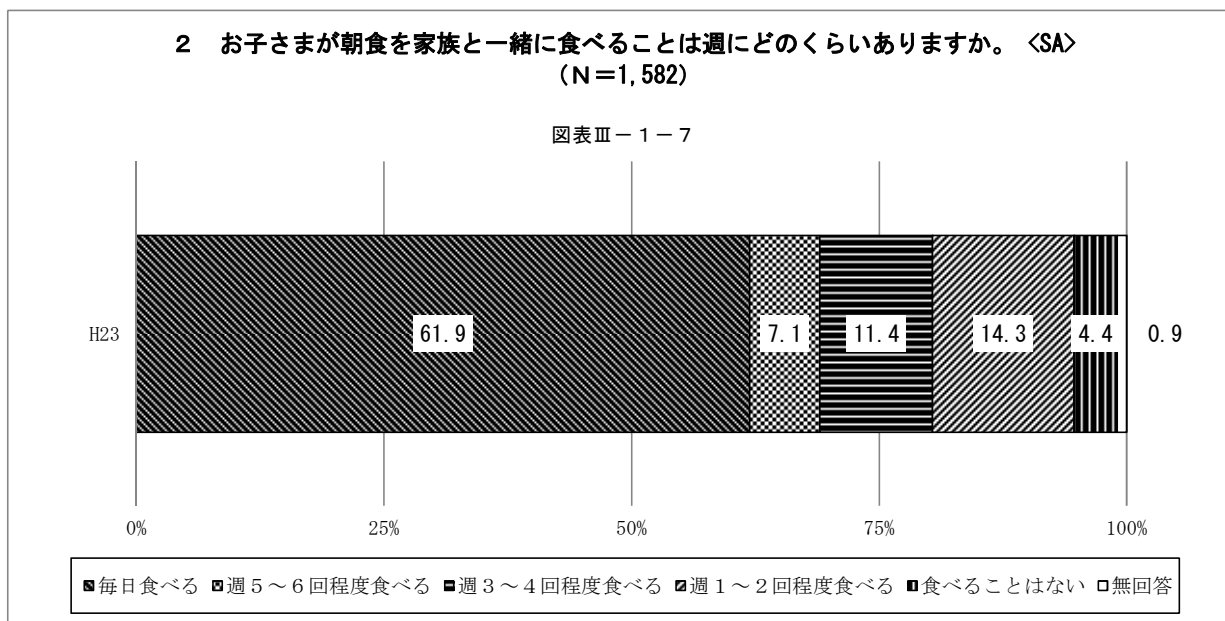
図表Ⅲ－1－6



(2) 家族との朝食（共食）

2 お子さまが朝食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が6割超



子どもが朝食を家族と食べる機会は、「毎日食べる」(61.9%)が6割を超え、以下、「週1～2回程度食べる」(14.3%)、「週3～4回程度食べる」(11.4%)の順となっている。(図表Ⅲ-1-7)

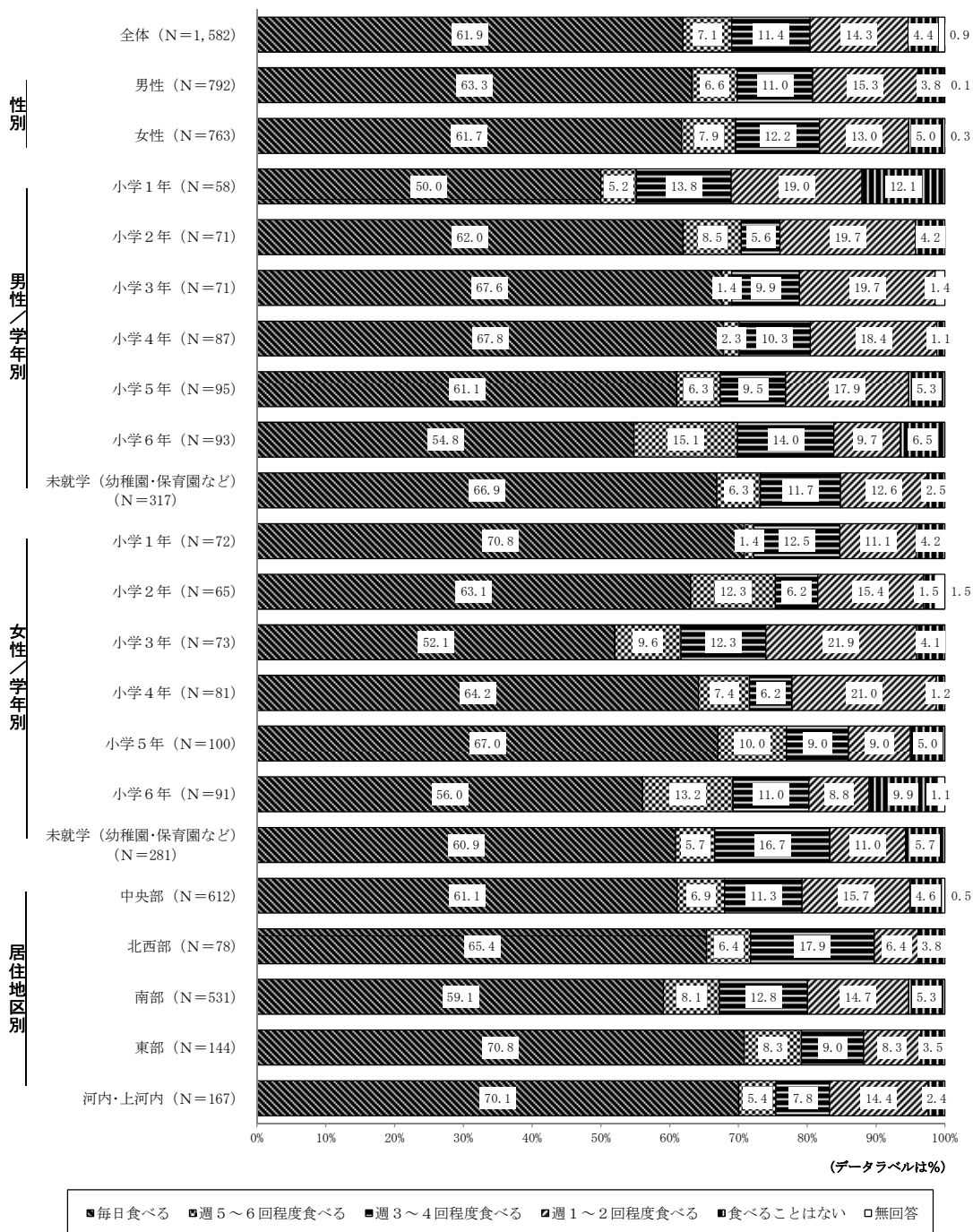
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、「毎日食べる」は、男女とも小学6年の割合が低くなっている。さらに、男性小学1年（50.0%）、女性小学3年（52.1%）においても、5割程度となっている。男性小学1年では、「食べることはない」（12.1%）が1割程度となっている。

居住地区別では、「毎日食べる」は全地区で約60～70%となっている。（図表Ⅲ－1－8）

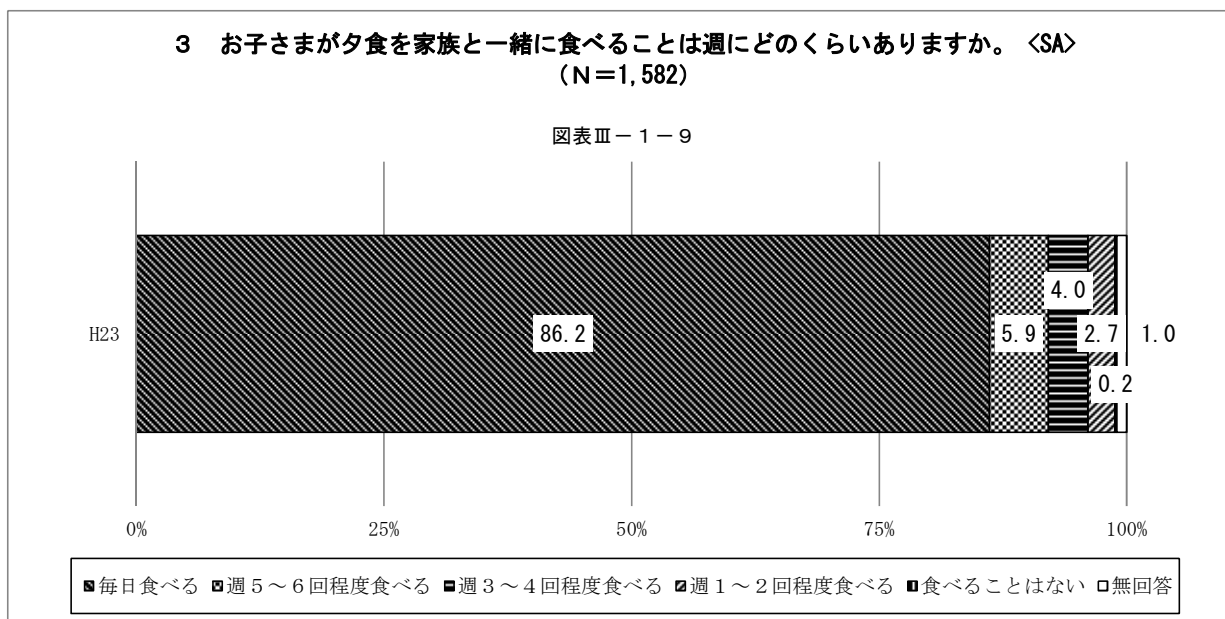
図表Ⅲ－1－8



(3) 家族との夕食（共食）

3 お子さまが夕食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が8割強



子どもが夕食を家族と食べる機会は、「毎日食べる」(86.2%)が8割強と圧倒的に多く、以下、「週5～6回程度食べる」(5.9%)、「週3～4回程度食べる」(4.0%)、の順となっている。「食べることはない」は、0.2%に留まっている。(図表Ⅲ-1-9)

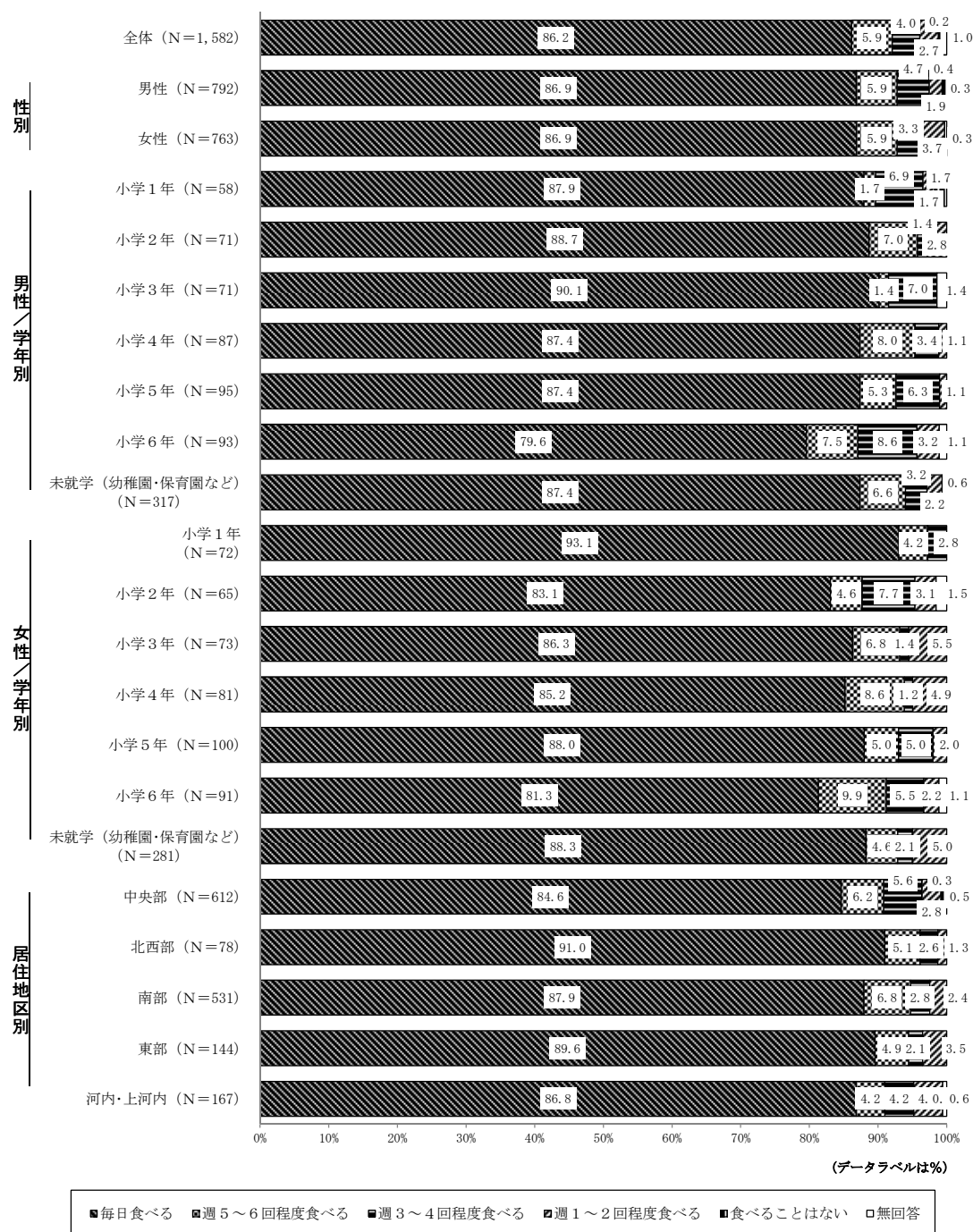
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、「毎日食べる」は男女とも小学6年で約8割となっており、「週5～6回程度食べる」、「週3～4回程度食べる」が他の学年より若干高くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。(図表Ⅲ－1－10)

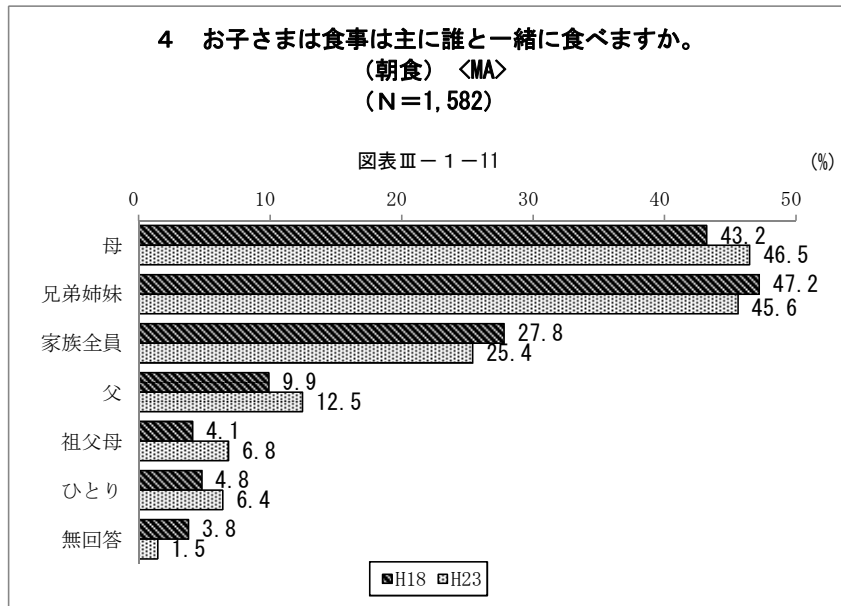
図表Ⅲ－1－10



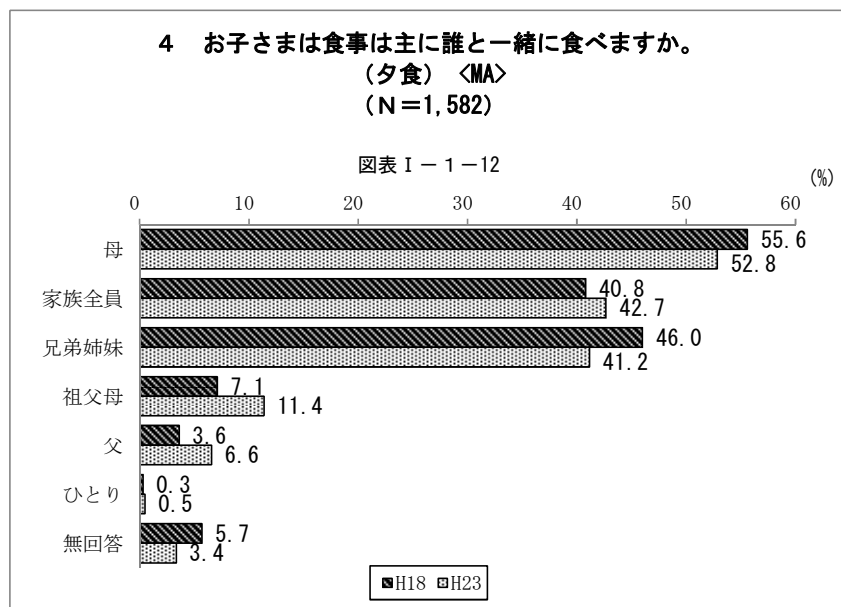
(4) 食事を一緒に食べる人

4 お子さまは食事は主に誰と一緒に食べますか。(朝食・夕食)

◆「母」が朝食、夕食ともに1位



朝食を子どもと共にするのは、平成18年度調査では「兄弟姉妹」が第1位であったが、今回調査では、「母」(46.5%)が4割台で第1位となり、約3%増加している。「家族全員」は、27.8%から25.4%に減少している。(図表Ⅲ-1-11)



夕食の場合も「母」が52.8%で第1位となっている。「家族全員」(42.7%)は、平成18年度調査では第3位であったのに対し、約2%増加し、第2位となっている。また、「祖父母」(11.4%)、「父」(6.6%)も、平成18年度調査から増加している。(図表Ⅲ-1-12)

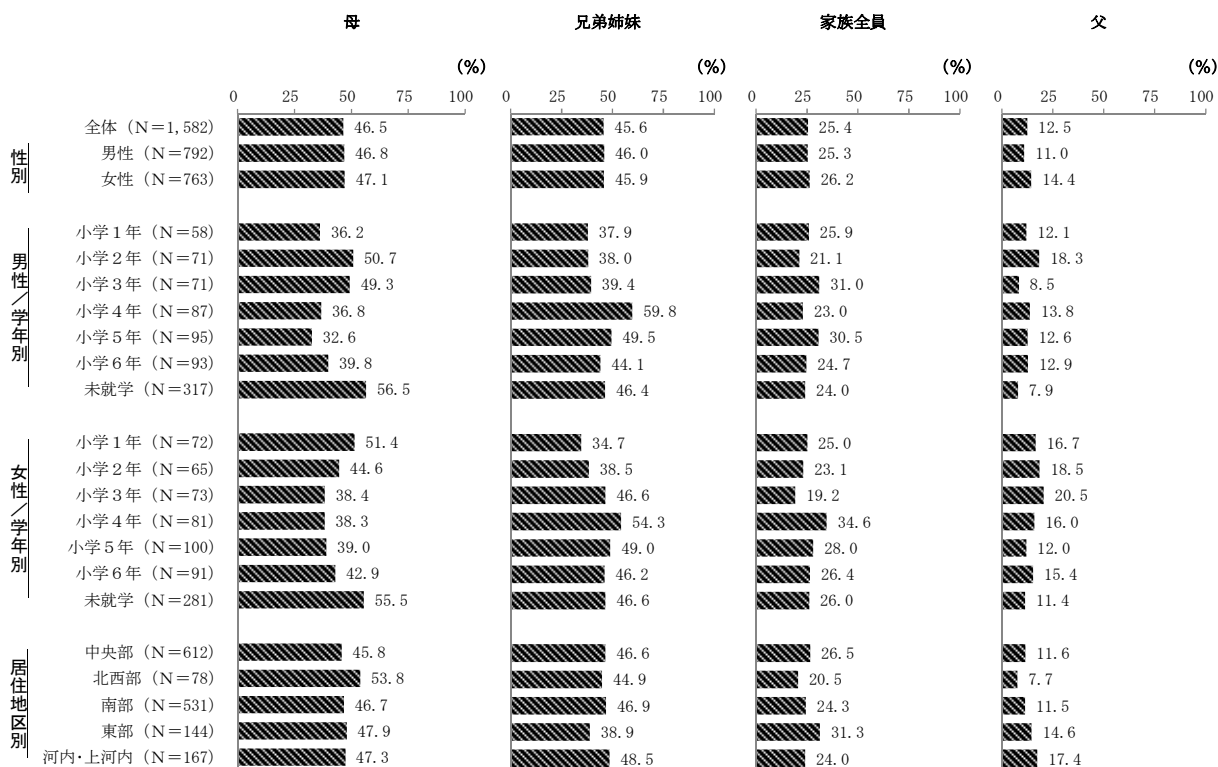
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、「母」は、未就学の男女、女性小学1年が高くなっている。「兄弟姉妹」では、男女とも小学4年の割合が高くなっており、5割を超えている。

居住地区別では、「東部」は、「兄弟姉妹」(38.9%)が他地区に比べ低くなっている一方で、「家族全員」(31.3%)が3割台となっている。(図表Ⅲ-1-13)

図表Ⅲ-1-13 (朝食)

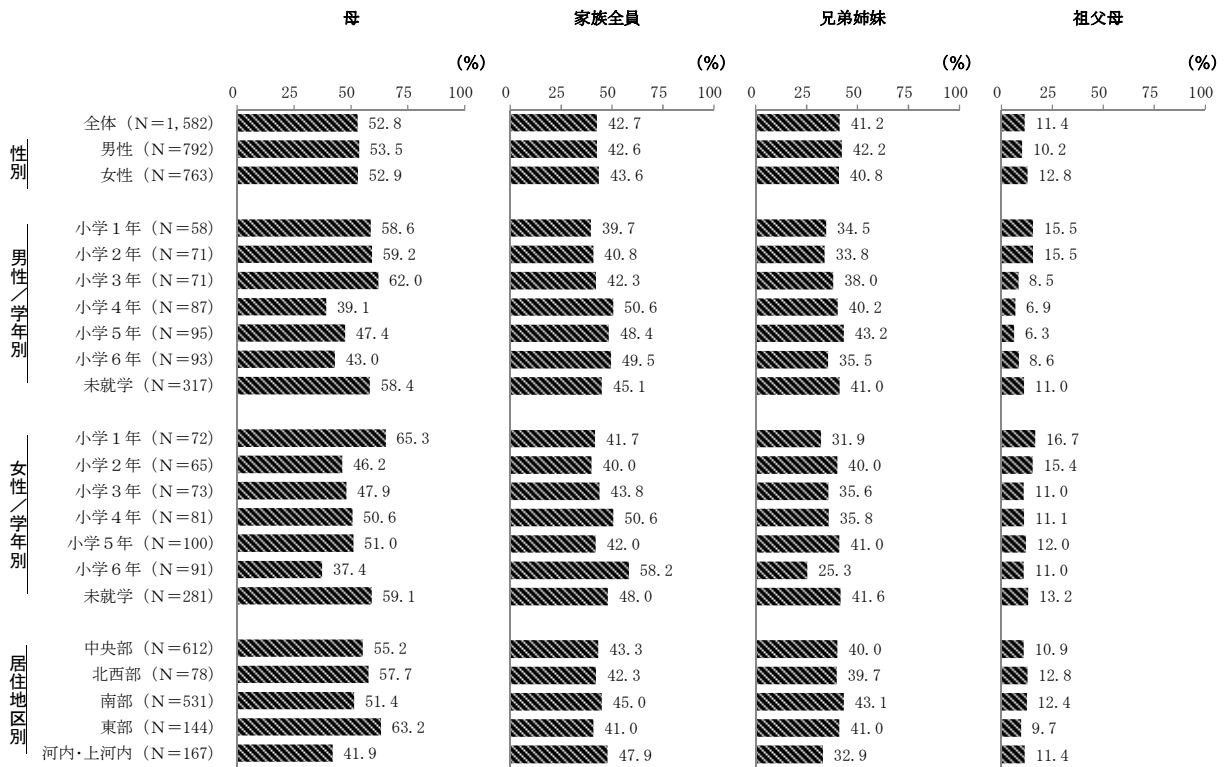


子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、「母」は、男性小学1年から小学3年では約6割であるのに対し、男性小学4年から半減し、4割程度となっている。

居住地区別では、「母」は、「河内・上河内」では4割台と、他地区に比べ低くなっている。(図表Ⅲ-1-14)

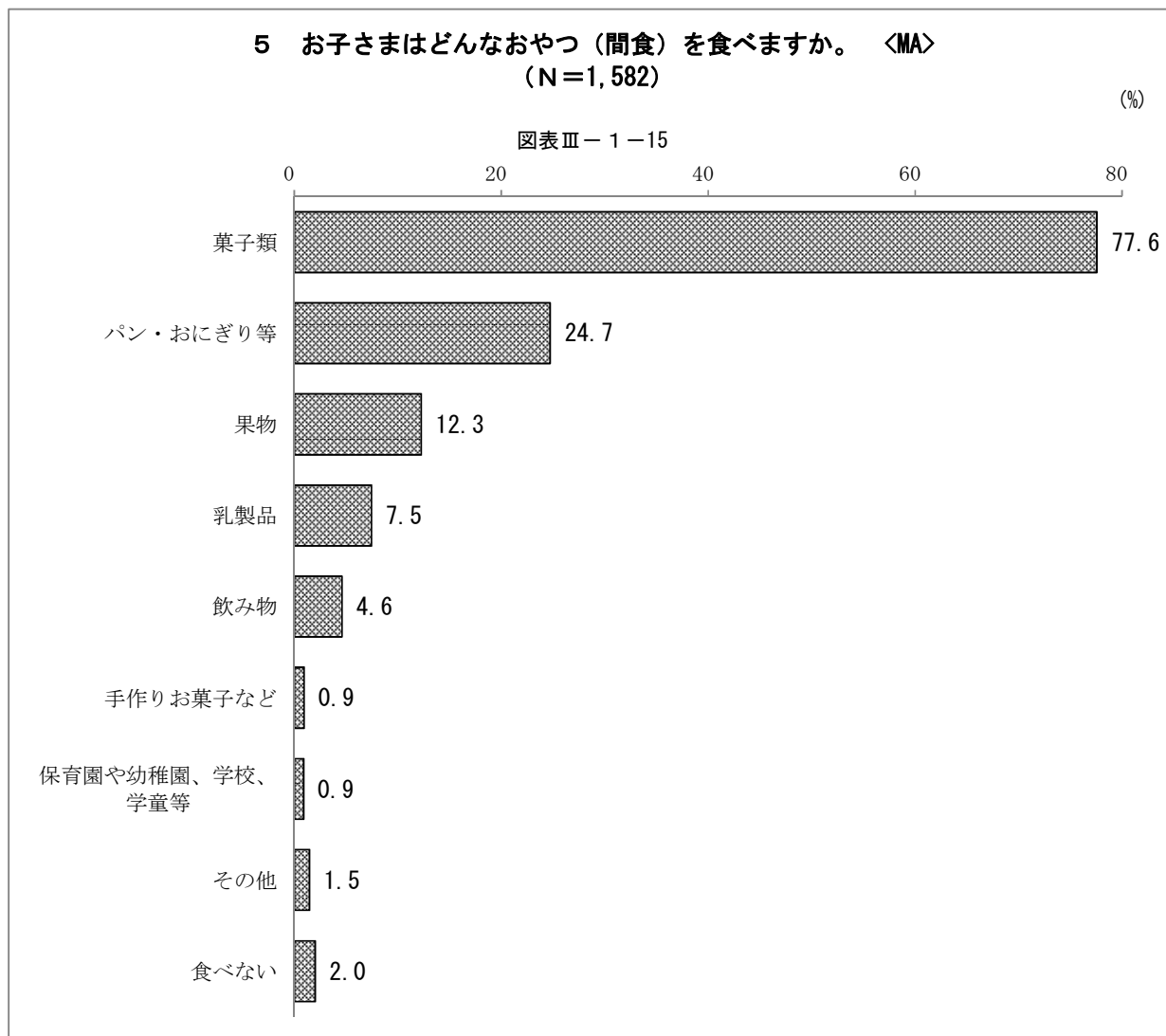
図表Ⅲ-1-14 (夕食)



(5) おやつの内容 (記述回答)

5 お子さまがどんなおやつ (間食) を食べますか。

◆「菓子類」が8割近く

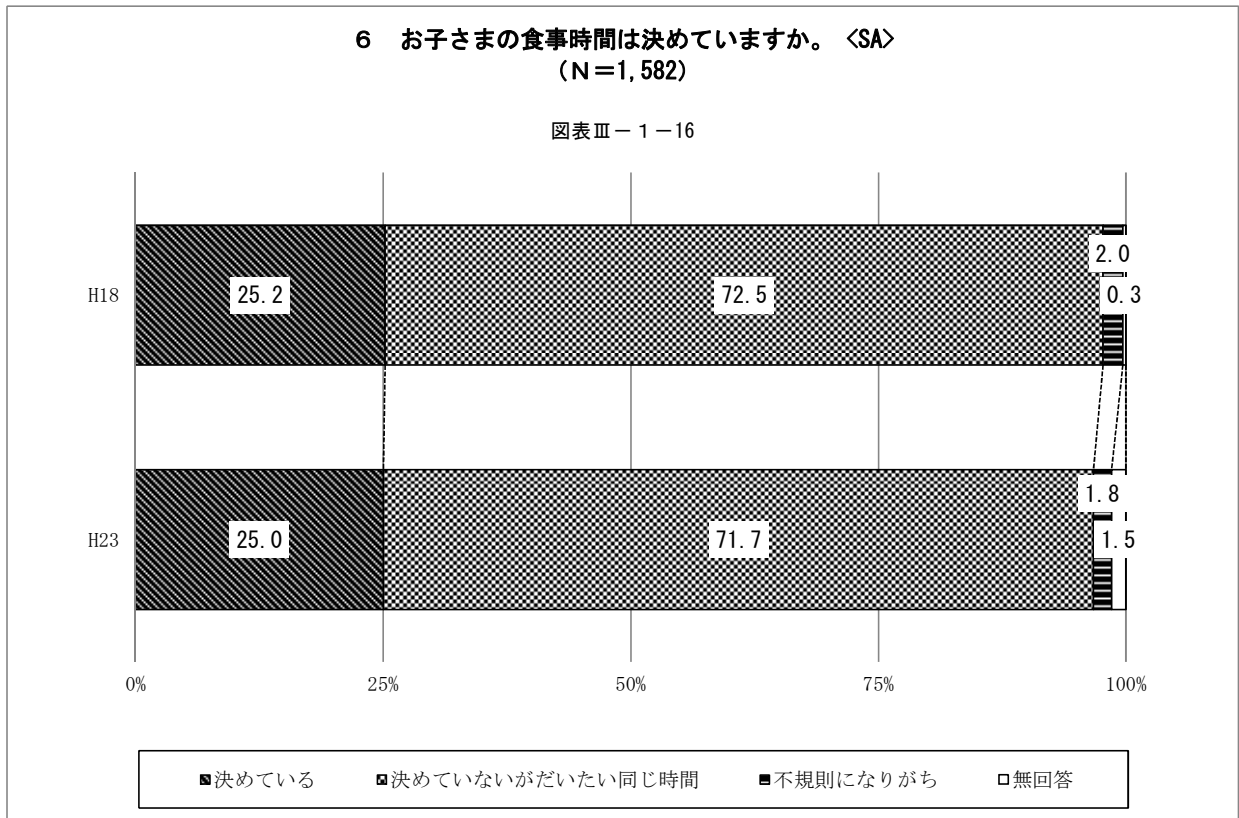


おやつ (間食) に食べるものは、「菓子類」(77.6%) が圧倒的に多く 8割近くを占めている。次いで、「パン・おにぎり」(24.7%)、「果物」(12.3%) の順となっている。(図表Ⅲ-1-15)

(6) 食事の時刻

6 お子さまの食事の時間は決めていますか。

◆7割以上が「決めていないがだいたい同じ時間」



食事の時間は、「決めていないがだいたい同じ時間」(71.7%)が7割以上を占めており、全体的に平成18年度調査か横ばいとなっている。(図表Ⅲ-1-16)

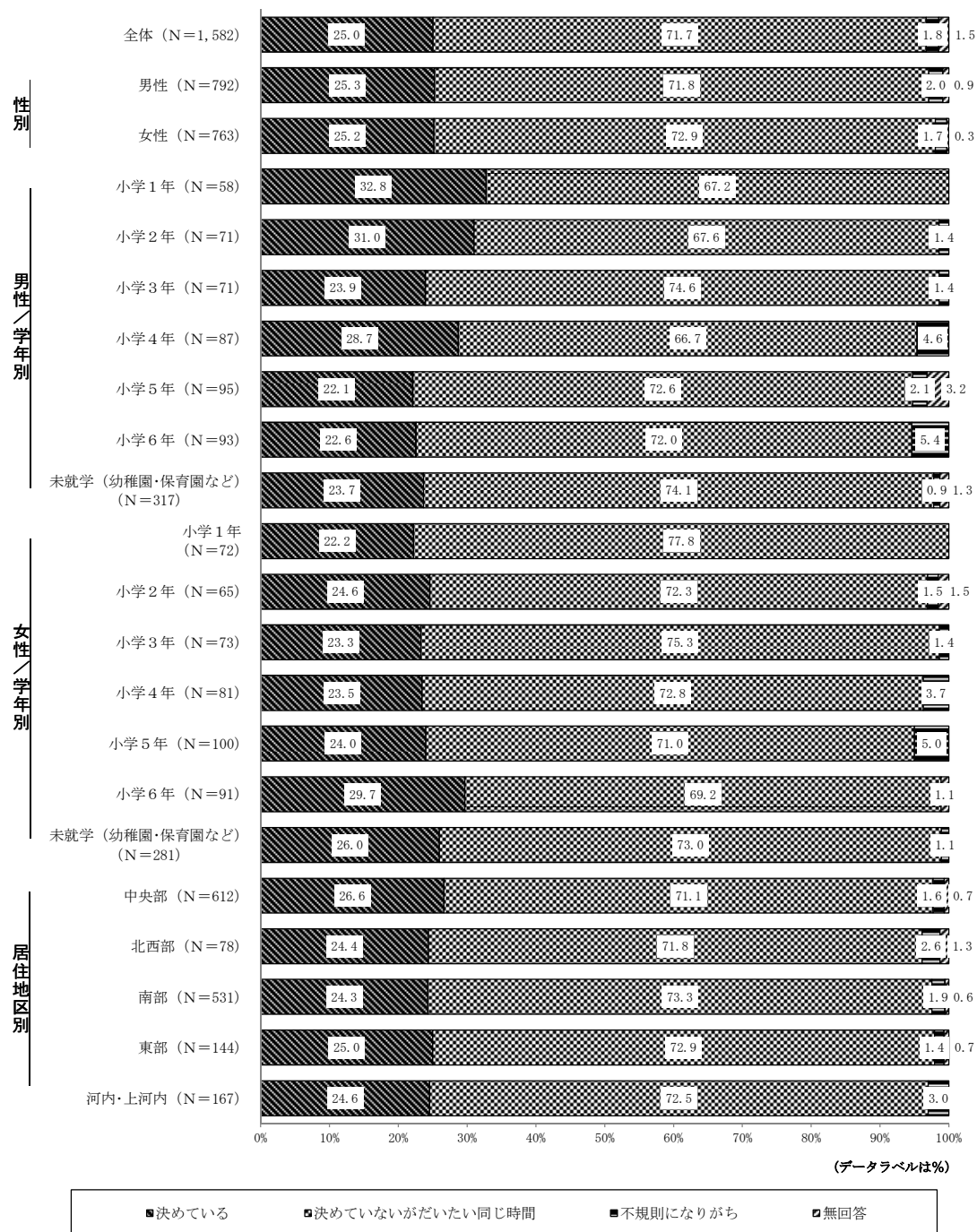
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別を見ると、男女ともに「決めていないがだいたい同じ時間」が7割前後となっているが、男性小学1年（32.8%）、男性小学2年（31.0%）は「決めている」が3割台となっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－17）

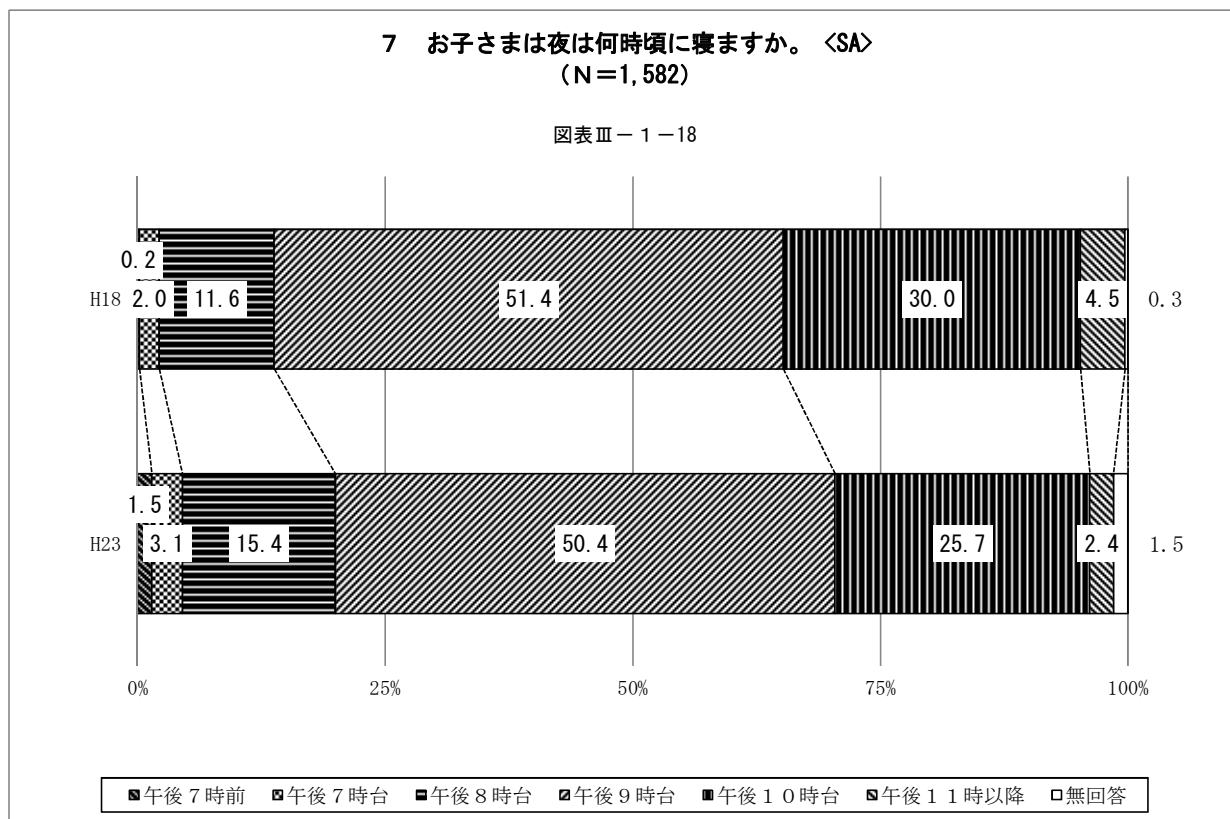
図表Ⅲ－1－17



(7) 就寝時刻

7 お子さまは夜は何時頃に寝ますか。

◆「午後9時台」が約半数



就寝時刻は、「午後9時台」(50.4%)が過半数を占めている。平成18年度調査と比べると、「午後8時台」(15.4%)が若干増加し、「夜10時台」(25.7%)、「夜11時以降」(2.4%)が減少している。(図表Ⅲ-1-18)

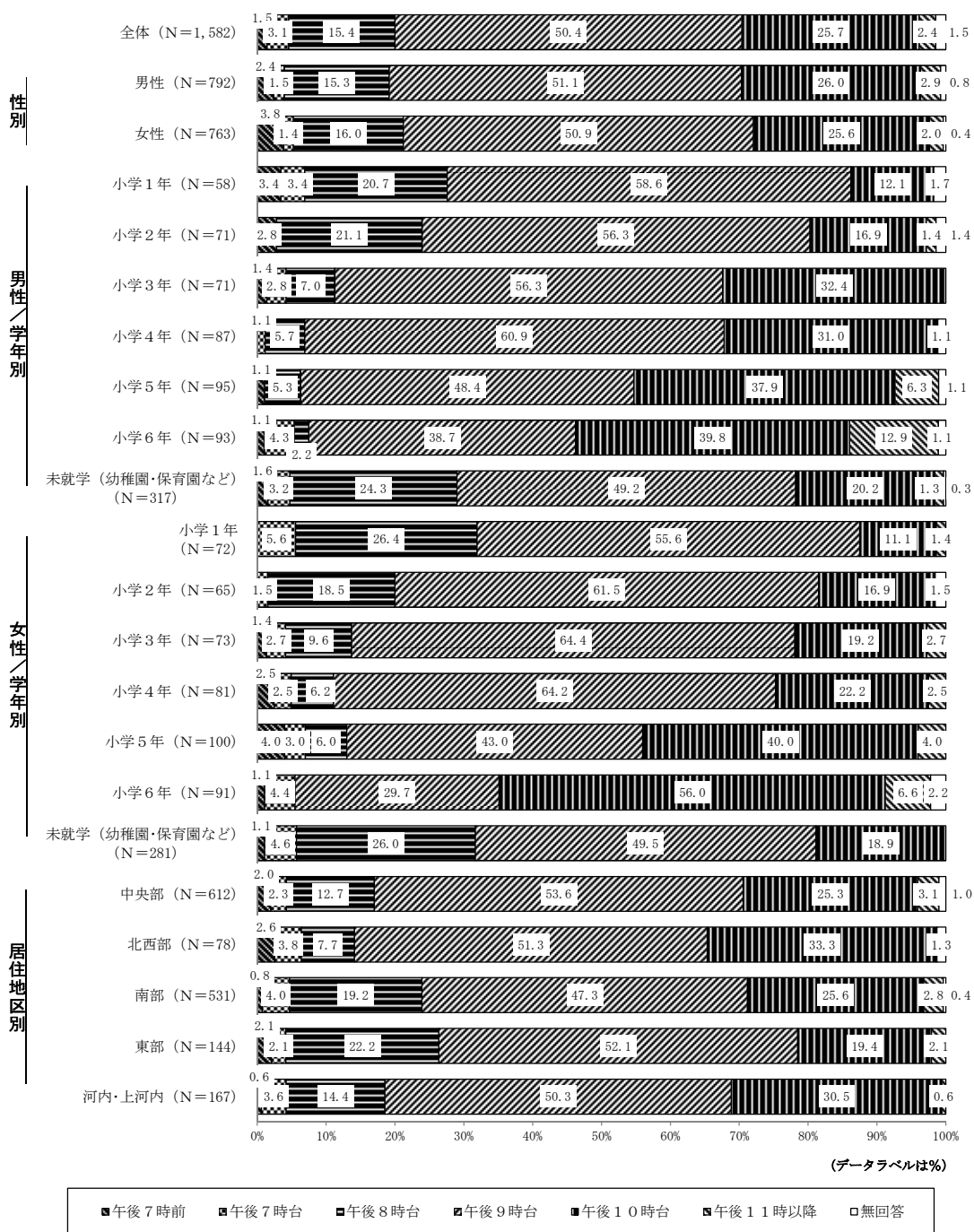
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別を見ると、男女とも、小学2年以下は「午後8時台」が2割台となっており、学年が上がるに従い、「午後10時台」が増加する。中でも、女性小学6年は「午後10時台」(56.0%)が5割を超えている。

居住地区別では、全地区で「午後9時台」が5割前後となっているが、「北西部」と「河内・上河内」で「午後10時台」が3割を超えている。(図表Ⅲ-1-19)

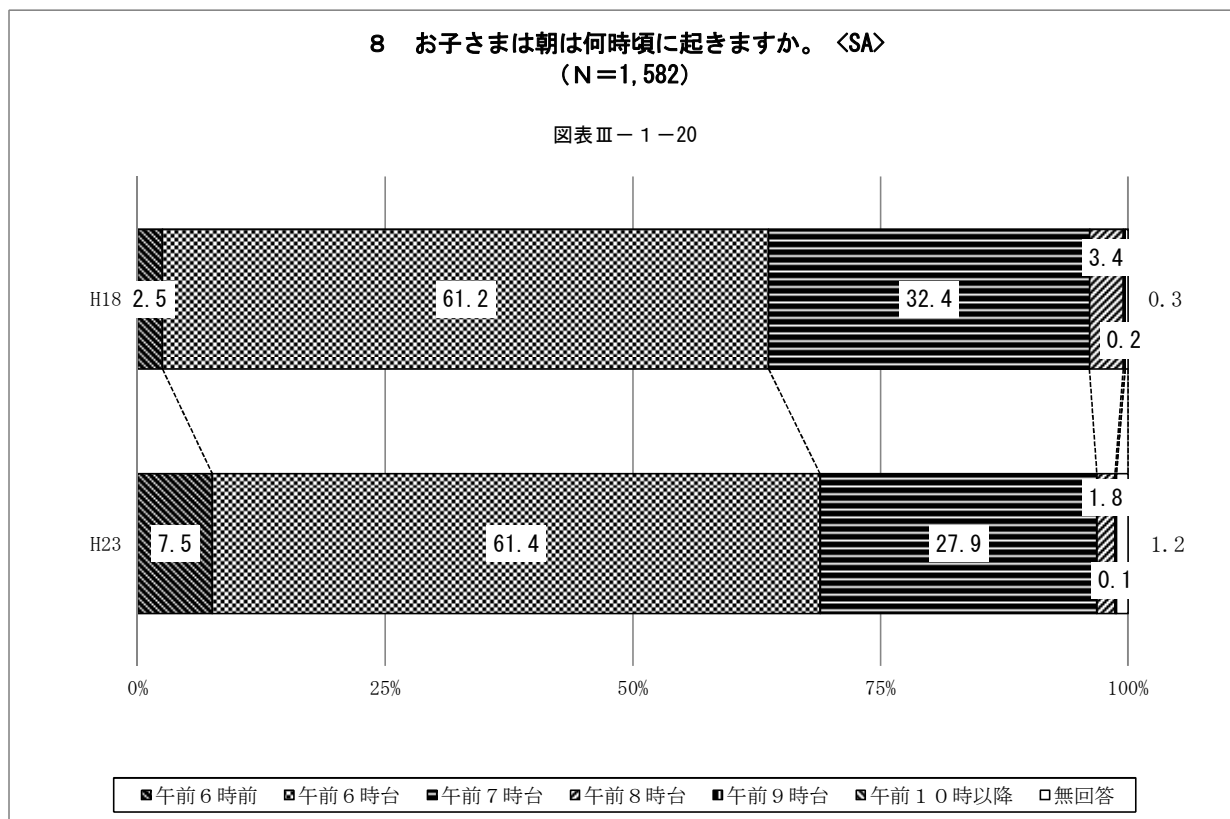
図表Ⅲ-1-19



(8) 起床時刻

8 お子さまは朝は何時頃に起きますか。

◆「午前6時台」が6割



起床時刻は、「午前6時台」(61.4%)が6割を占め、次いで「午前7時台」(27.9%)となっている。平成18年度調査と比べると、「午前6時前」が2.5%から7.5%に増加している一方、「午前8時台」が32.4%から27.9%に減少している。(図表Ⅲ-1-20)

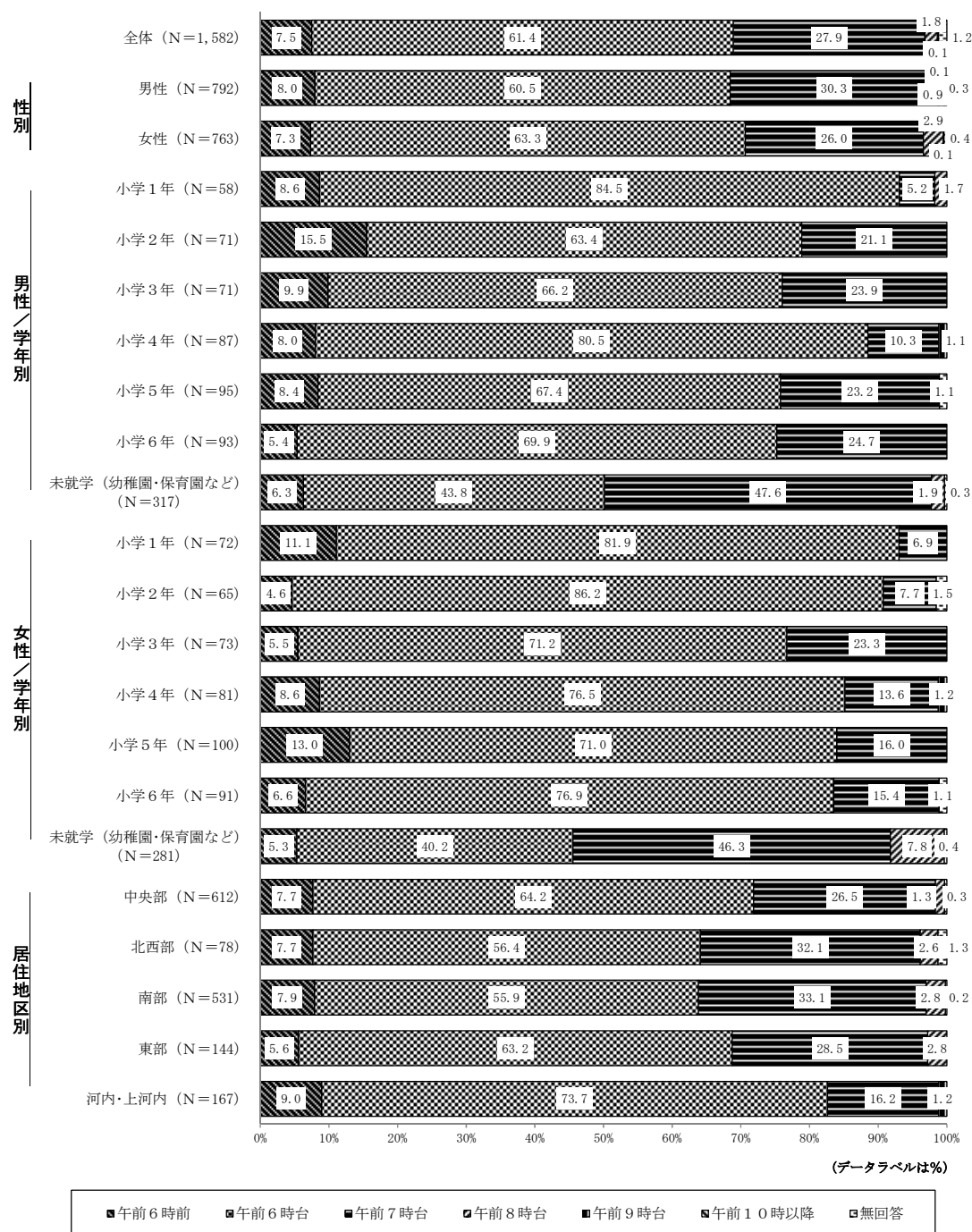
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別は、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、未就学で「午前7時台」が男女とも高く、4割台半ばとなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「午前6時台」(73.7%)が7割を超えており、「北西部」、
「南部」では「午前7時台」が3割を超えている。(図表Ⅲ-1-21)

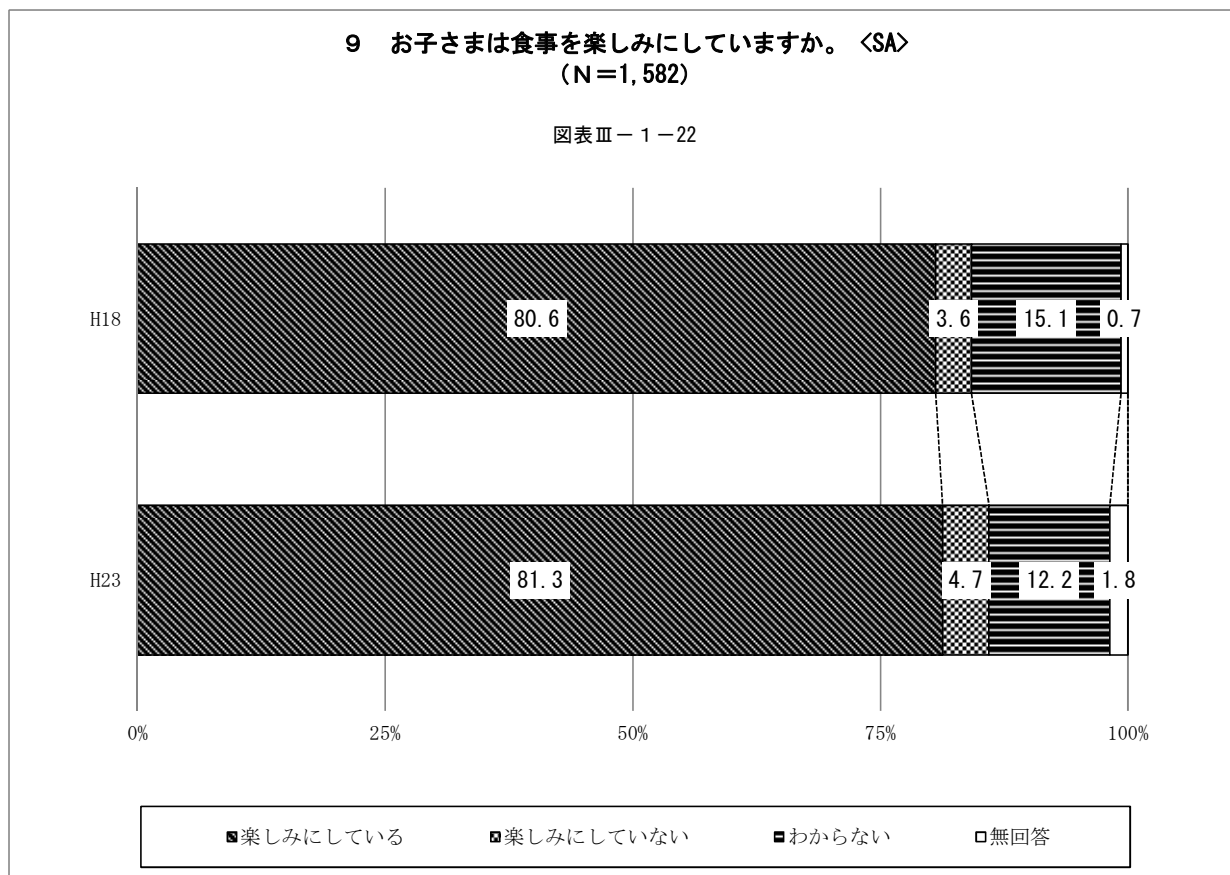
図表Ⅲ-1-21



(9) 食事の楽しみ

9 お子さまは食事を楽しみにしていますか。

◆8割超が「楽しみにしている」



食事を楽しみにしているかどうかは、「楽しみにしている」(81.3%)が8割を占め、「わからない」(12.2%)が1割弱となっている。「楽しみにしていない」は4.7%と低い値を示しているが、平成18年度調査と比べ、約1%増加している。(図表Ⅲ-1-22)

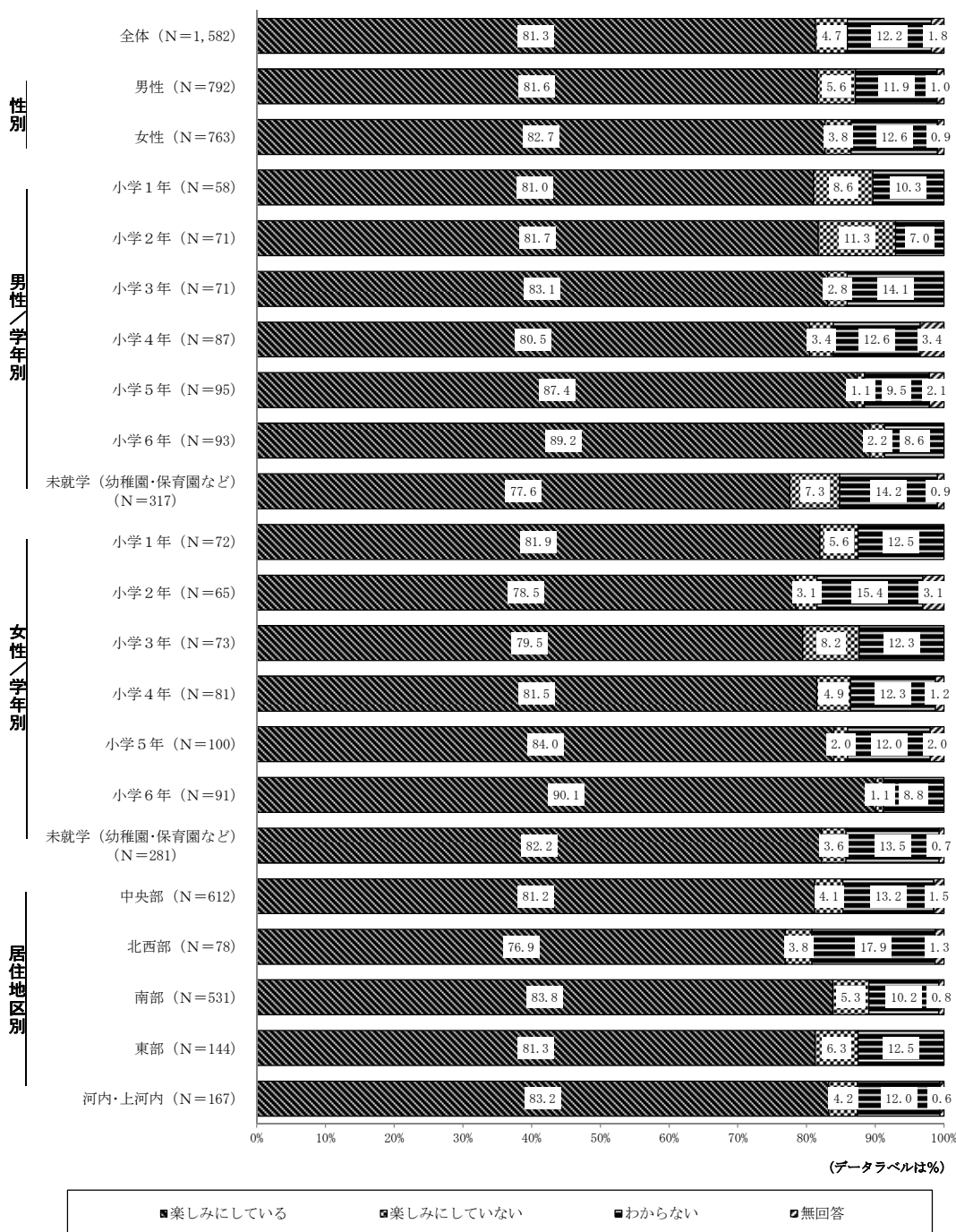
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別は、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、全学年で「楽しみにしている」が7割台後半から9割を占めているが、男性小学2年（11.3%）は「楽しみにしていない」が1割見られる。

居住地区別は、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－23）

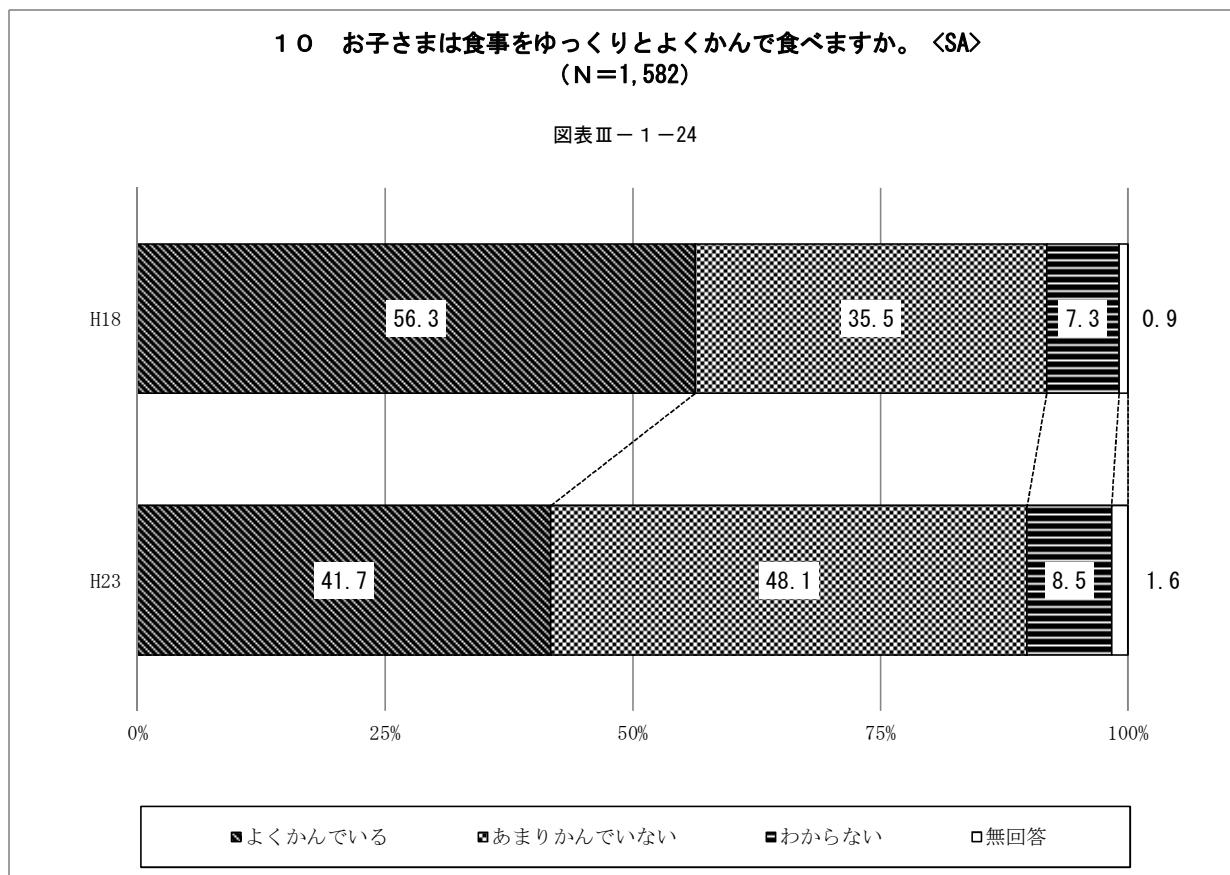
図表Ⅲ－1－23



(10) 咀嚼

10 お子さまは食事をゆっくりとよくかんで食べますか。

◆「あまりかんでいない」が増加



食事の咀嚼に関しては、平成18年度調査では「よくかんでいる」が56.3%で過半数を占めていたのに対し、今回調査では、「あまりかんでいない」(48.1%)が約13%増加し、4割台となっている。「よくかんでいる」は、平成18年度調査では56.3%であったのに対し、今回調査では41.7%となっている。(図表Ⅲ-1-24)

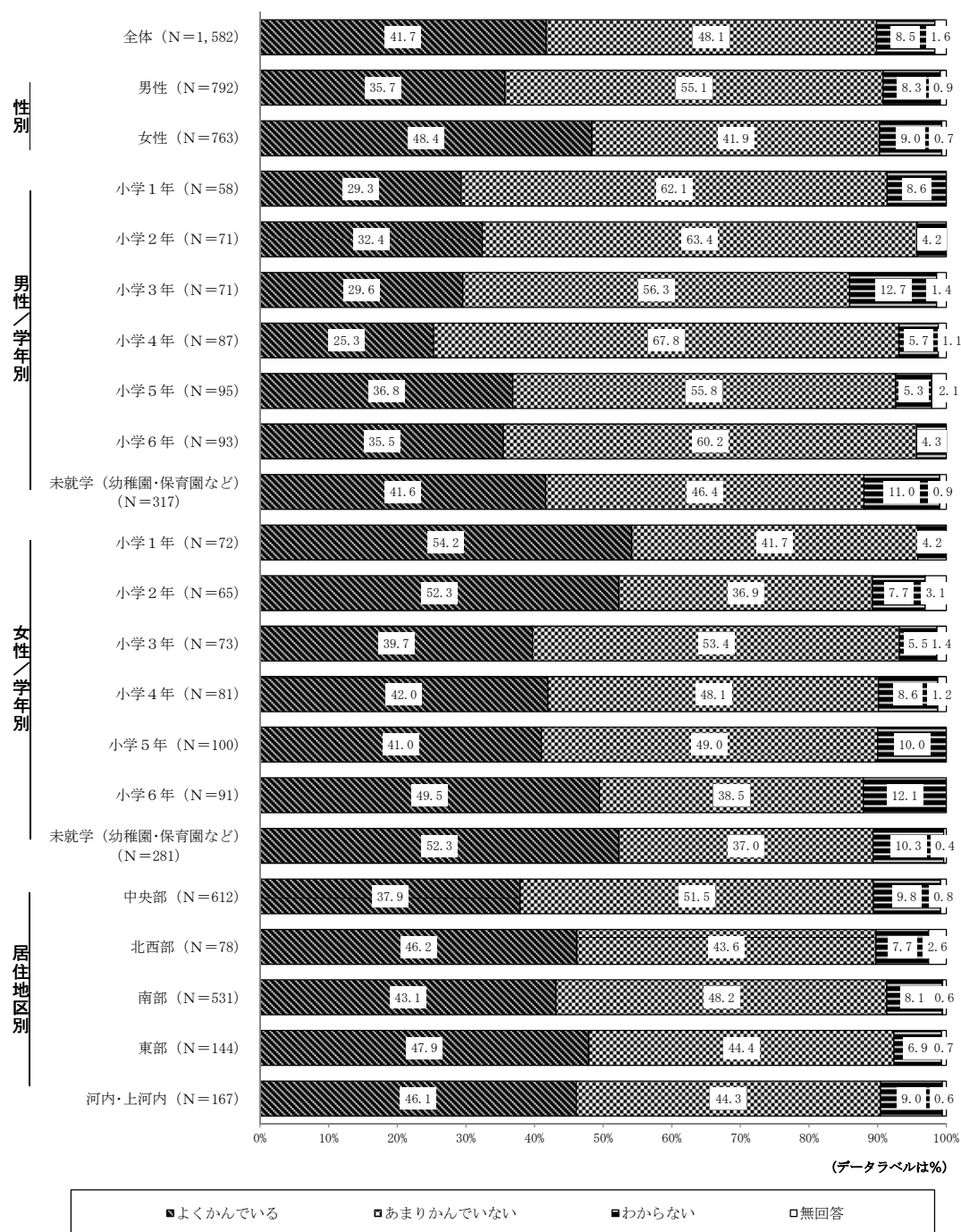
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、「よくかんでいる」割合は、女性（48.4%）が男性（35.7%）より約13%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男性の全学年で「あまりかんでいない」が4割台半ばから6割を超えているのに対し、女性では、小学1年（54.2%）、小学2年（52.9%）小学6年（49.5%）、未就学（52.3%）では、「よくかんでいる」が5割前後となっており、「あまりかんでいない」を上回っている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－25）

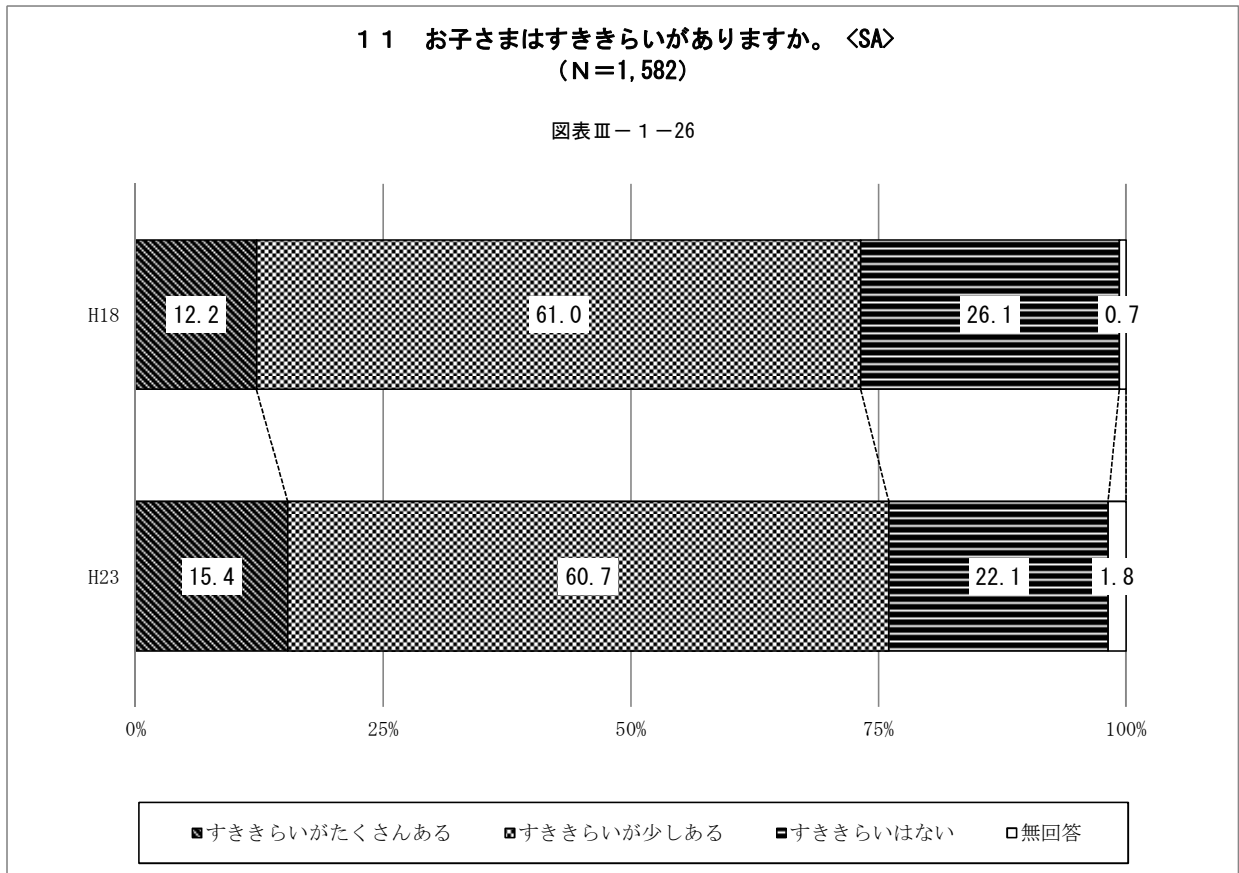
図表Ⅲ－1－25



(11) 好き嫌い

11 お子さまはすききらいがありますか。

◆「すききらいがある」が増加



好き嫌いに関しては、「すききらいがある」（「すききらいがたくさんある」（15.4%）と「すききらいが少しある」（60.7%）の合計）が76.1%となっており、平成18年度調査から約3%増加し、「すききらいはない」（22.1%）は微減となっている。（図表Ⅲ-1-26）

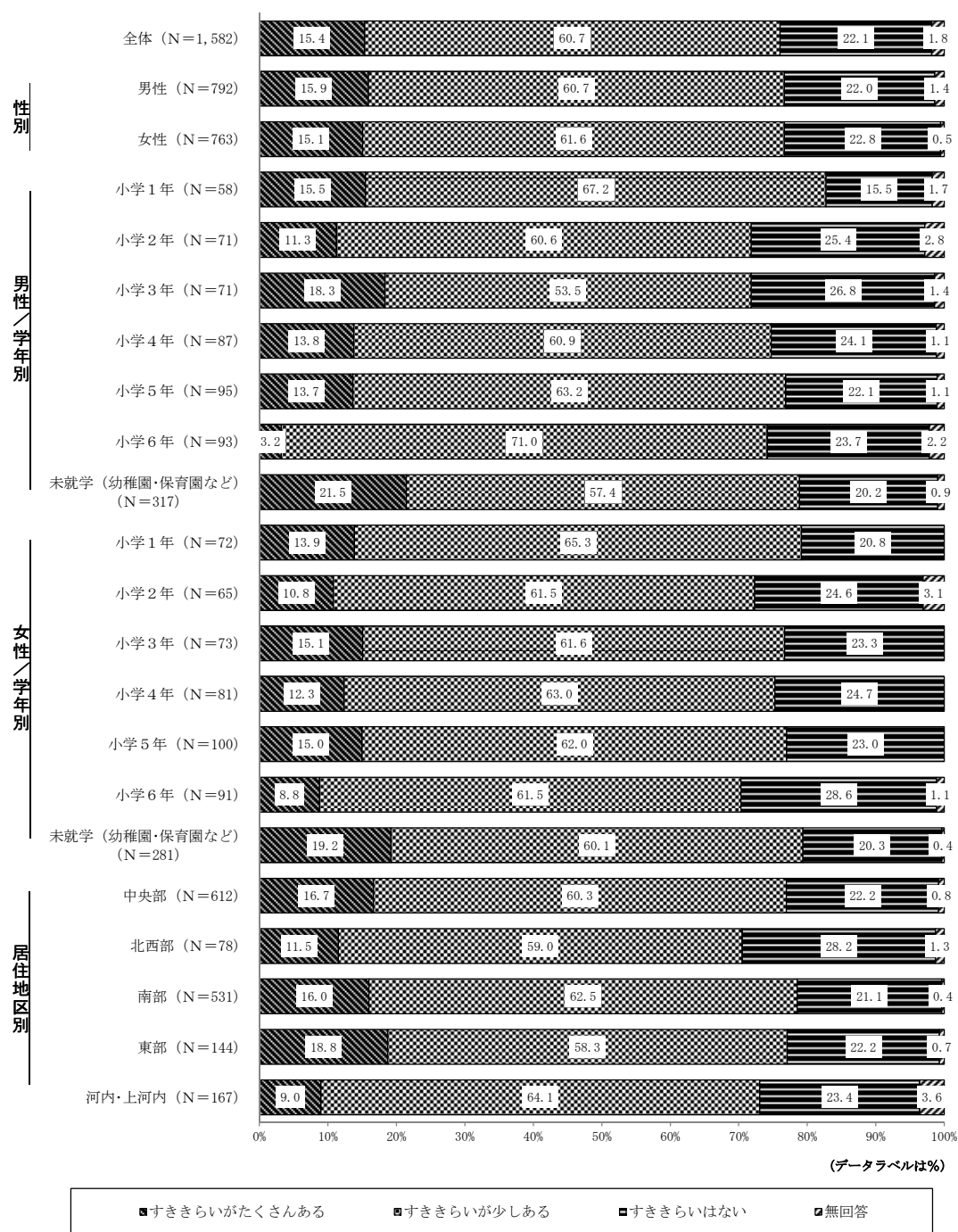
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別は、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「すききらいがたくさんある」割合は、男性未就学（21.5%）、女性未就学（19.2%）、男性小学3年（18.3%）で2割前後見られる。一方で、小学6年男女とも、比較的好き嫌いは少なく、男性小学6年では、「すききらいがたくさんある」は3.2%に留まっている。

居住地区別では、「河内・上河内」では「すききらいがたくさんある」は9.0%と低く、また、「北西部」では「すききらいはない」（28.2%）が3割近くを占めている。（図表Ⅲ－1－27）

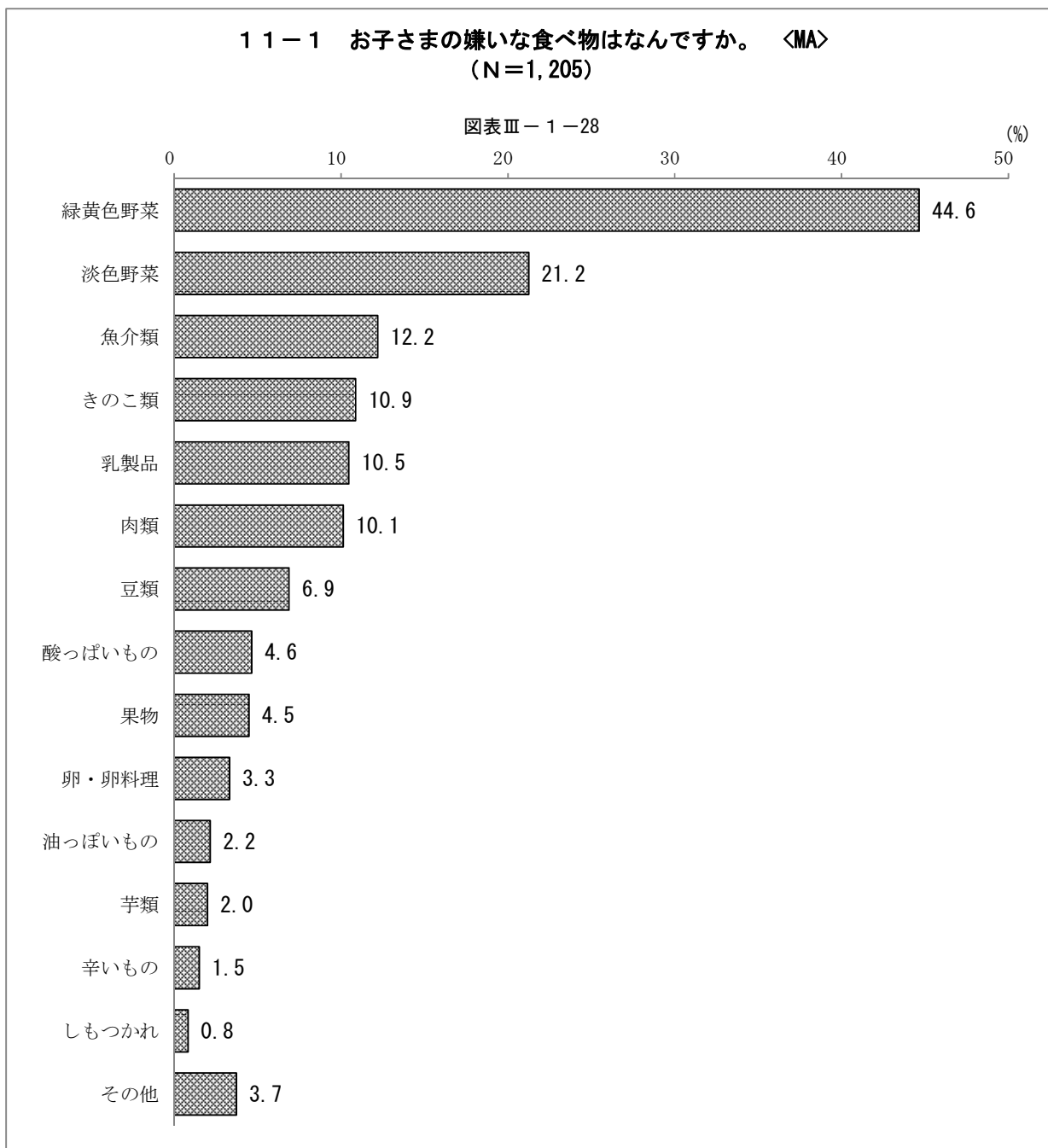
図表Ⅲ－1－27



(11-1) 嫌いな食べ物 (記述回答)

11-1 お子さまの好きな食べ物は何か。

◆「緑黄色野菜」が半数近く

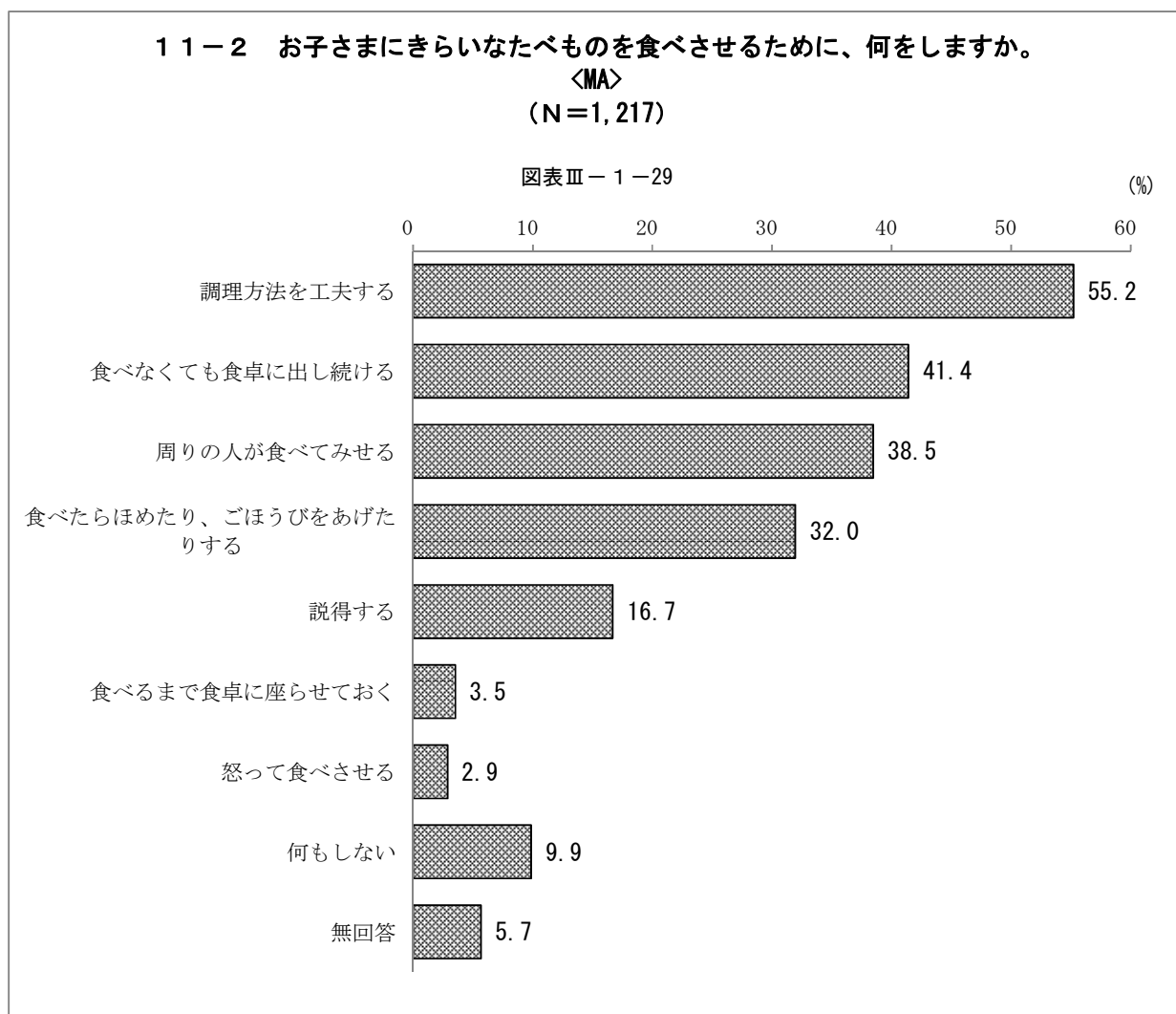


「嫌いな食べ物」は、「緑黄色野菜」(44.6%)が圧倒的に多くなっている。次いで、「淡色野菜」(21.2%)、「魚介類」(12.2%)、「きのこ類」(10.9%)の順となっている。(図表Ⅲ-1-28)

(11-2) 嫌いなものを食べさせる工夫

11-2 お子さまにきらいな食べものを食べさせるために、何をしますか。

◆「調理方法を工夫する」が5割台半ば



嫌いなものを食べさせる工夫は、「調理方法を工夫する」(55.2%)が最も多く、以下、「食べなくても食卓に出し続ける」(41.4%)、「周りの人が食べてみせる」(38.5%)、「食べたらほめたり、ごほうびをあげたりする」(32.0%)の順となっている。(図表Ⅲ-1-29)

【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

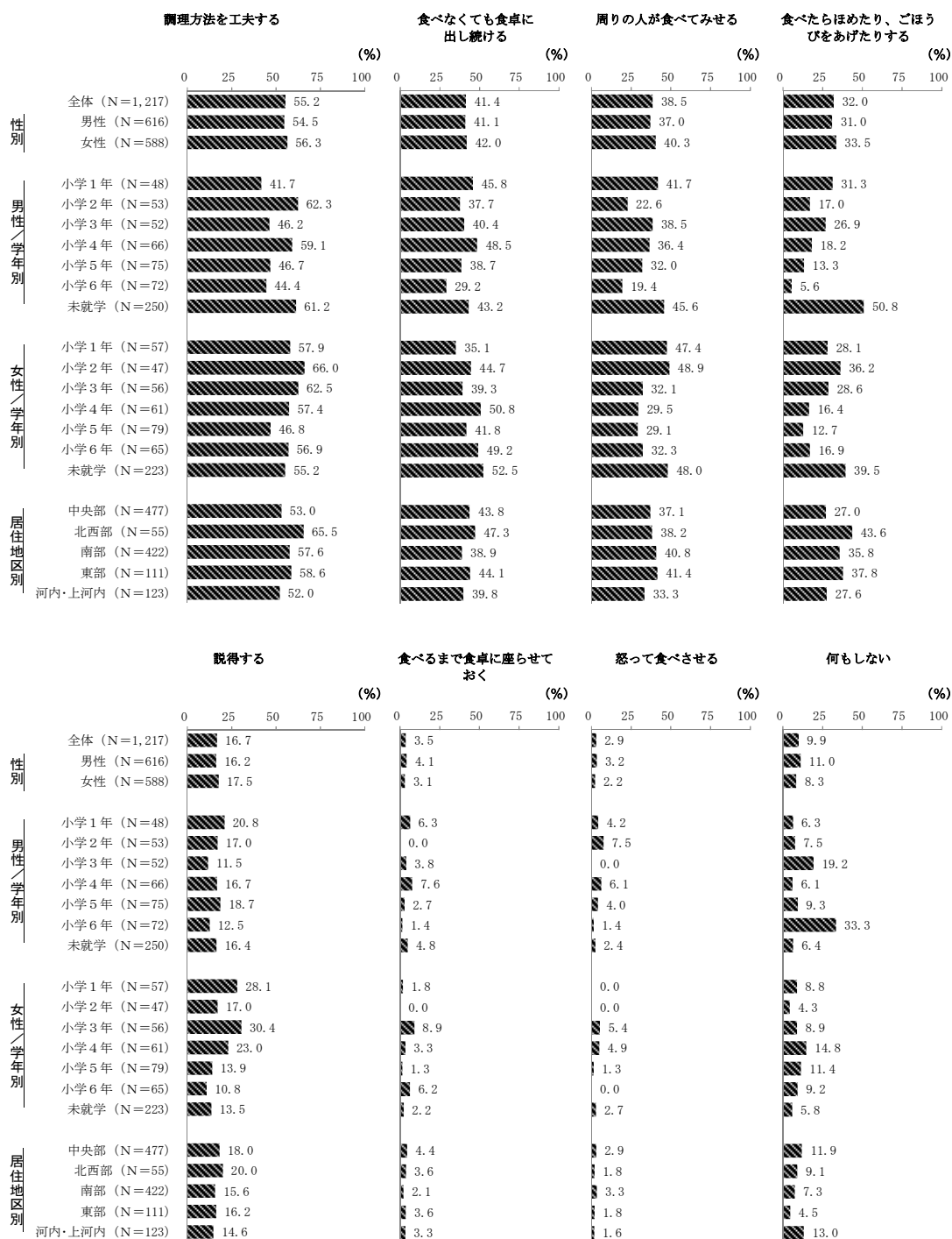
子どもの性別は、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「調理方法を工夫する」割合は、女性の方が男性より若干高くなっている。また、未就学では、「周りの人が食べてみせる」、「食べたらほめたり、ごほうびをあげたりする」の割合が、他の学年より比較的高くなっている。

居住地区別で見ると、「北西部」では、「調理方法を工夫する」(65.5%)が6割台半ば、「食べたらほめたり、ごほうびをあげたりする」(43.6%)が4割強で、他地区よりもやや高くなっている。

(図表Ⅲ－1－30)

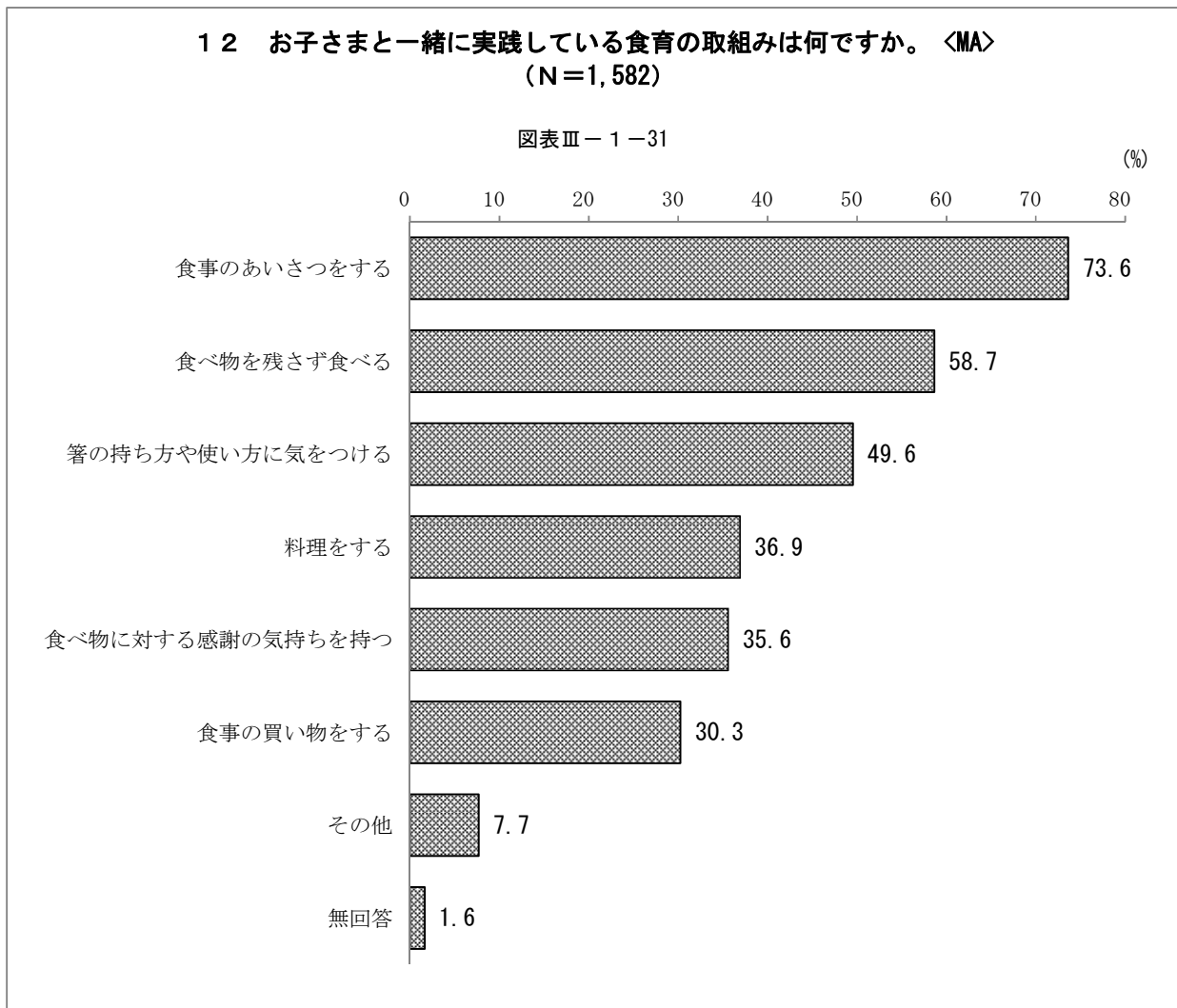
図表Ⅲ－1－30



(12) 実践している食育

12 お子さまと一緒に実践している食育の取組は何ですか。

◆「食事のあいさつをする」が7割超



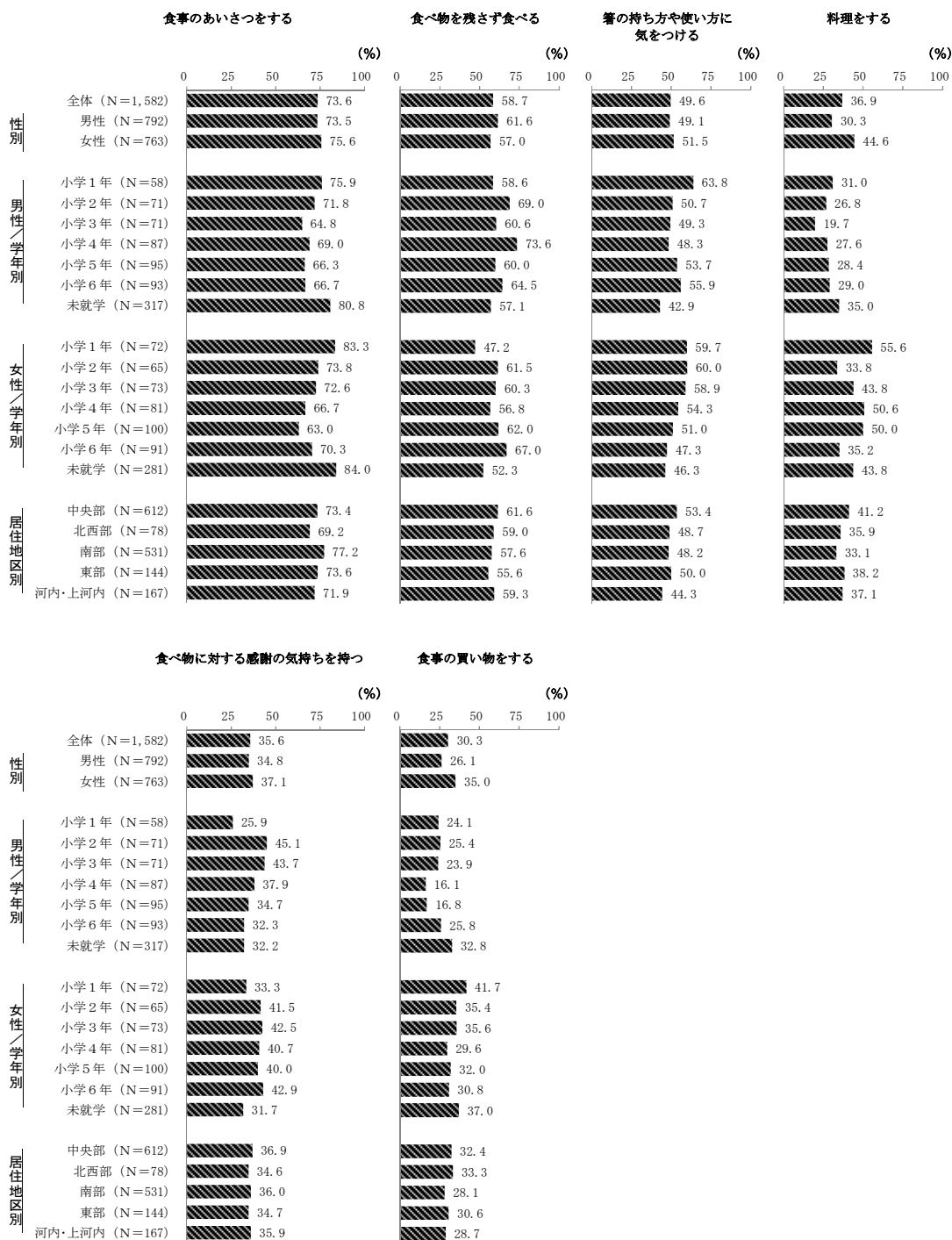
子どもと一緒に実践している食育の取組は、「食事のあいさつをする」(73.6%)が7割超で最も多く、以下、「食べ物を残さず食べる」(58.7%)、「箸の持ち方や使い方に気をつける」(49.6%)の順となっている。(図表Ⅲ-1-31)

【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別を見ると、上位4項目では大きな開きはないが、「料理をする」割合は、女性(44.6%)が男性(30.3%)より約14%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男性小学1年で、「箸の持ち方や使い方に気をつける」(63.8%)が6割半ばとなっており、他の学年より高くなっている。また、女性の全学年では、(図表Ⅲ-1-32)

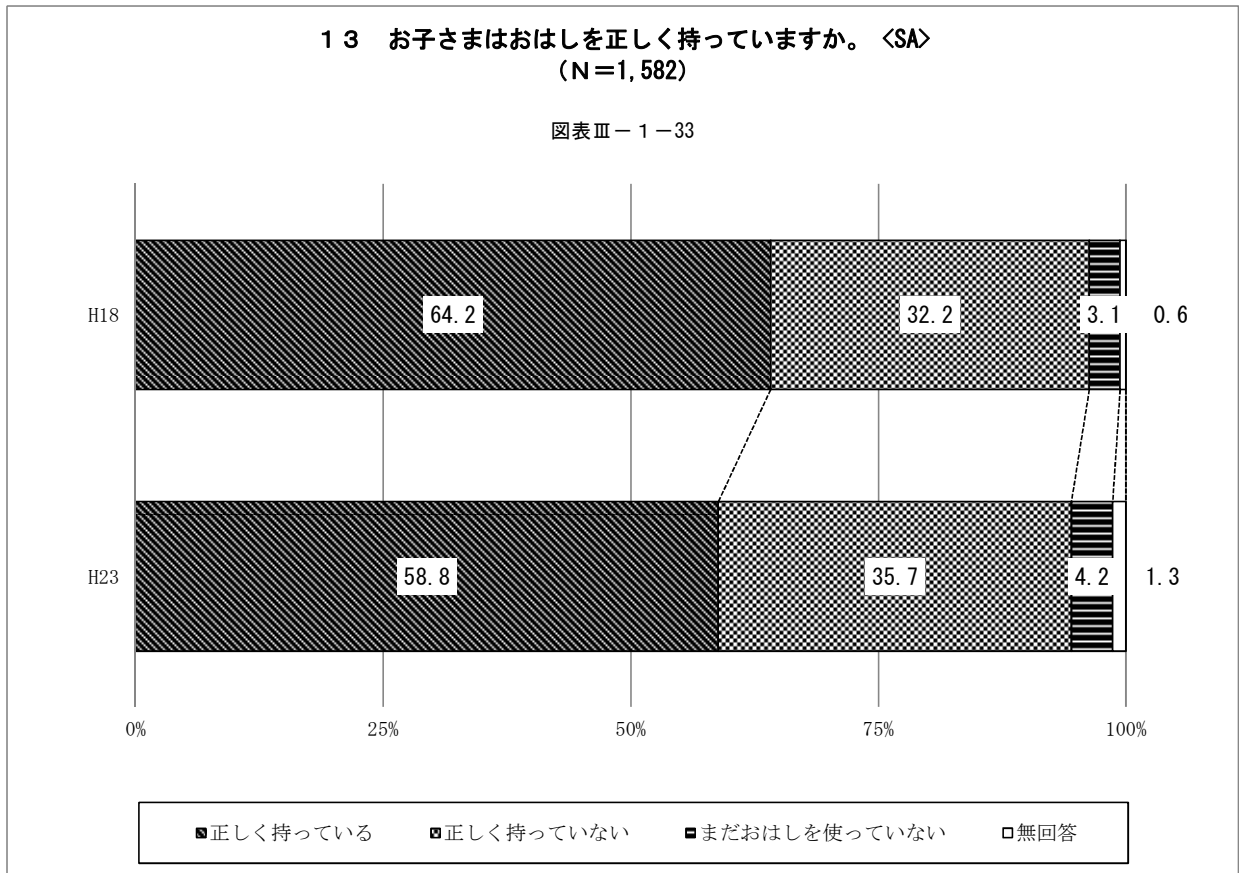
図表Ⅲ-1-32



(13) 箸の持ち方

13 お子さまはおはしを正しく持っていますか。

◆「正しく持っている」が約6割で、減少



箸の持ち方は、「正しく持っている」(58.8%)が約6割で最も多くなっているが、平成18年度調査からは約5%減少している。逆に、「正しく持っていない」(35.7%)は、3%ほど増加している。

(図表Ⅲ-1-33)

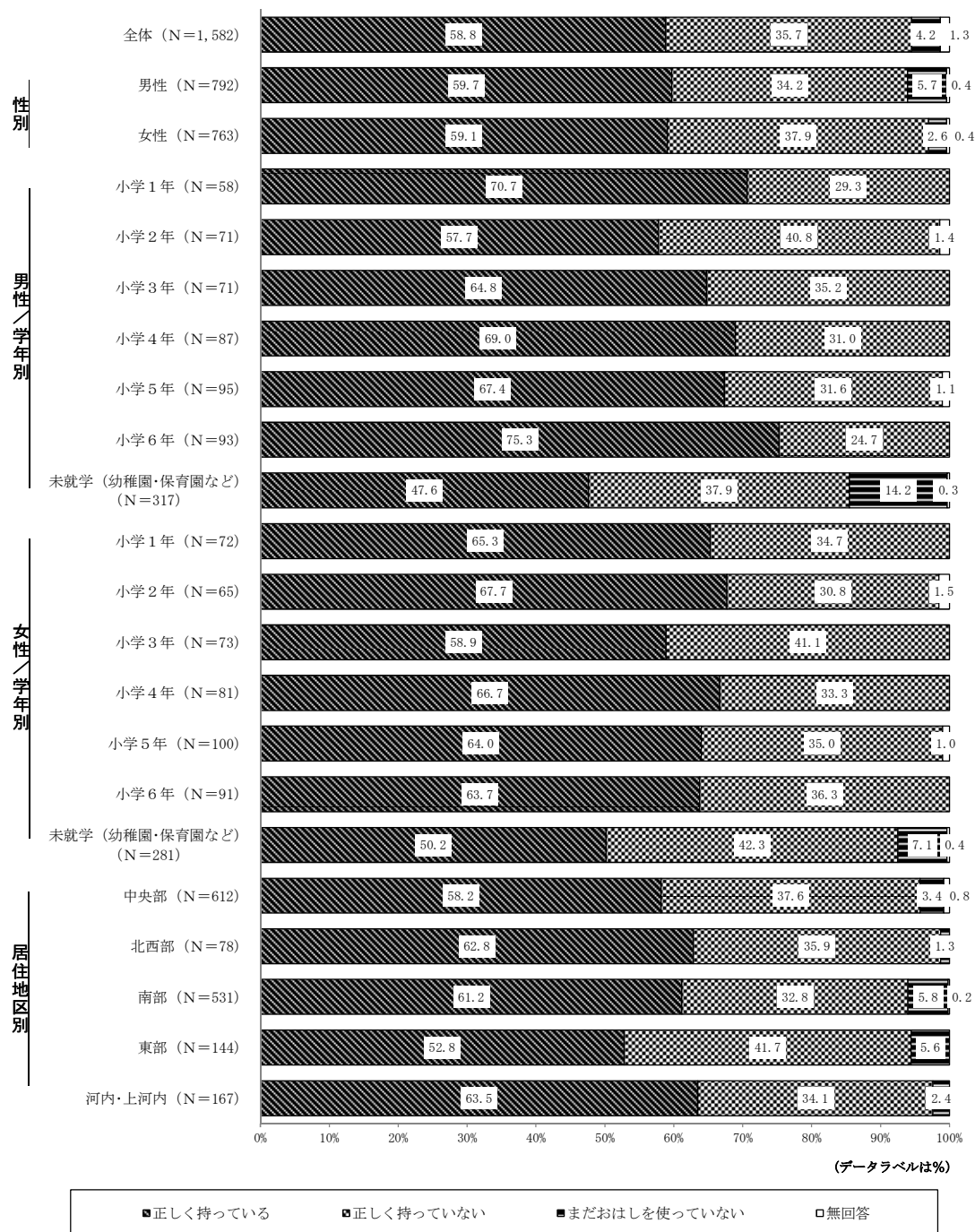
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別を見ると、女性小学1年（70.7%）、女性小学6年（75.3%）で「正しく持っている」が7割を超えている。

居住地区別では、「南部」（5.8%）、「東部」（5.6%）で「まだ箸を使っていない」が、他地区よりわずかに多くなっている。（図表Ⅲ－1－34）

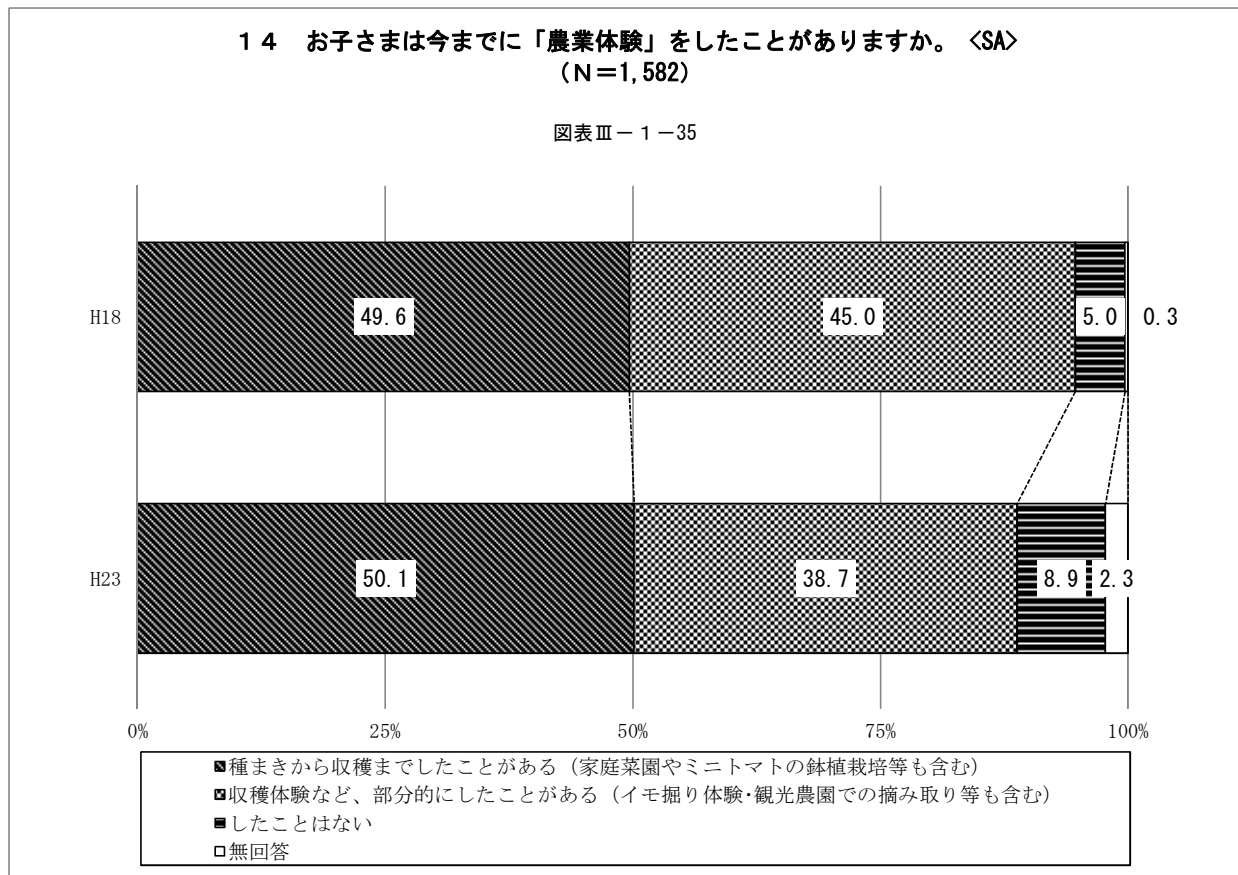
図表Ⅲ－1－34



(14) 農業体験の有無

14 お子さまは今までに「農業体験」をしたことがありますか。

◆農業体験のある子どもが約9割



「農業体験」の有無を聞いたところ、「種まきから収穫までしたことがある (家庭菜園やミニトマトの鉢植え栽培等も含む)」(50.1%)が半数を超え、平成18年度調査から、微増となっている。「収穫体験など、部分的にしたことがある (イモ掘り体験・観光農園での摘み取り等も含む)」は、平成18年度調査では45.0%であったのに対し、今回調査では38.7%と、やや減少している。(図表Ⅲ-1-35)

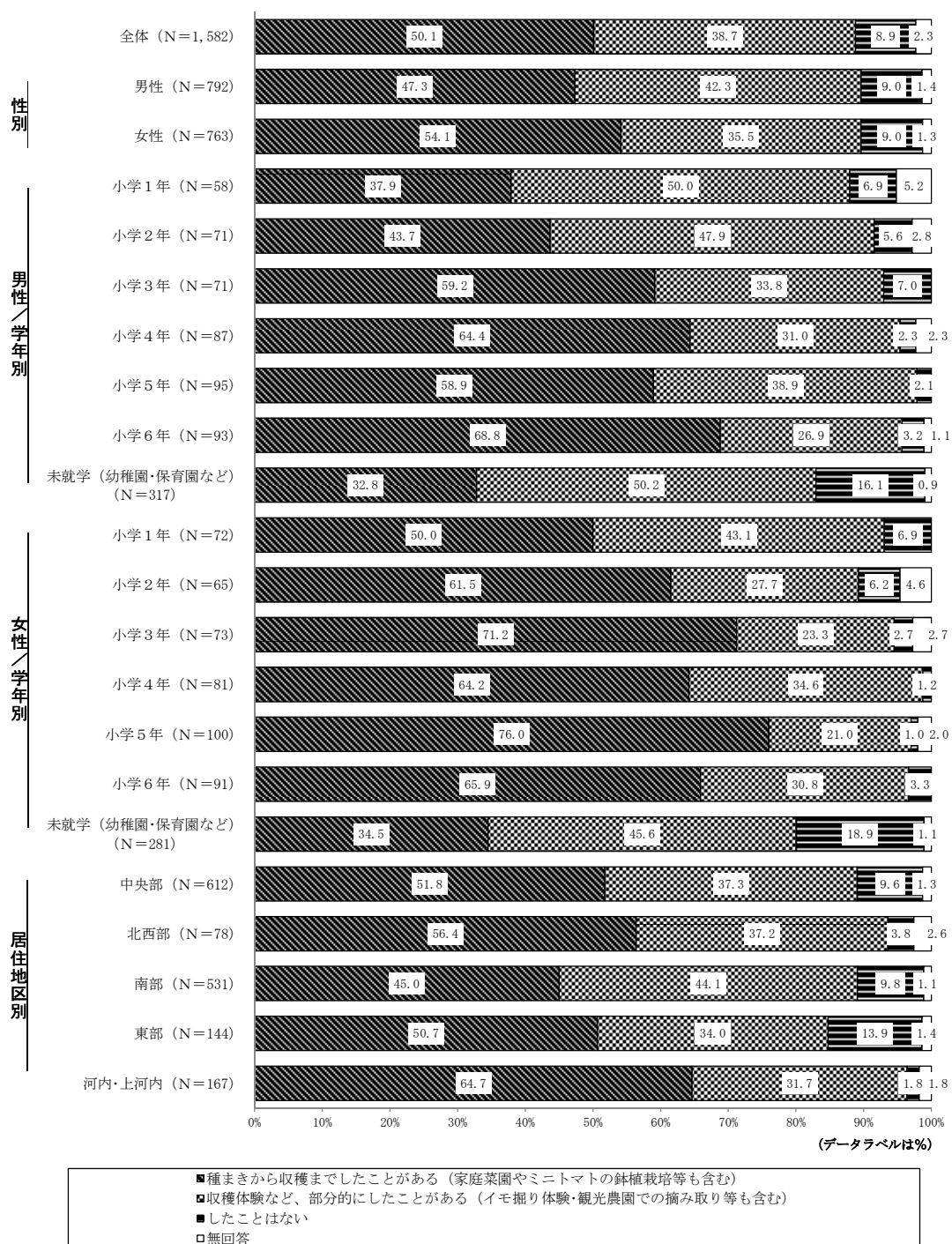
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、「種まきから収穫までしたことがある」の割合は、女性（54.1%）が男性（47.3%）より約7%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男女とも学年が上がるに従い「種まきから収穫までしたことがある」割合が増加している。特に、女性小学3年（71.7%）、女性小学5年（76.0%）では、7割を超えている。未就学では、「したことはない」が、男女とも1割強となっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で、「種まきから収穫までしたことがある」（64.7%）が6割を超えている。（図表Ⅲ－1－36）

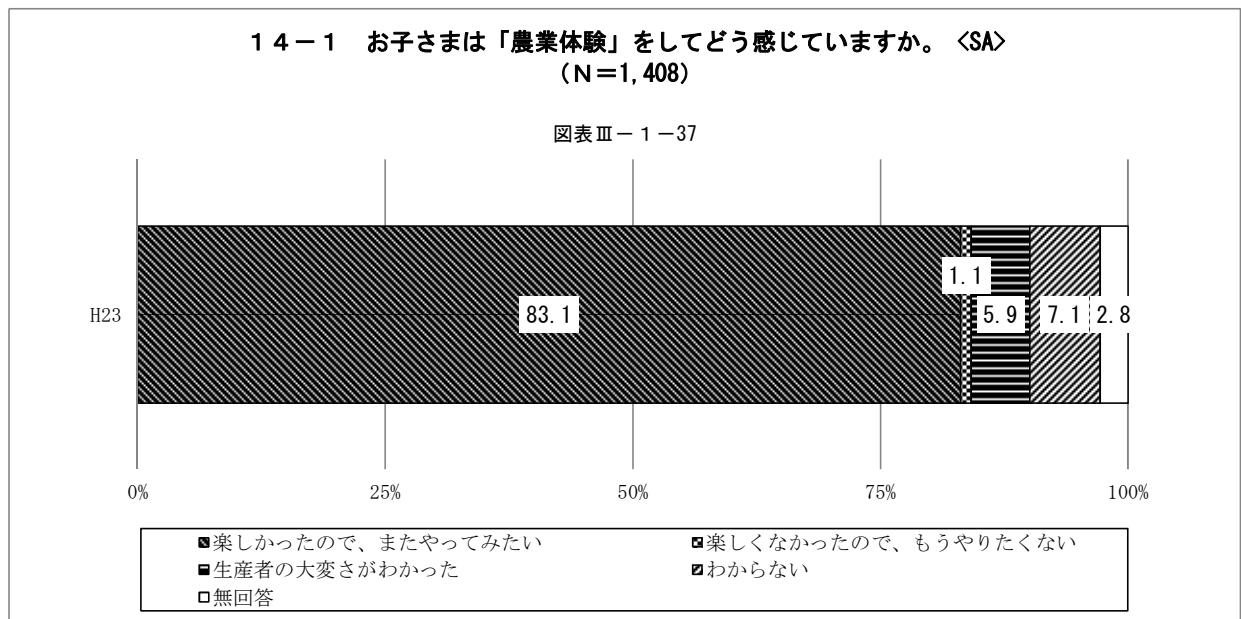
図表Ⅲ－1－36



(14-1) 農業体験の感想

14-1 お子さまは「農業体験」をしてどう感じていますか。

◆「楽しかった」が8割超



「農業体験」の感想は、「楽しかったので、またやってみたい」が圧倒的に多く、83.1%に上り、「楽しかったのですが、もうやりたくない」は1.1%に留まっている。(図表Ⅲ-1-37)

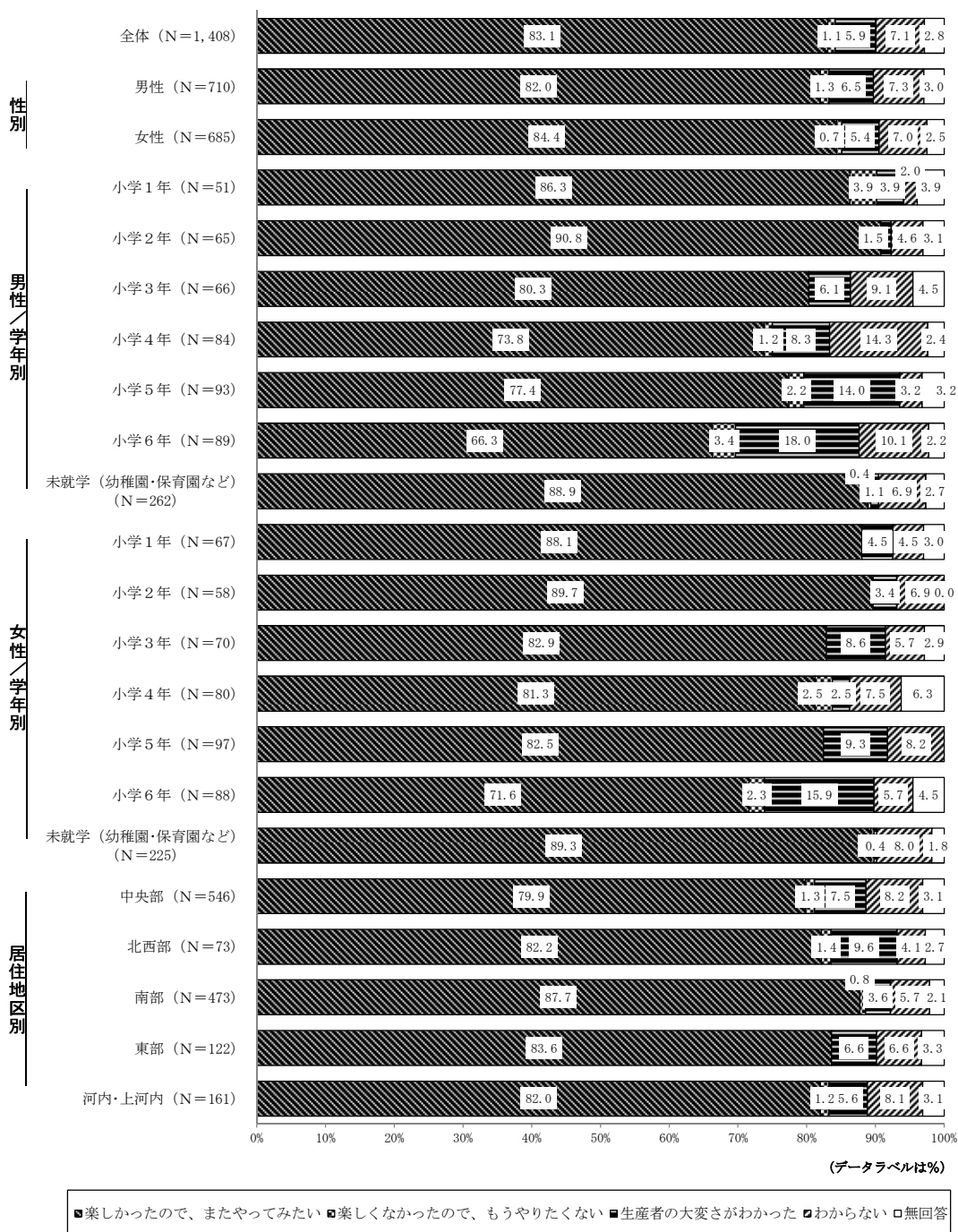
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別を見ると、男女とも小学6年で、「生産者の大変さがわかった」が1割台半ばとなっている。また、男性小学4年では、「わからない」(14.1%)が、他の学年よりやや高くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。(図表Ⅲ-1-38)

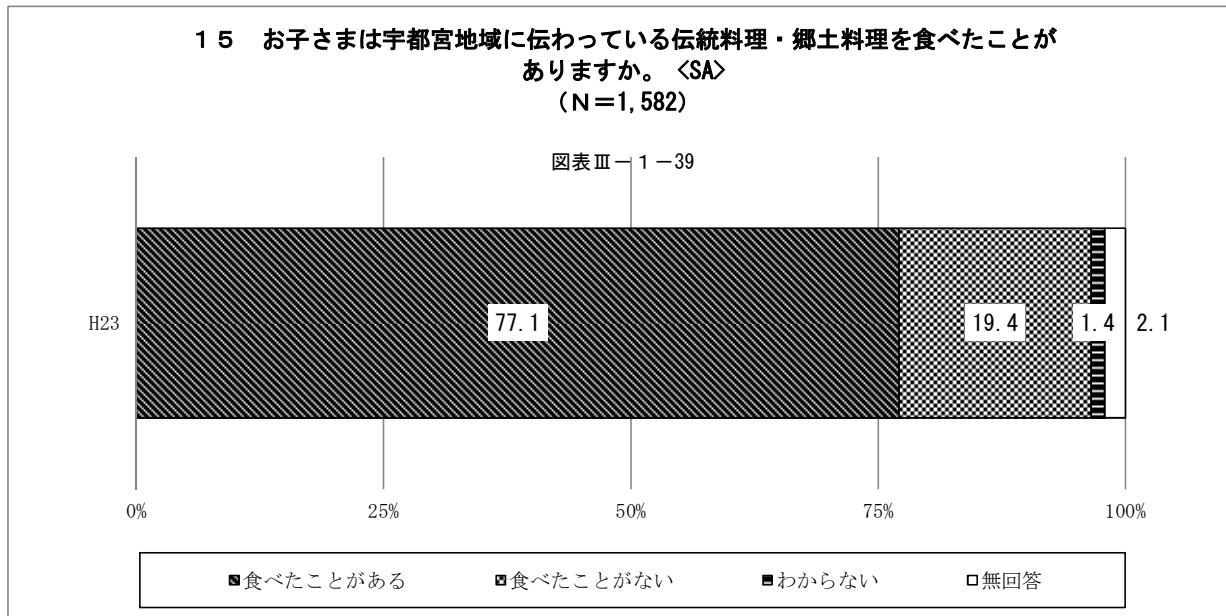
図表Ⅲ-1-38



(15) 伝統料理・郷土料理の食用経験

15 お子さまは正月のおせち料理や十五夜の団子などの伝統料理や、「しもつかれ」や「かんぴょう」・「ゆず」を食材とする宇都宮地域に伝わっている郷土料理を食べたことがありますか。

◆「食べたことがある」が7割台後半



伝統料理や郷土料理の食用経験は、「食べたことがある」(77.1%)が7割台後半で、圧倒的に多くなっており、「食べたことがない」(19.4%)は約2割に留まっている。(図表Ⅲ-1-39)

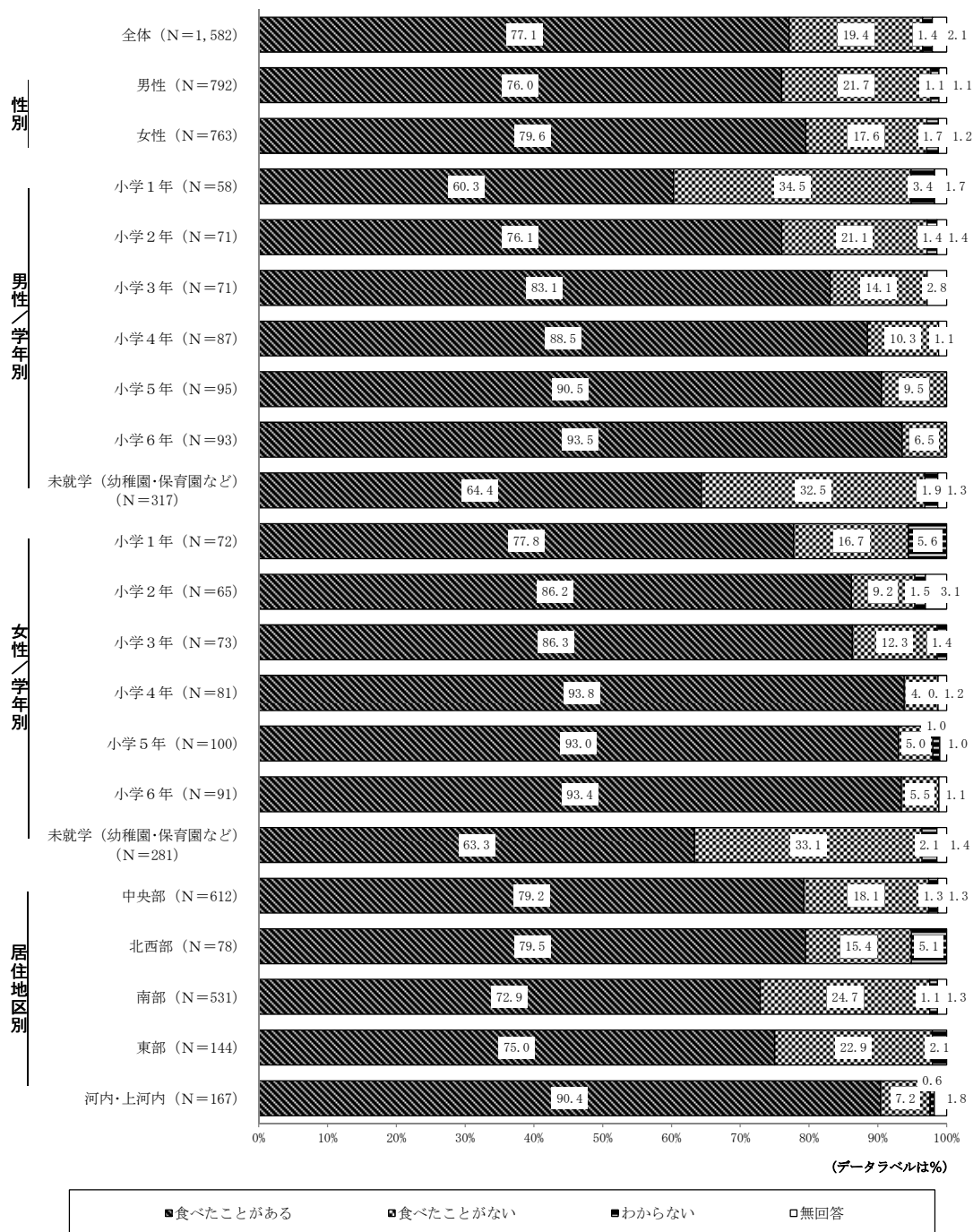
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別を見ると、男女ともに、小学生では学年が上がるに従い「食べたことがある」割合が増加している。特に、男女小学6年では9割を超えている。

居住地区別では、「河内・上河内」で、「食べたことがある」割合が90.4%と突出している。他地区は、「食べたことがある」割合は、7割台となっている。(図表Ⅲ-1-40)

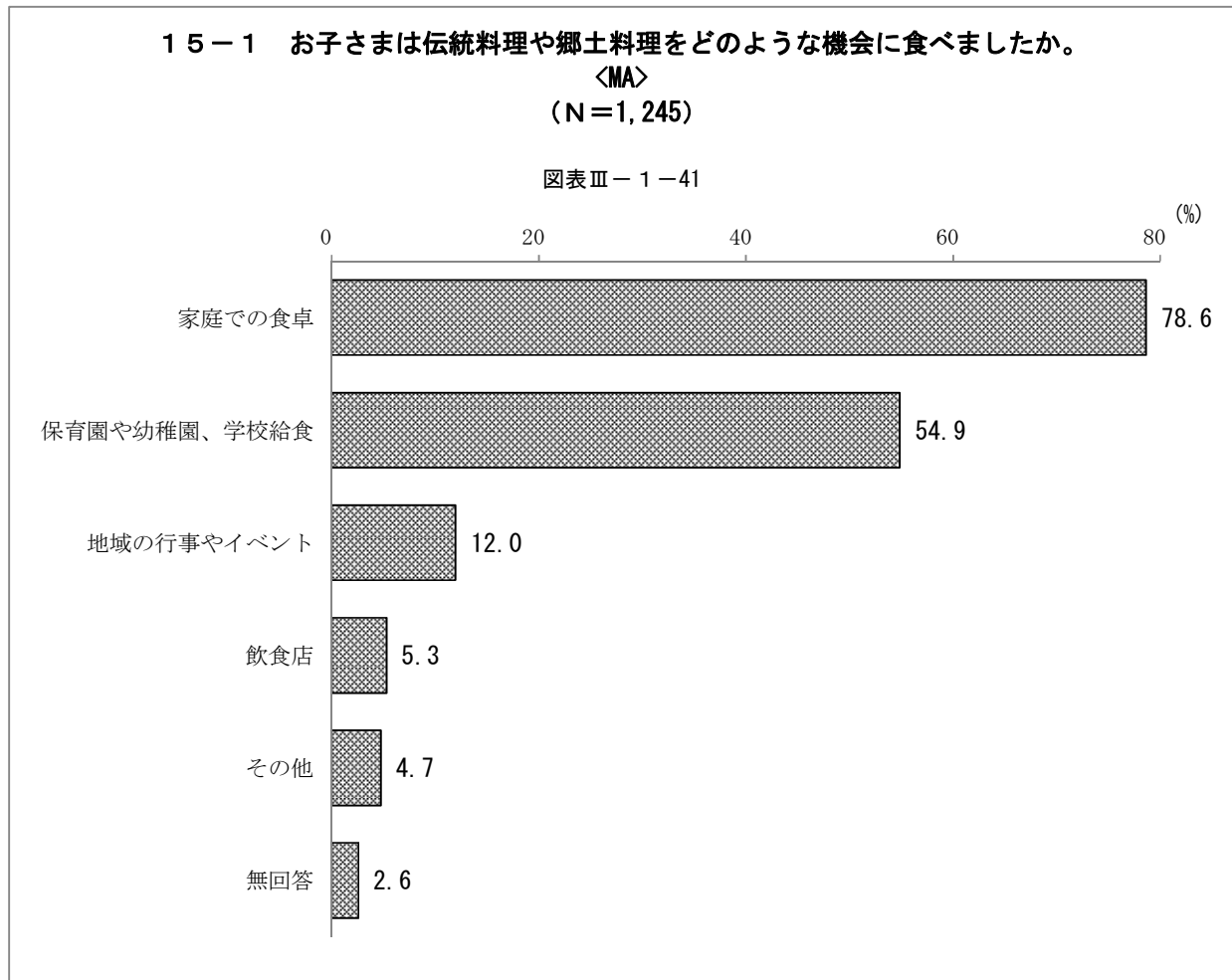
図表Ⅲ-1-40



(15-1) 伝統料理・郷土料理の食用機会

15-1 お子さまは伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べましたか。

◆「家庭での食卓」が約8割



伝統料理や郷土料理の食用機会は、「家庭での食卓」(78.6%)が約8割に上り、次いで「保育園や幼稚園、学校給食」(54.9%)となっている。(図表Ⅲ-1-41)

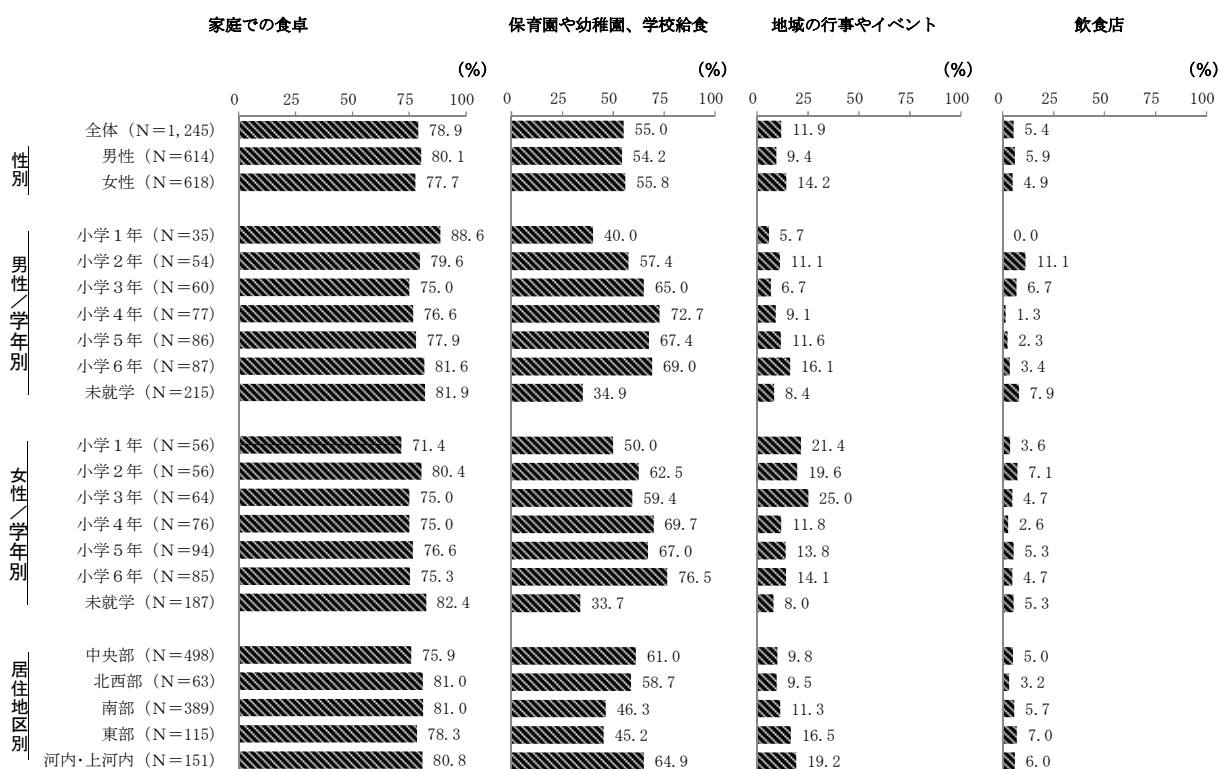
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、「地域の行事やイベント」が、女性（14.2%）が男性（9.4%）より約5%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男女ともに「家庭での食卓」が7割台から8割台となっている。「保育園や幼稚園、学校給食」は、小学生では高学年になるほど割合が高くなり、6割台後半から7割台半ばとなっている。

居住地区別では、「保育園や幼稚園、学校給食」の割合が、他地区に比べ低くなっており、「南部」（46.3%）、「東部」（45.2%）となっている。（図表Ⅲ－1－42）

図表Ⅲ－1－42

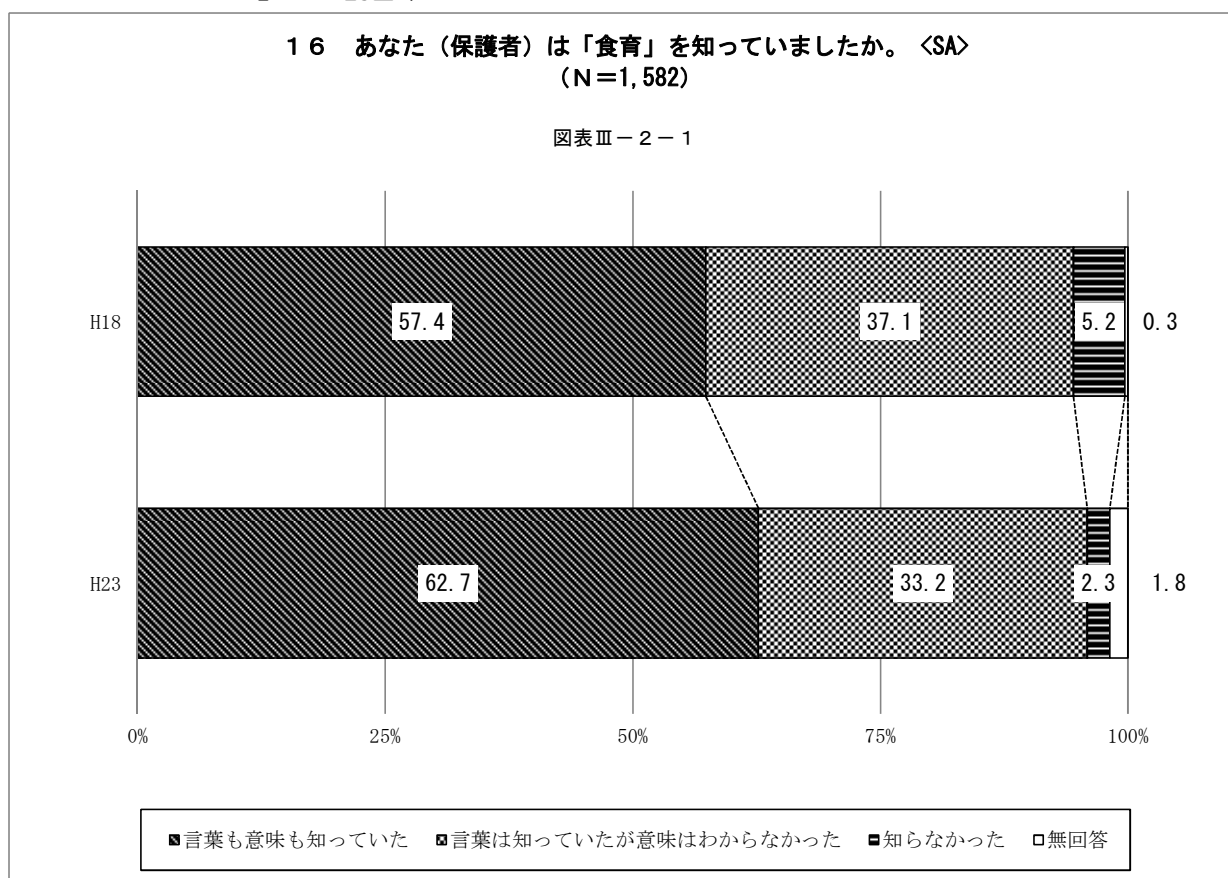


II 食育について

(1) 食育の認知度

16 あなた（保護者）は「食育」を知っていましたか。

◆「知っていた」が9割台半ば



保護者に、「食育」という言葉をどの程度知っているか聞いたところ、9割超が「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」（62.7%）と「言葉は知っていたが意味はわからなかった」（33.2%）の合計（95.9%）と回答している。特に「言葉も意味も知っていた」答えた人は6割以上に上り、平成18年度調査（57.4%）から約10%増加している。（図表Ⅲ-2-1）

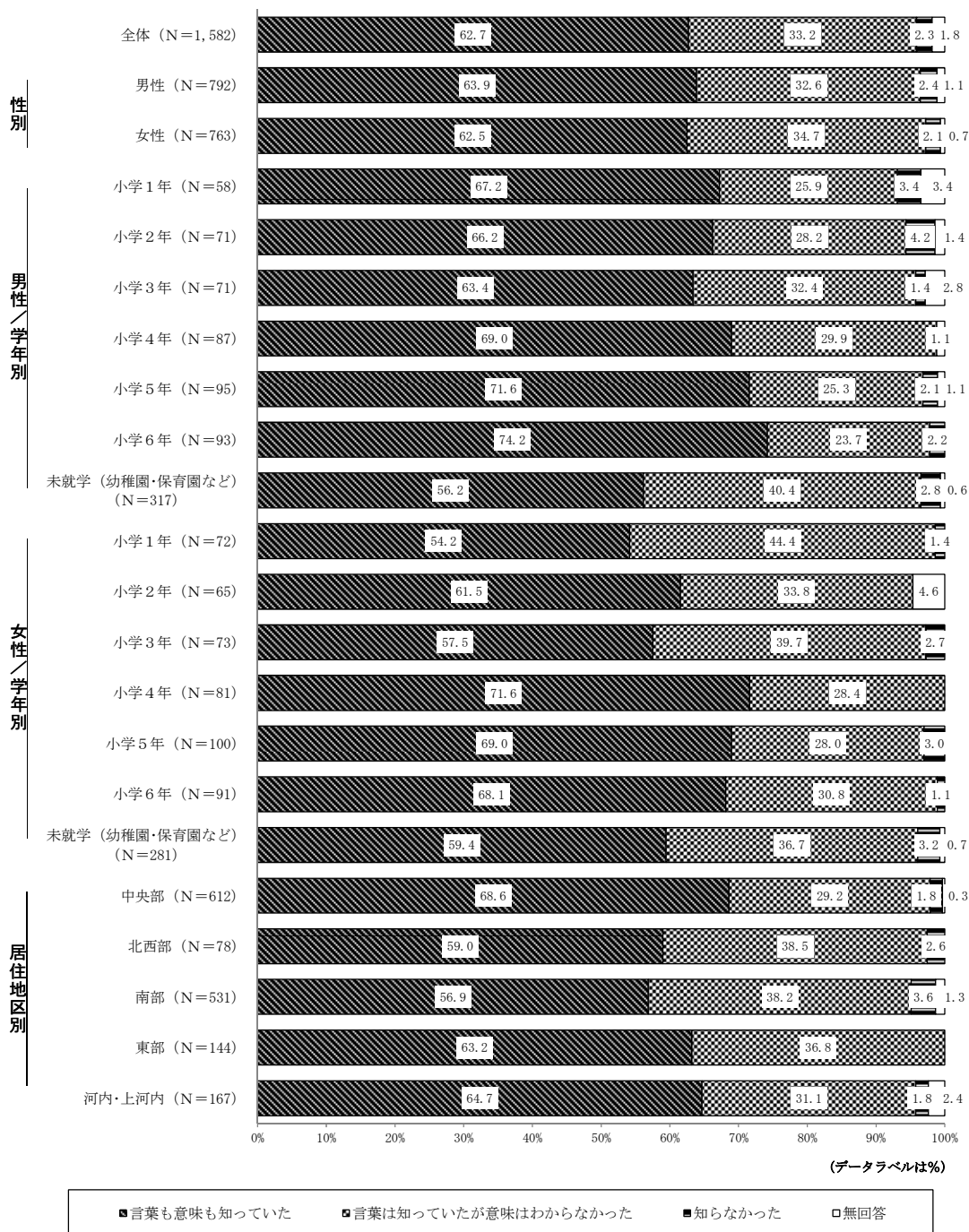
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別でみると、「言葉も意味も知っていた」割合が、男性小学生の方が、若干高くなっている。また、「知らなかった」割合は、全体的に低くなっている。

居住地区別では、「言葉も意味も知っていた」割合は、「中央部」(68.6%)でやや高くなっているが、他地区は平均して6割前後となっている。(図表Ⅲ-2-2)

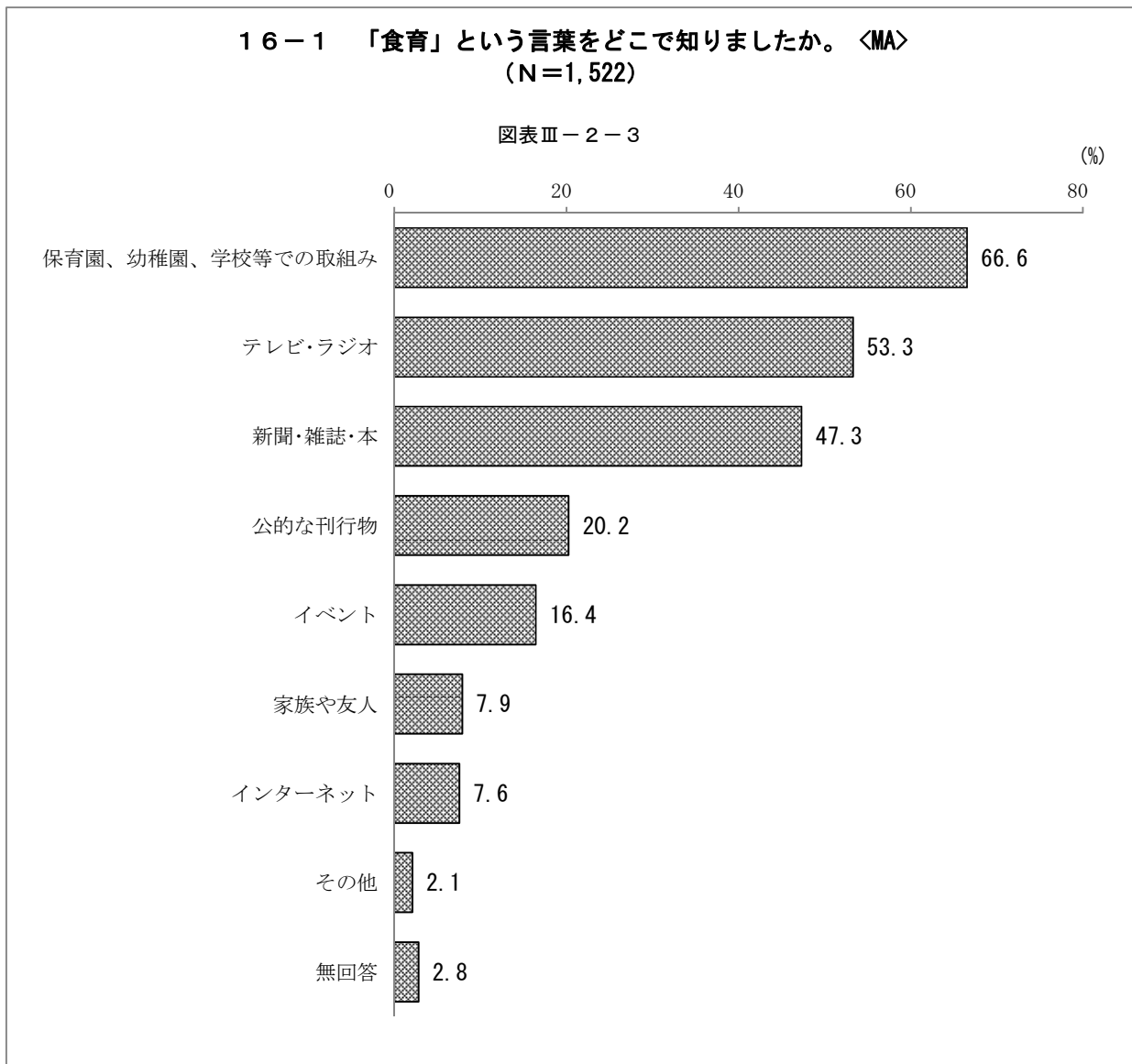
図表Ⅲ-2-2



(1-1) 言葉を知った媒体・場所

16-1 「食育」という言葉をどこで知りましたか。

◆「保育園、幼稚園、学校等での取組み」が6割台半ば



前問で「知っていた」と回答した人が、「食育」という言葉を知った場所は、「保育園、幼稚園、学校等での取組み」(66.6%)が6割台半ばで最も多く、以下、「テレビ・ラジオ」(53.3%)、「新聞・雑誌・本」(47.3%)となっている。(図表Ⅲ-2-3)

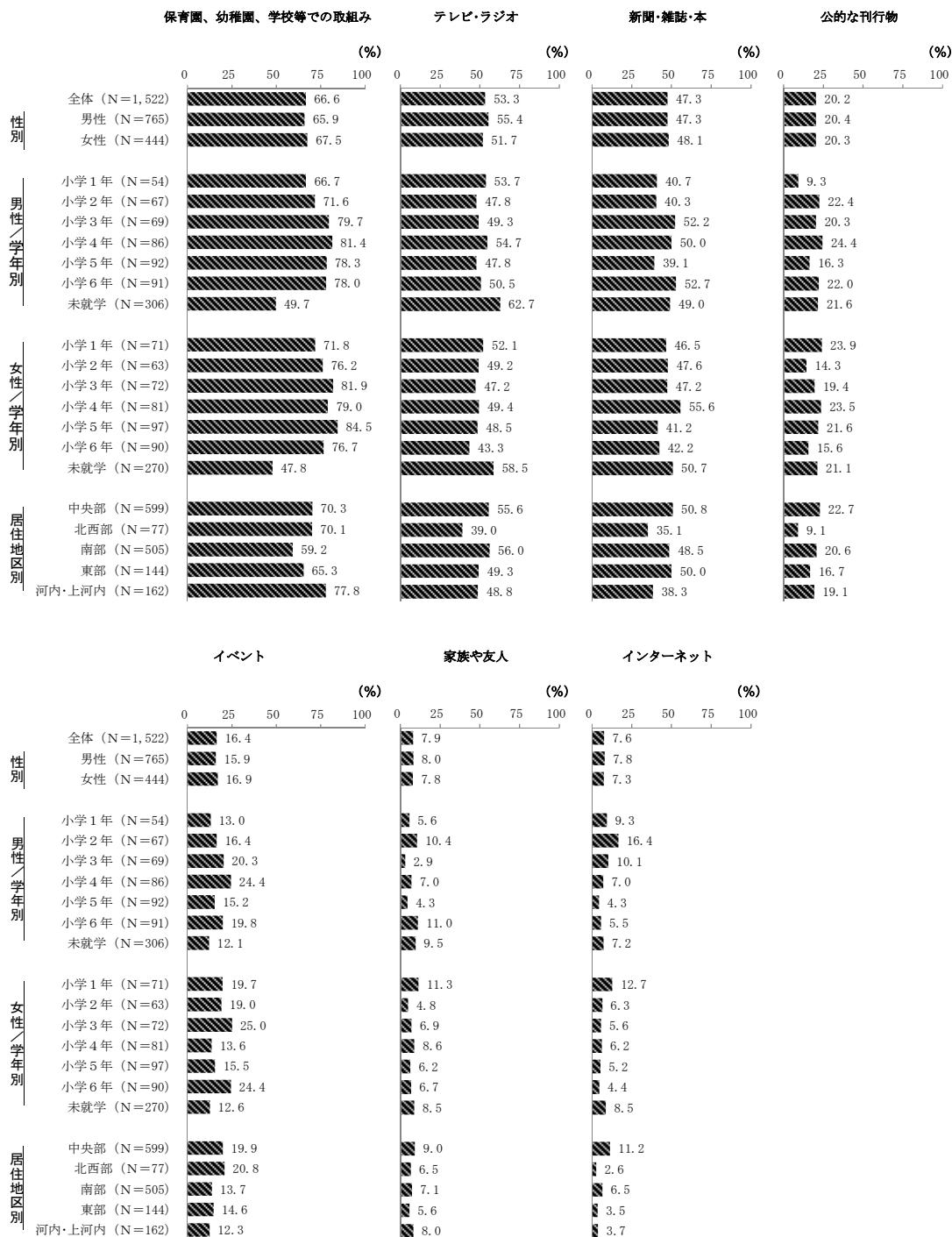
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、男女未就学の「保育園、幼稚園、学校等での取り組み」が、4割台で最も低くなっているのに対し、「テレビ・ラジオ」では、6割前後と、最も高くなっている。

居住地区別では、「北西部」は、「テレビ・ラジオ」(39.0%)、「新聞・雑誌・本」(35.1%)が3割台、最も低くなっている。(図表Ⅲ-2-4)

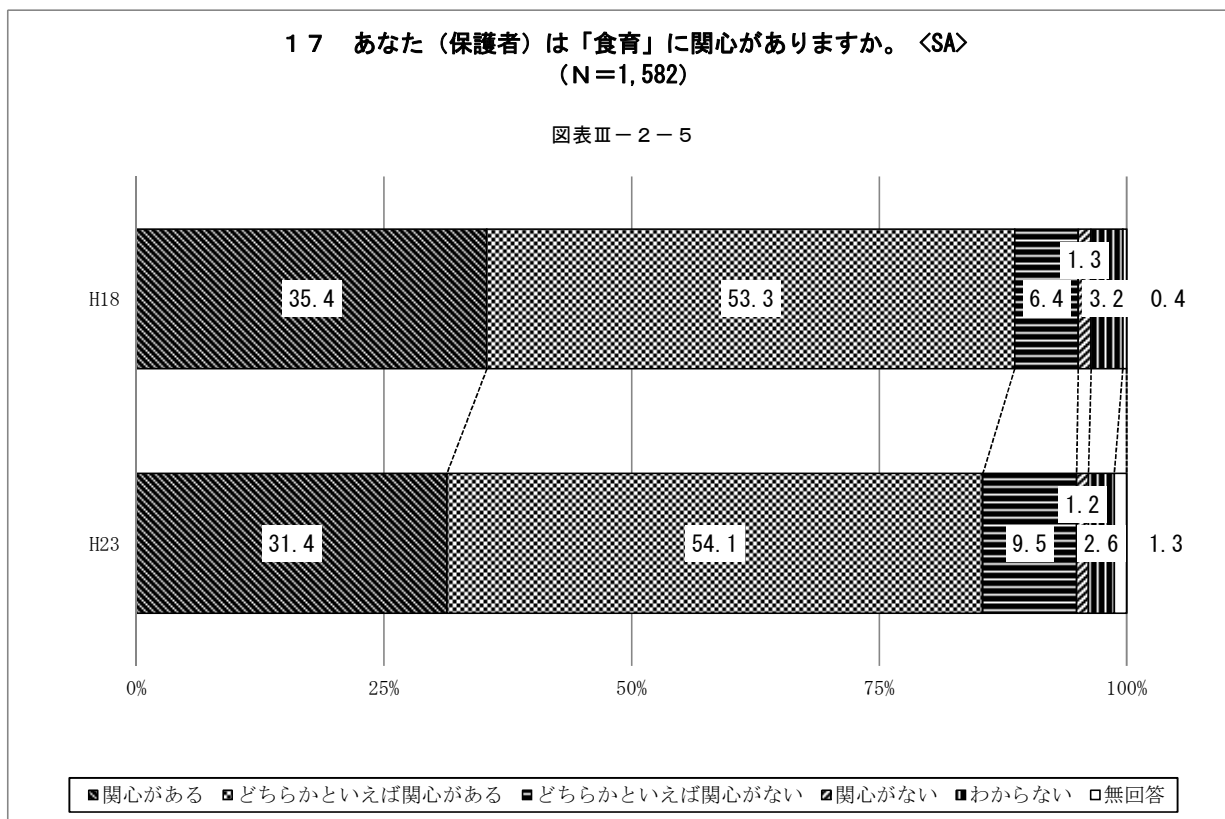
図表Ⅲ-2-4



(2) 食育関心度

17 あなた（保護者）は「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が8割台半ばで減少



食への関心度は、「どちらかといえば関心がある」(54.1%)が過半数を占めているが、平成18年度調査からは微減となっている。「関心がある」(31.4%)も同様に微減となっており、合わせた「関心がある」(85.5%)は8割台半ばとなっている。(図表Ⅲ-2-5)

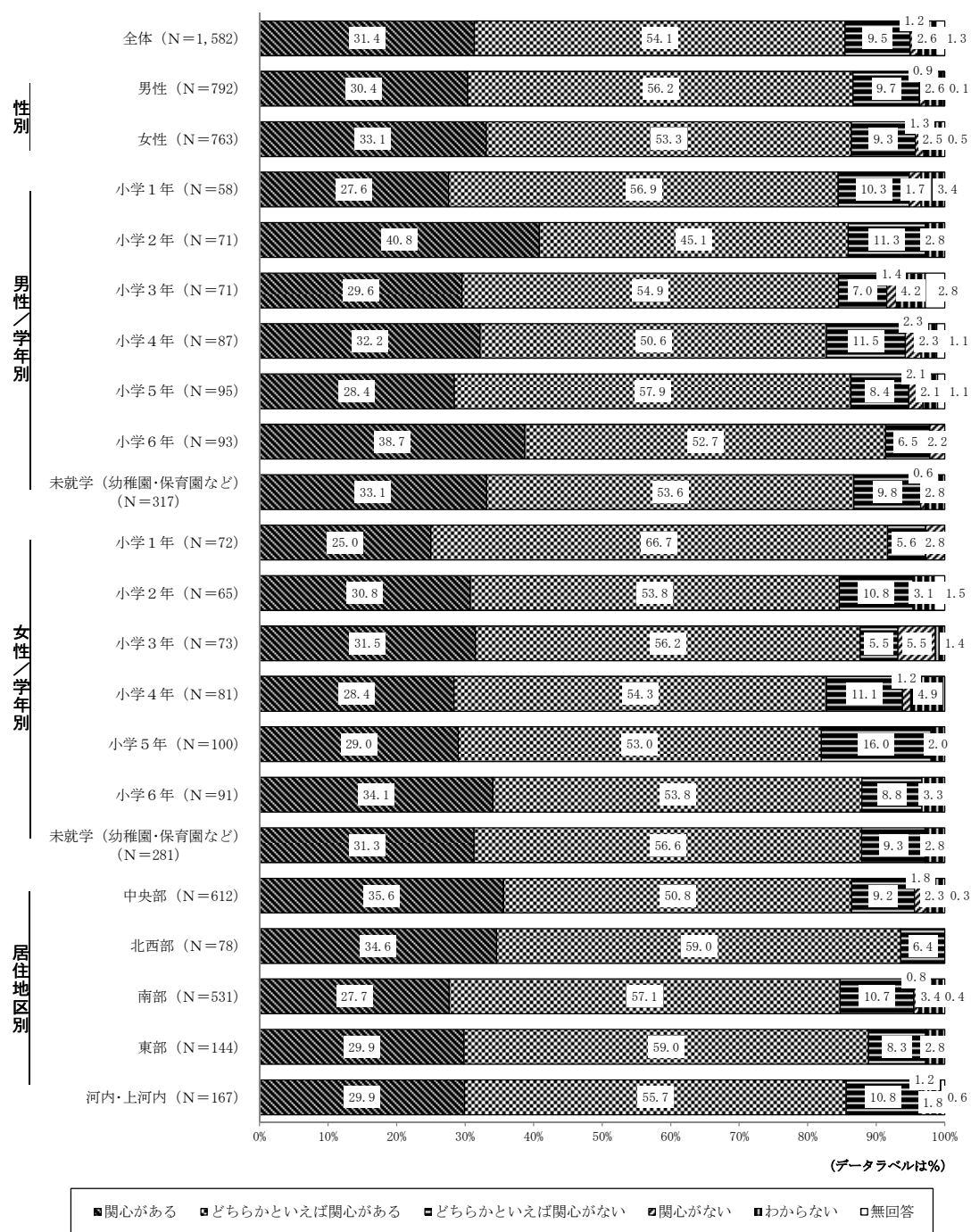
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、「関心がある」割合は、男性では、小学2年（40.8%）、小学6年（38.7%）が4割前後となっている。女性は、全体的に「関心がある」の割合が低く、3割前後となっている。女性小学5年（16.0%）は、「どちらかといえば関心がない」が1割台半ばとなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－2－6）

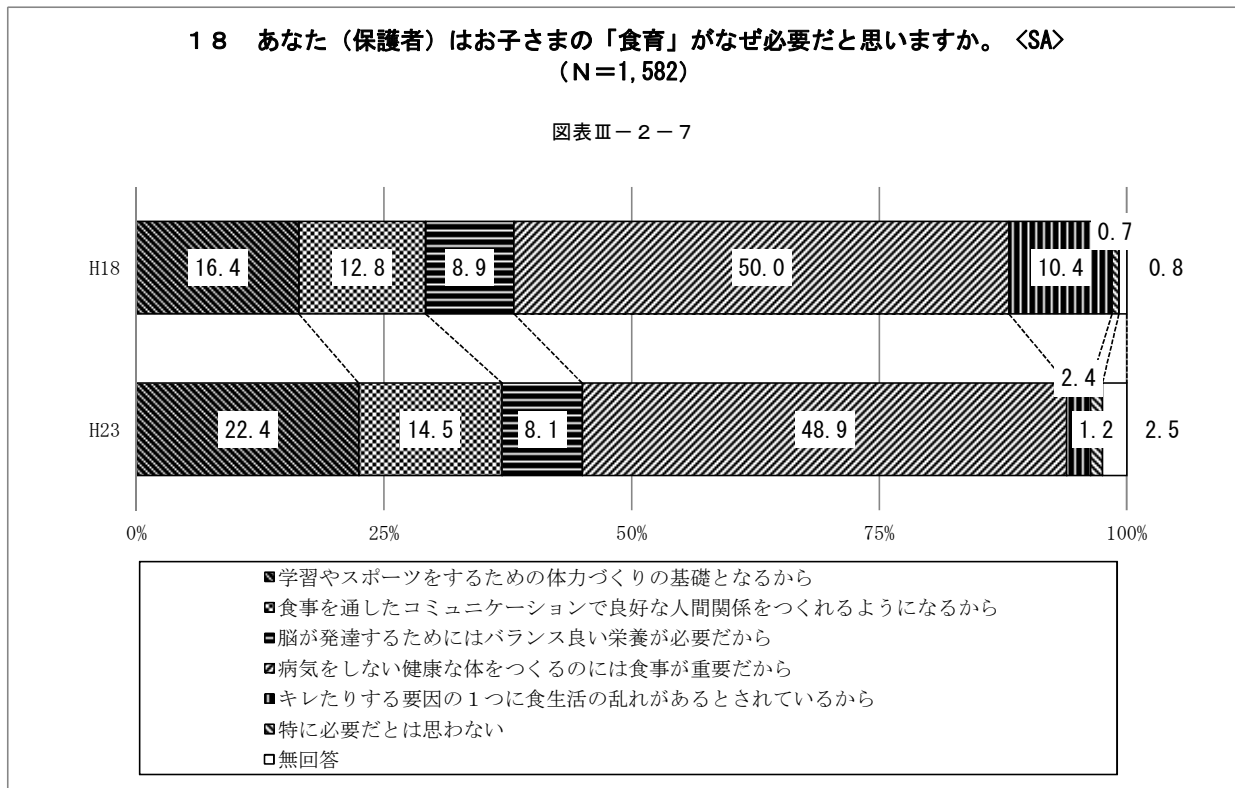
図表Ⅲ－2－6



(3) 食育が必要な理由

18 あなた（保護者）はお子さまの「食育」がなぜ必要だと思いますか。

◆「健康な体をつくるのには食事が重要だから」が約5割



食育が必要な理由については、「健康な体をつくるのには食事が重要だから」(48.9%)が約半を占め、最も多くなっている。次いで、「学習やスポーツをするための体力づくりの基礎となるから」(22.4%)となっているが、平成18年度調査から、6%増加している。「キレたりする要因の1つに食生活の乱れがあるとされているから」(22.4%)は、平成18年度調査では10.4%であったのに対し、今回調査では2.4%まで減少している。(図表Ⅲ-2-7)

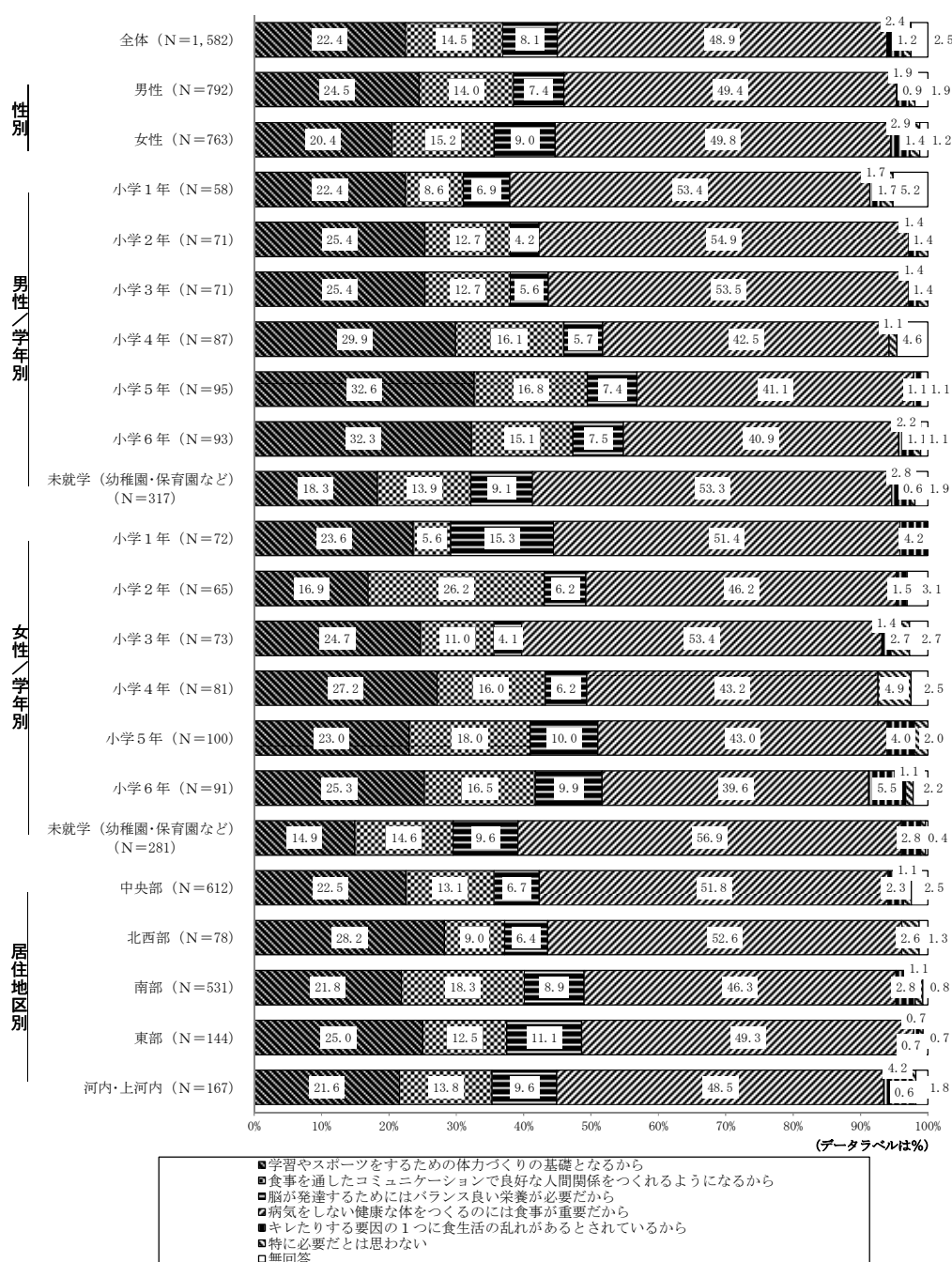
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、男女間でほとんど差は見られないが、「学習やスポーツをするための体力づくりの基礎となるから」の割合は、男性（24.5%）が女性（20.4%）より、約4%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男性小学生は、学年が上がるに従い「学習やスポーツをするための体力づくりの基礎となるから」が増加している。女性小学1年（15.3%）は、「脳が発達するためにはバランスの良い栄養が必要だから」が1割台半ばとなっている。

居住地区別では、「北西部」で「学習やスポーツをするための体力づくりの基礎となるから」が他地区に比べやや高く、「食事を通したコミュニケーションで良好な人間関係が作られるようになるから」が、やや低くなっている。（図表Ⅲ－2－8）

図表Ⅲ－2－8

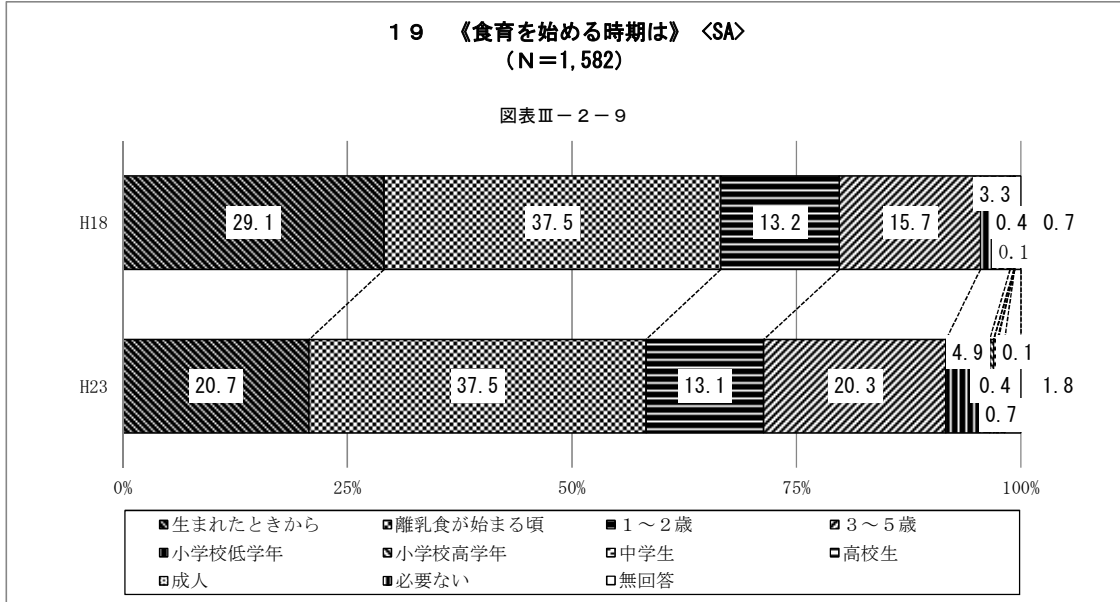


(4) 食育の開始・終了時期

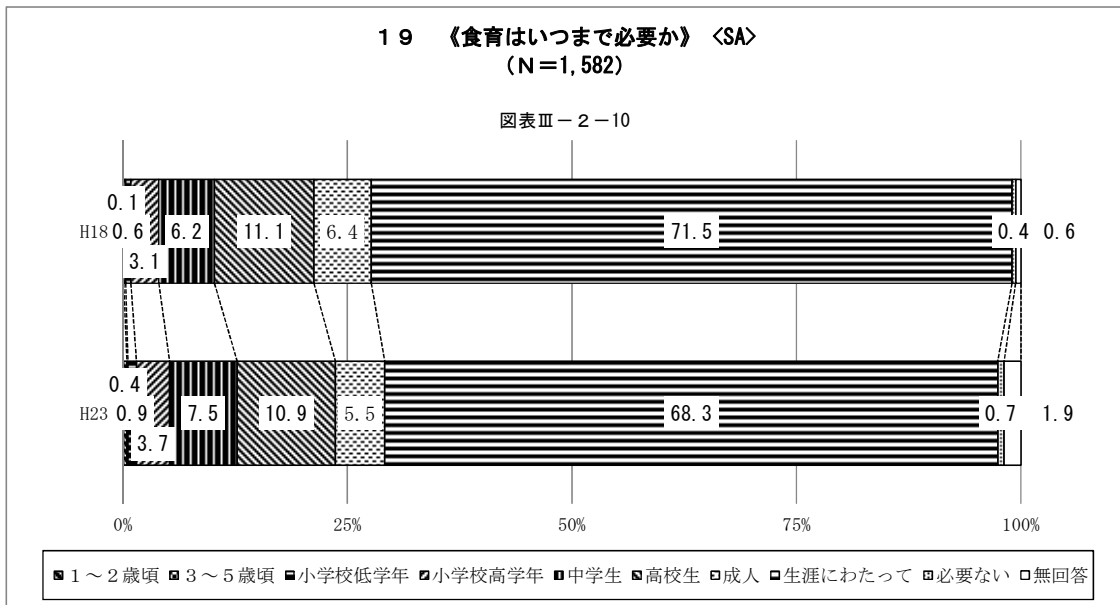
19 あなたは(保護者)はお子さまの「食育」はいつ頃から始めるのが良いと思いますか。

◆開始時期は「離乳食が始まる頃」、終了時期は「生涯にわたって」

《食育を始める時期》



《「食育」はいつまで必要か》



食育の開始時期は、「離乳食が始まる頃」が4割弱で最も高い。次いで、「生まれた時から」(20.7%)と「3～5歳」(20.3%)が2割台、「1～2歳」(13.1%)が1割台となっている。このうち、「生まれた時から」が約8%減少し、「3～5歳」が約5%増加している。(図表Ⅲ-2-9)

食育の終了時期は、「生涯にわたって」(68.3%)が7割近くを占めているが、平成18年度調査から、微減となっている。(図表Ⅲ-2-10)

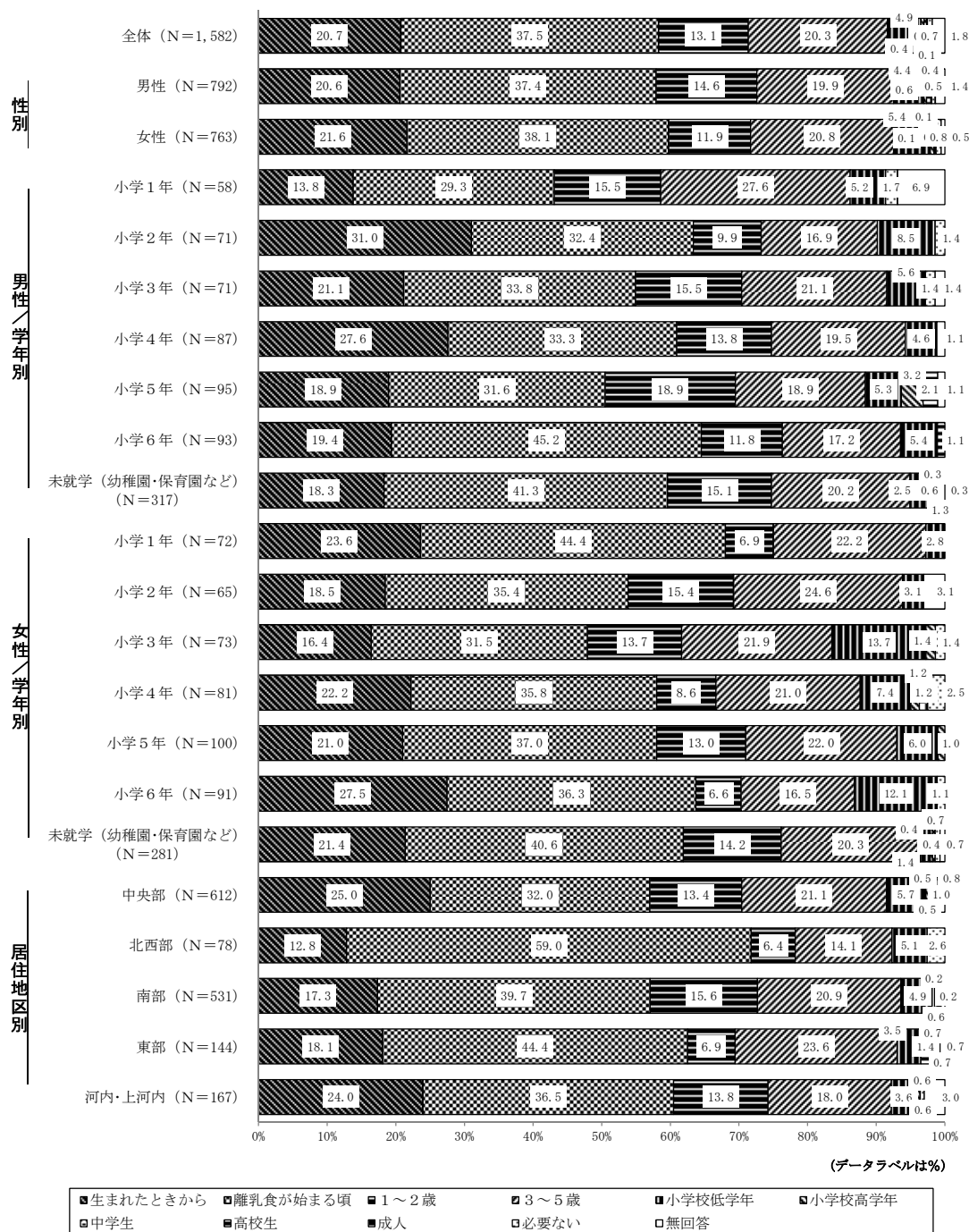
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】（食育の開始時期）

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別を見ると、男性小学2年で「生まれた時から」（31.0%）が3割を超えている。また、男性小学6年では、「離乳食が始まる頃」（45.2%）が4割台半ばとなっている。女性小学3年（13.7%）、女性小学6年では、「小学校低学年」が1割強となっている。

居住地区別は、「北西部」では、「離乳食が始まる頃」（59.0%）が6割で、突出している。（図表Ⅲ－2－11）

図表Ⅲ－2－11



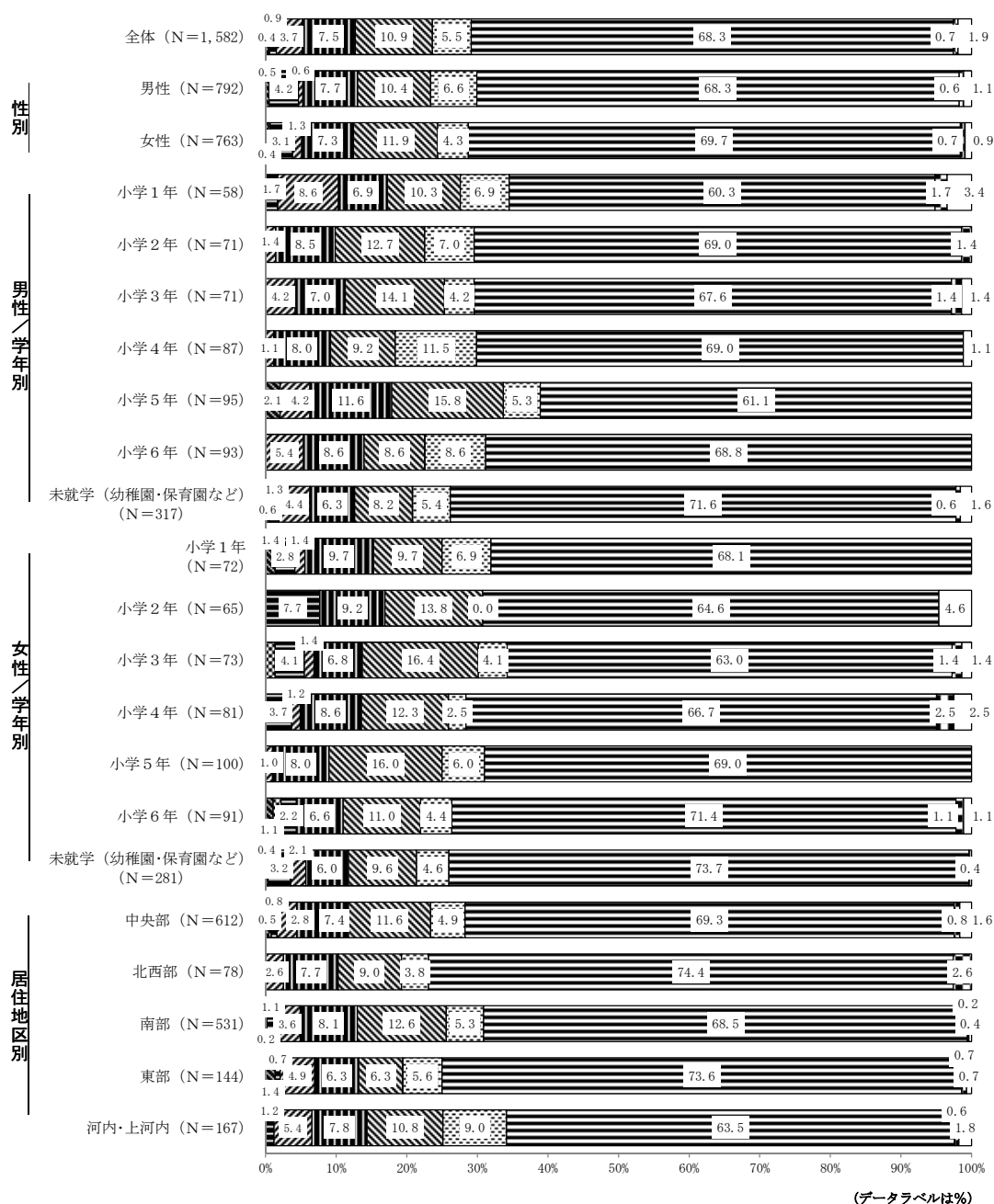
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】（食育の終了時期）

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「生涯にわたって」が大半を占めているが、男性では小学1年(10.3%)、小学2年(12.7%)、小学3年(14.1%)、小学5年(15.8%)、女性では小学1年以外の学年で「高校生」までと回答している。

居住地区別では、「中央部」(11.6%)、「南部」(12.6%)、「河内・上河内」(10.8%)で「高校生」の回答が1割弱となっている。(図表Ⅲ-2-12)

図表Ⅲ-2-12

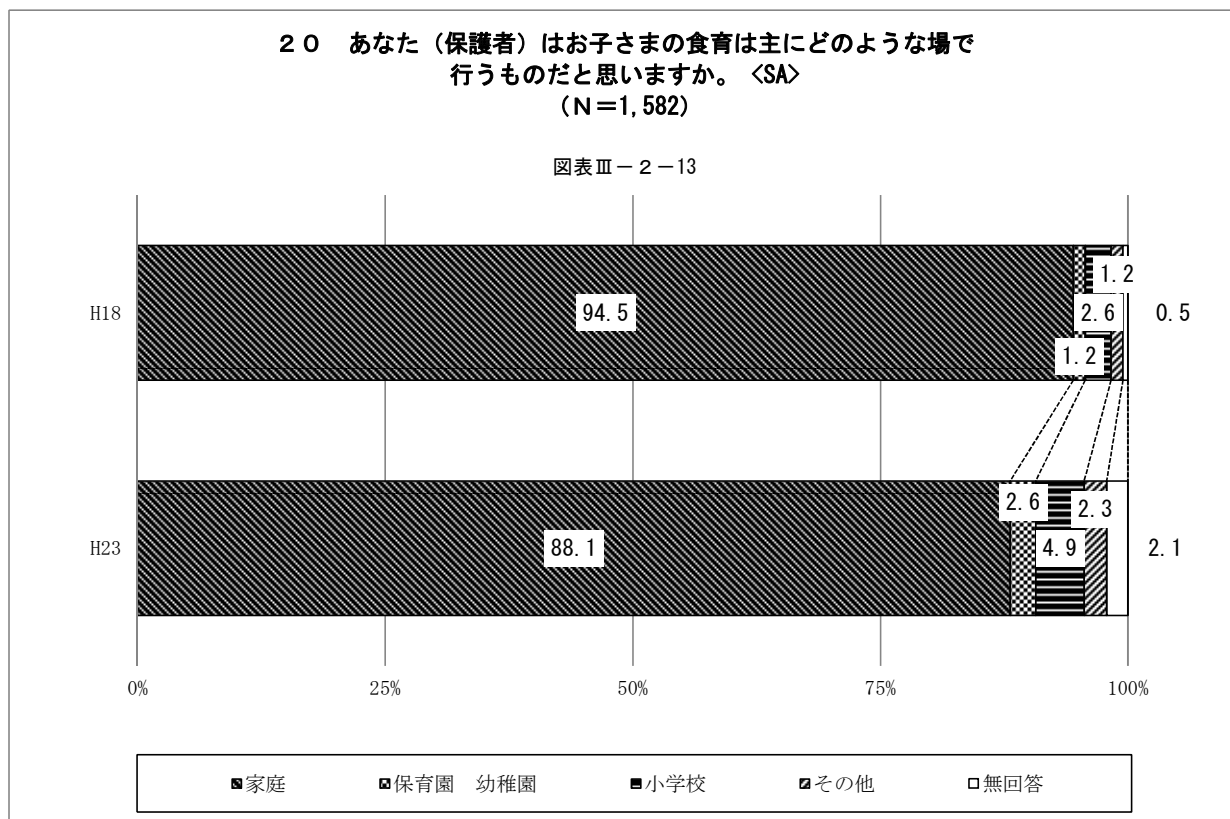


■ 1～2歳頃 ■ 3～5歳頃 ■ 小学校低学年 ■ 小学校高学年 ■ 中学生 ■ 高校生 ■ 成人 ■ 生涯にわたって ■ 必要ない □ 無回答

(5) 食育の場

20 あなた（保護者）はお子さまの「食育」は主にどのような場で行うものだと思いますか。

◆「家庭」が約9割



食育を行う場は、「家庭」（88.1%）が約9割を占めているが、平成18年度調査から、微減となっている。また、「小学校」が、2.6%から4.9%に増加している。（図表Ⅲ-2-13）

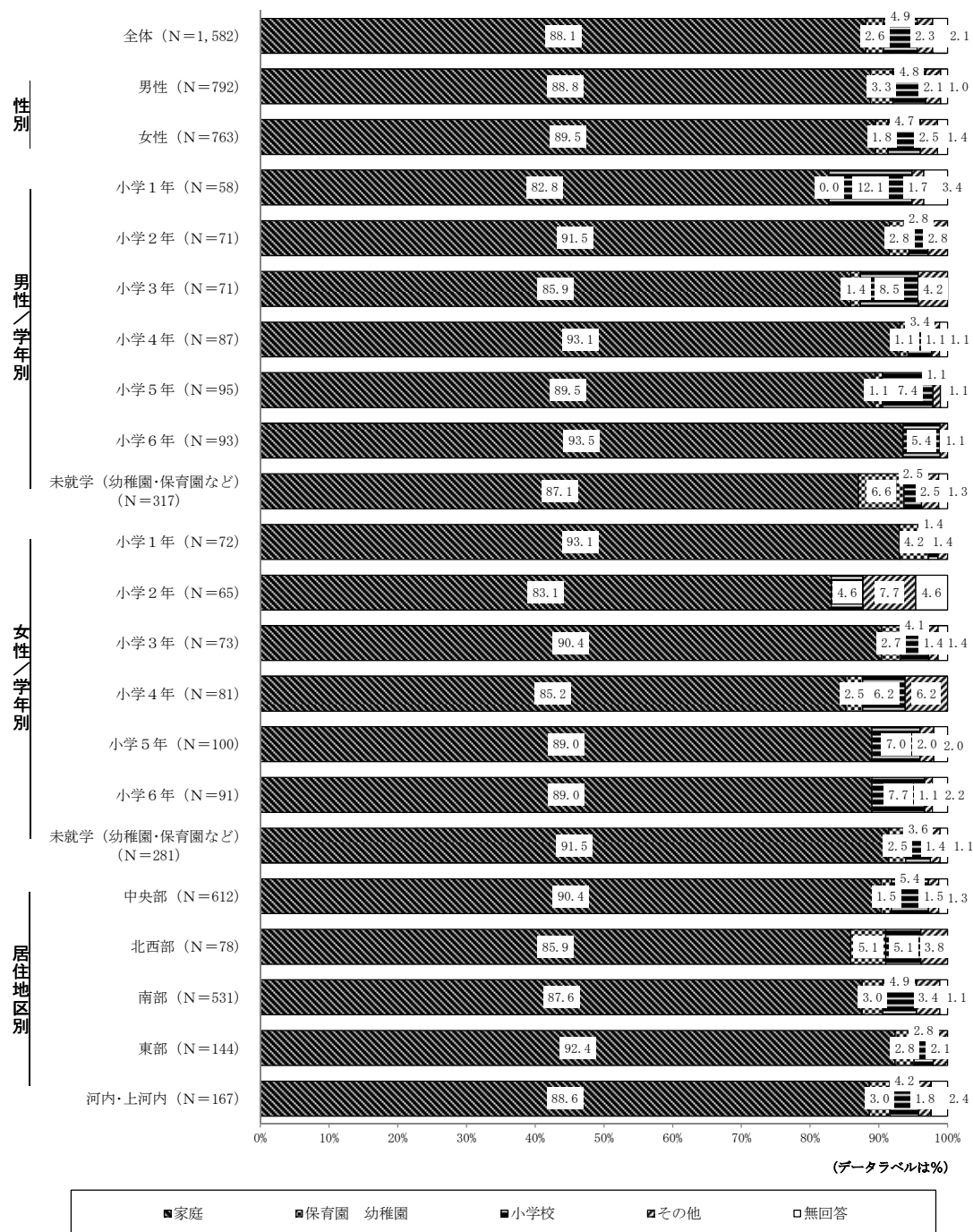
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、全ての学年で「家庭」が8割以上を占めている。男子小学1年(12.1%)では、「小学校」が約1割見られる。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。(図表Ⅲ-2-14)

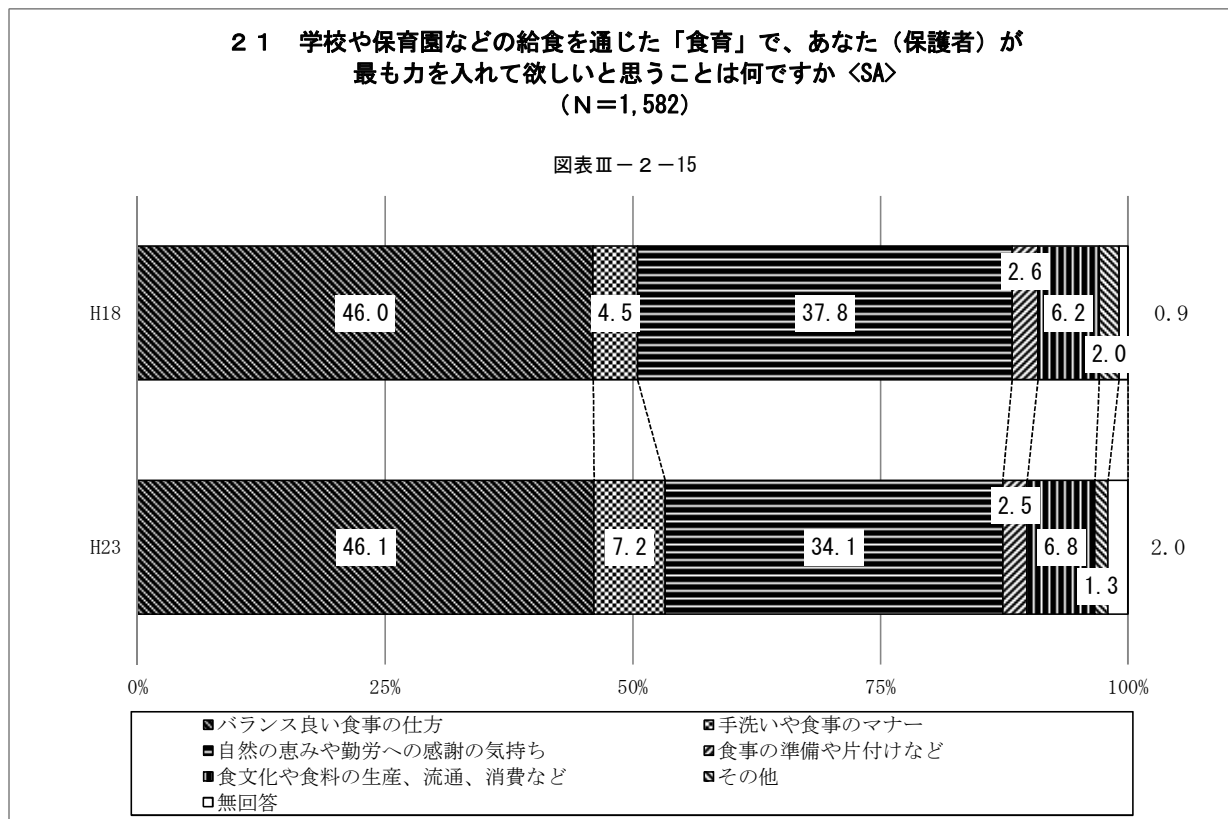
図表Ⅲ-2-14



(6) 力を入れてほしい食育

2.1 学校や保育園などの給食を通じた食育で、あなた（保護者）が最も力を入れて欲しいと思うことは何ですか。

◆「バランスの良い食事の仕方」が半数近く



給食を通じた食育で力を入れて欲しいことは、「バランスの良い食事の仕方」(46.1%)が半数近くに上げており、平成18年度調査からは横ばいとなっている。次いで「自然の恵みや勤労への感謝の気持ち」は、平成18年度調査では37.8%であったが、34.1%に減少している。「手洗いや食事のマナー」は、平成18年度調査では4.5%であったのに対し、7.2%に増加している。(図表Ⅲ-2-15)

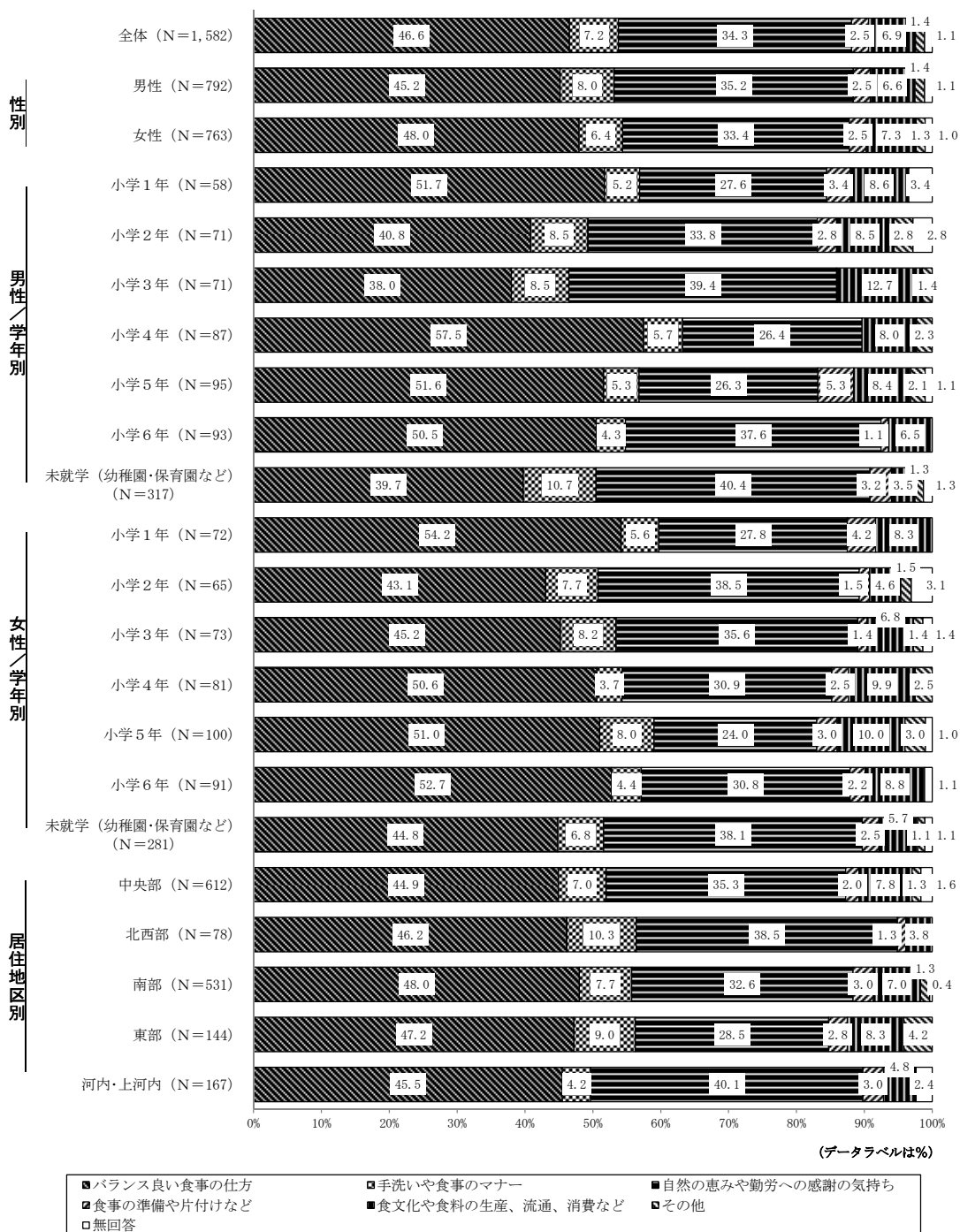
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、男女とも、「バランスの良い食事の仕方」への回答が比較的多く、中でも男性小学4年（57.5%）、女性小学1年（54.2%）は、5割台半ばを占めている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－2－16）

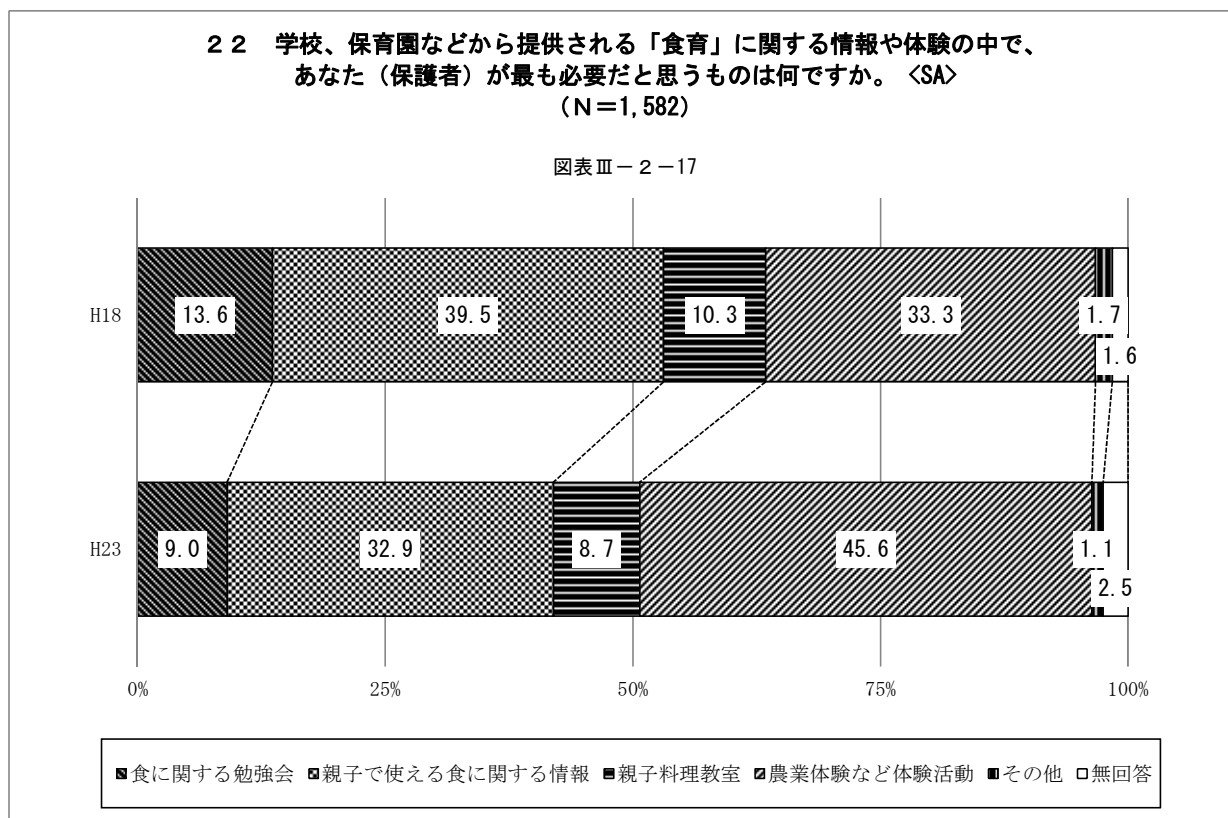
図表Ⅲ－2－16



(7) 最も必要な情報や体験

22 学校、保育園などから提供される「食育」に関する情報や体験の中で、あなた（保護者）が最も必要だと思うことは何ですか。

◆「農業体験など体験活動」が4割台半ば



学校、保育園などから提供される情報・体験で最も必要な物は、平成18年度調査では「親子で使える食に関する情報」(39.5%)が最も多かったのに対し、今回調査では、「農業体験など体験活動」(45.6%)が最も多く、4割台半ばとなっている。その他、「食に関する勉強会」などについては、軒並み減少している。(図表Ⅲ-2-17)

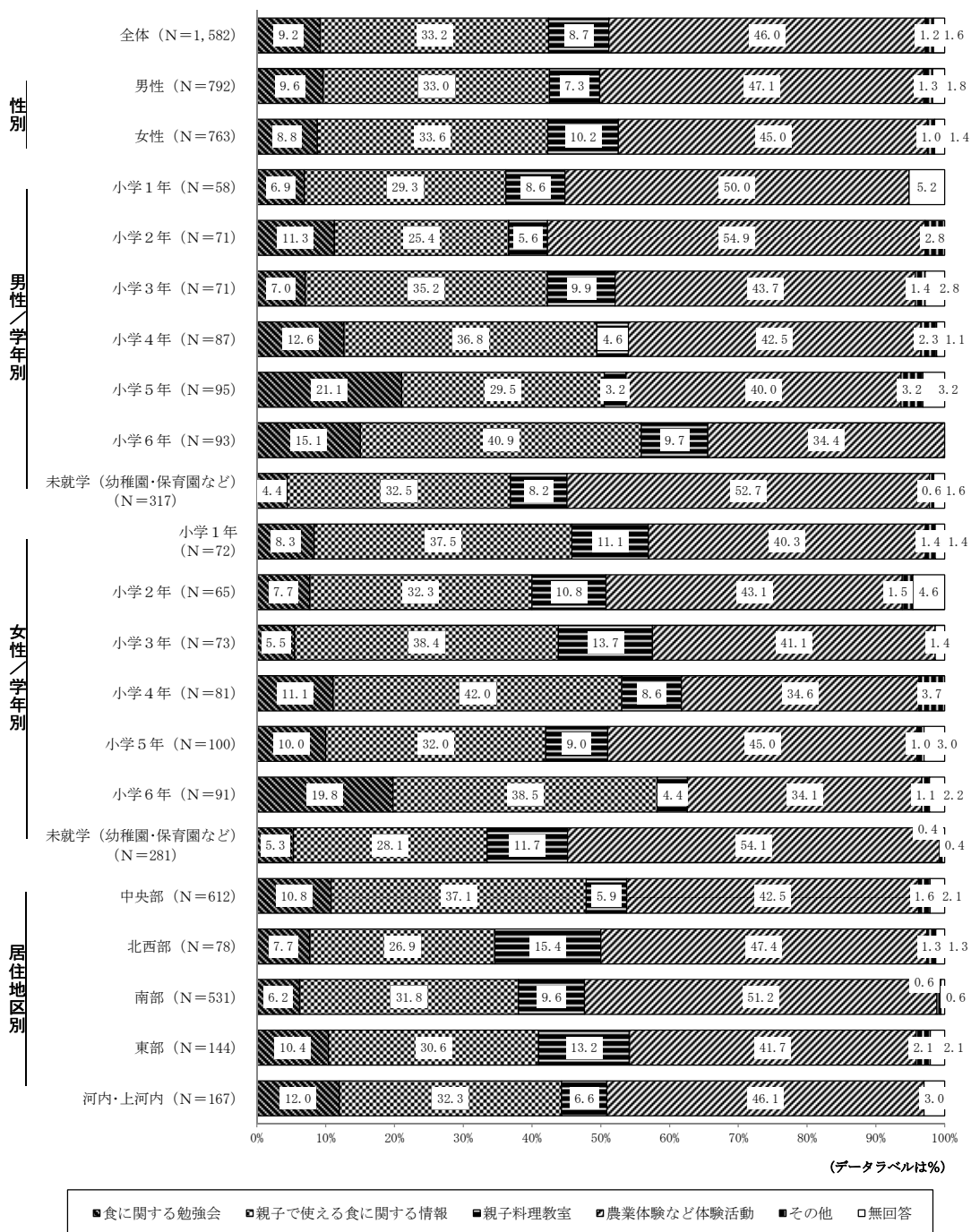
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、男女間でほとんど変わらないが、「親子料理教室」は、女性（10.2%）が男性（7.3%）より約3%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「食に関する勉強会」で、男性小学5年（21.1%）、女性小学6年（19.8%）が2割前後となっている。全体的に、「親子で使える食に関する情報」と「農業体験など体験活動」で、拮抗している。

居住地区別では、「北西部」で「親子料理教室」（15.4%）が1割台半ばとなっており、「南部」では、「農業体験など体験活動」（51.2%）が5割を超えている。（図表Ⅲ－2－18）

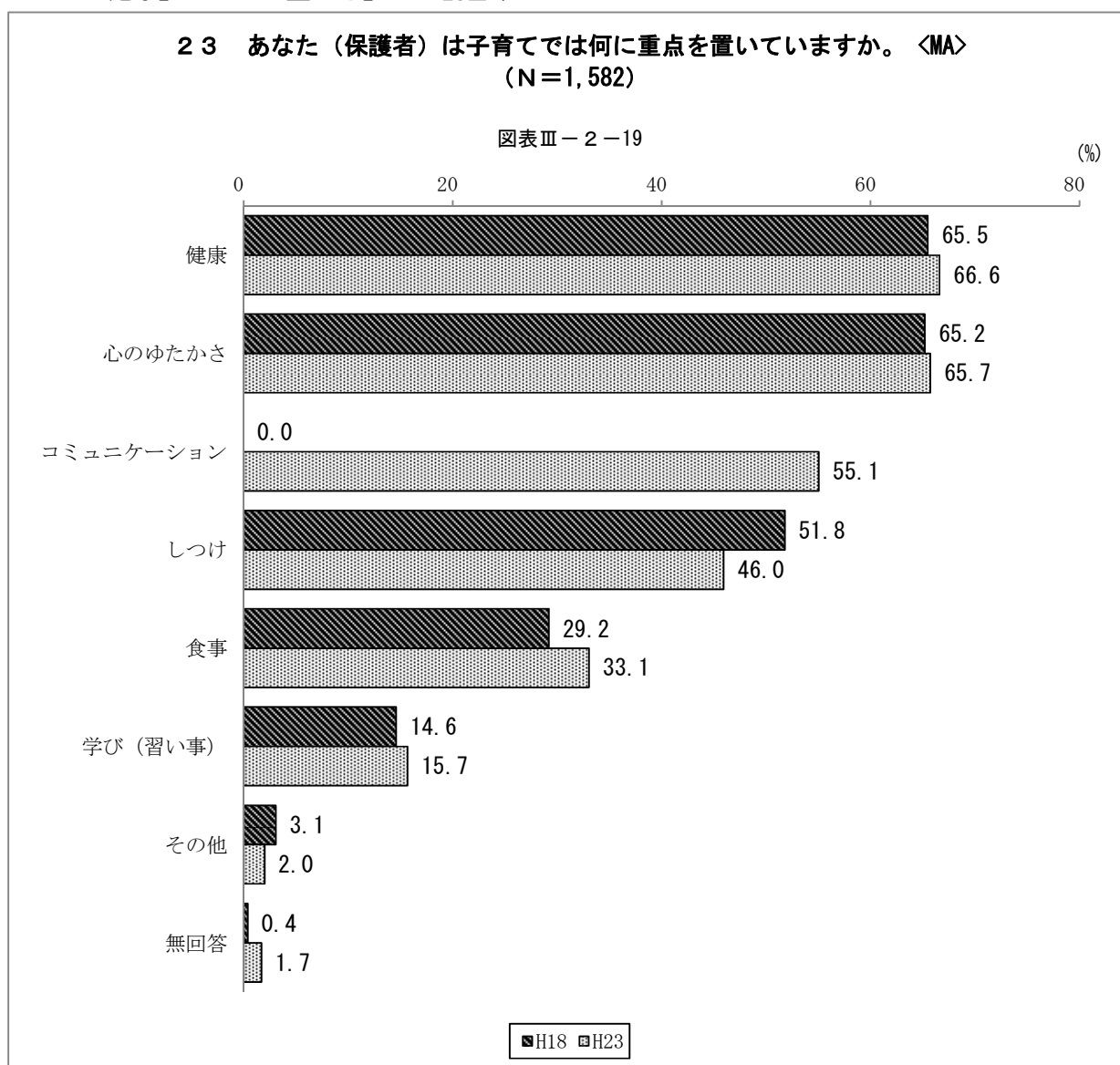
図表Ⅲ－2－18



(8) 子育ての重点

23 あなた（保護者）は子育てで何に重点をおいていますか。

◆「健康」と「心の豊かさ」が6割台半ば



子育てで重点をおいていることは、「健康」（66.6%）、「心の豊かさ」（65.7%）が6割台半ばで、以下、「コミュニケーション」（55.1%）、「しつけ」（46.0%）の順となっている。「しつけ」は、その他の項目が概ね増加しているのに対し、減少している。（図表Ⅲ-2-19）

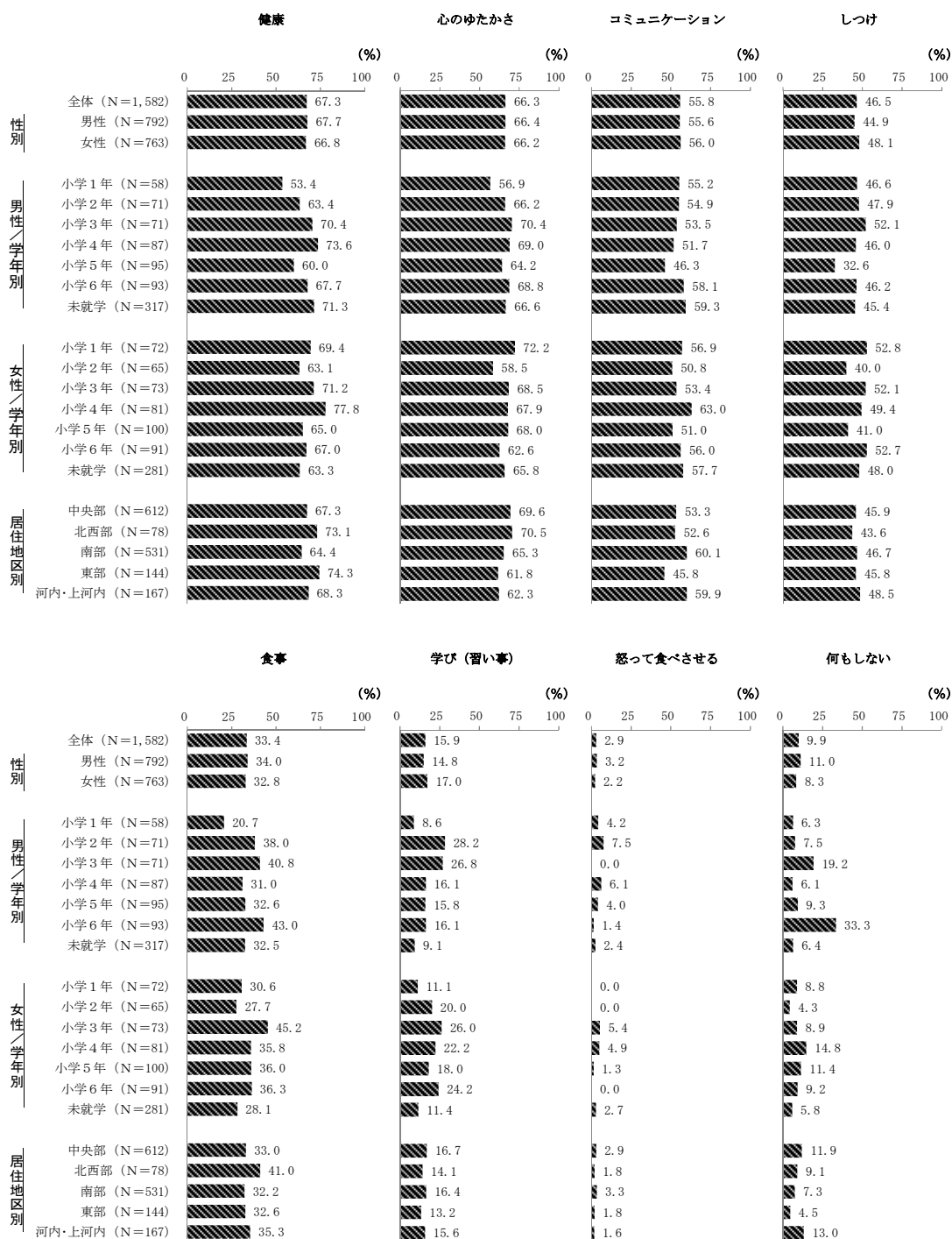
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、全体的には「健康」に重点をおいているという回答が多いが、小学1年男女とも「心のゆたかさ」が最も高くなっている。

居住地区別では、「健康」は「北西部」(73.1%)、「東部」(74.3%)で7割を超え、「心のゆたかさ」は「北西部」(70.5%)で7割を超えている。(図表Ⅲ-2-20)

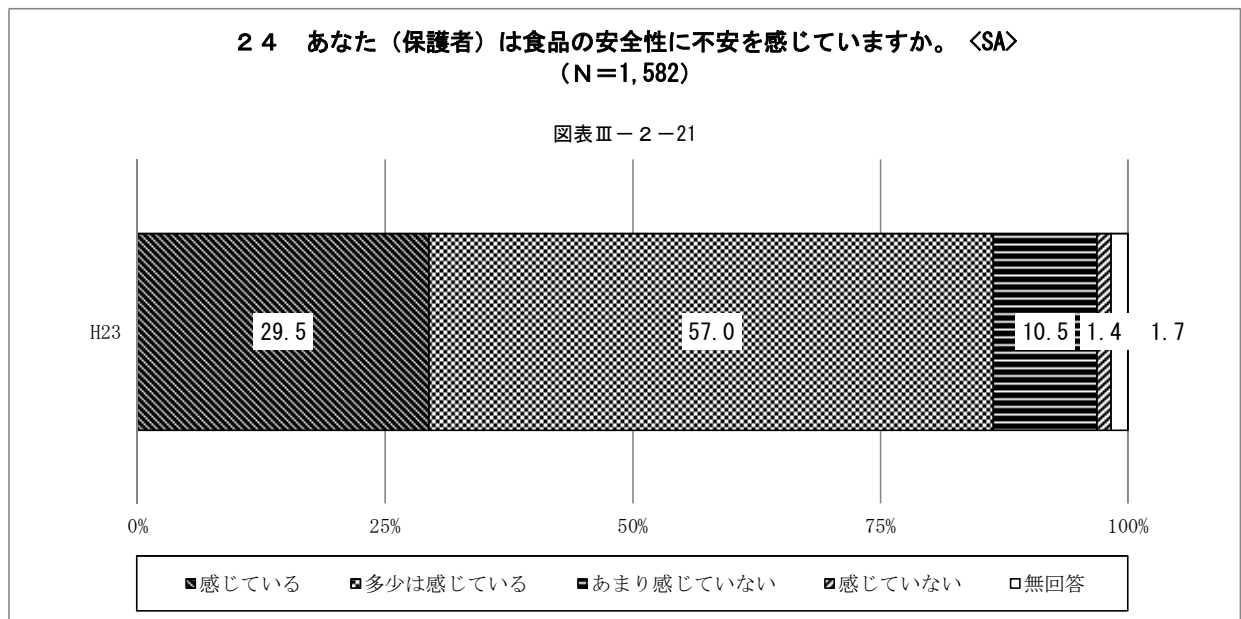
図表Ⅲ-2-20



(9) 食品の安全性への不安

2.4 あなた（保護者）は食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」、「多少は感じている」で約9割



食品の安全性への不安については、「感じている」（「感じている」（29.5%）と「多少は感じている」（57.0%）の合計）が86.5%に上っている。（図表Ⅲ-2-21）

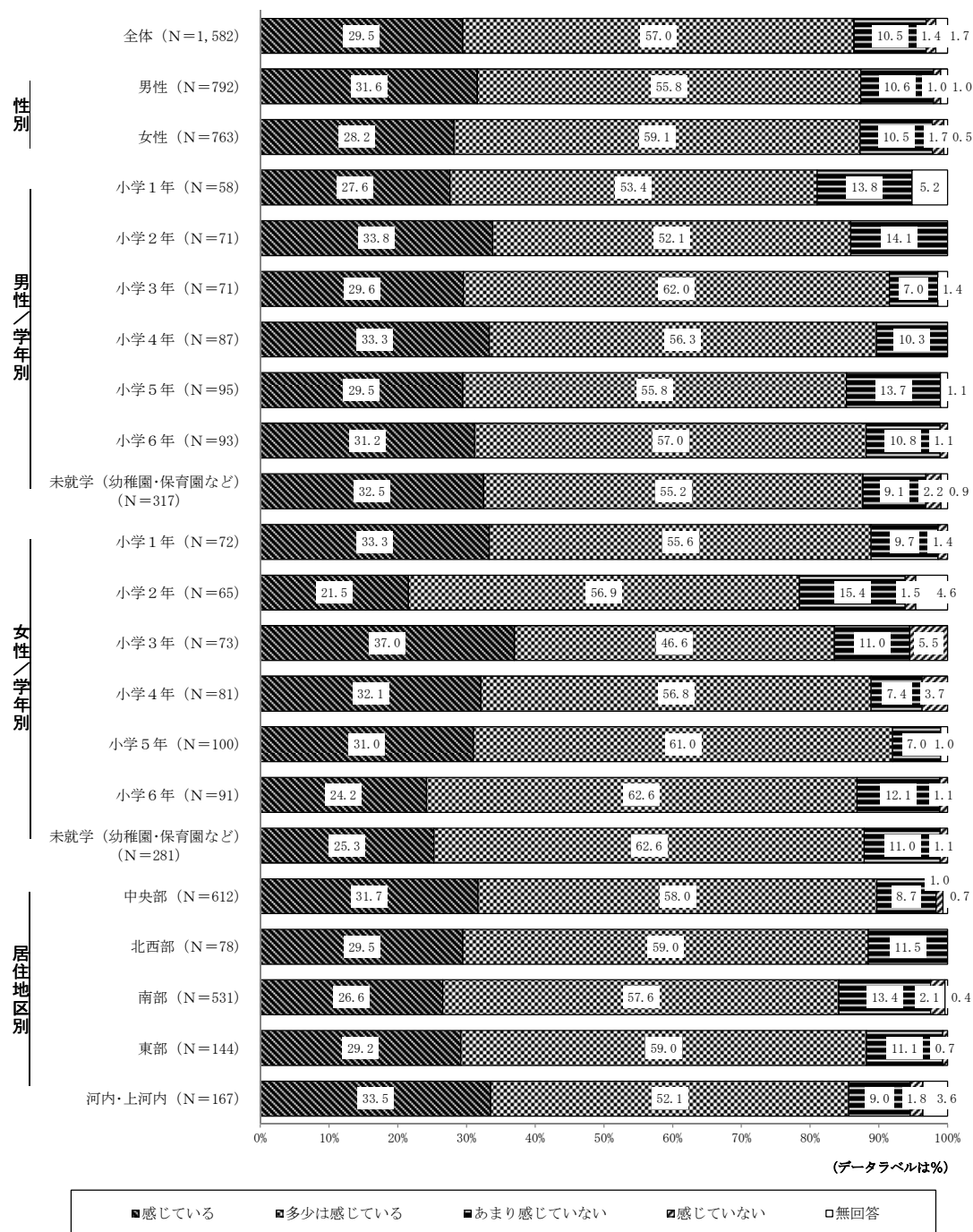
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別は、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、女性小学2年（21.5%）、女性小学6年（24.2%）は「感じている」割合が2割程度で、他の学年よりも低くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－2－22）

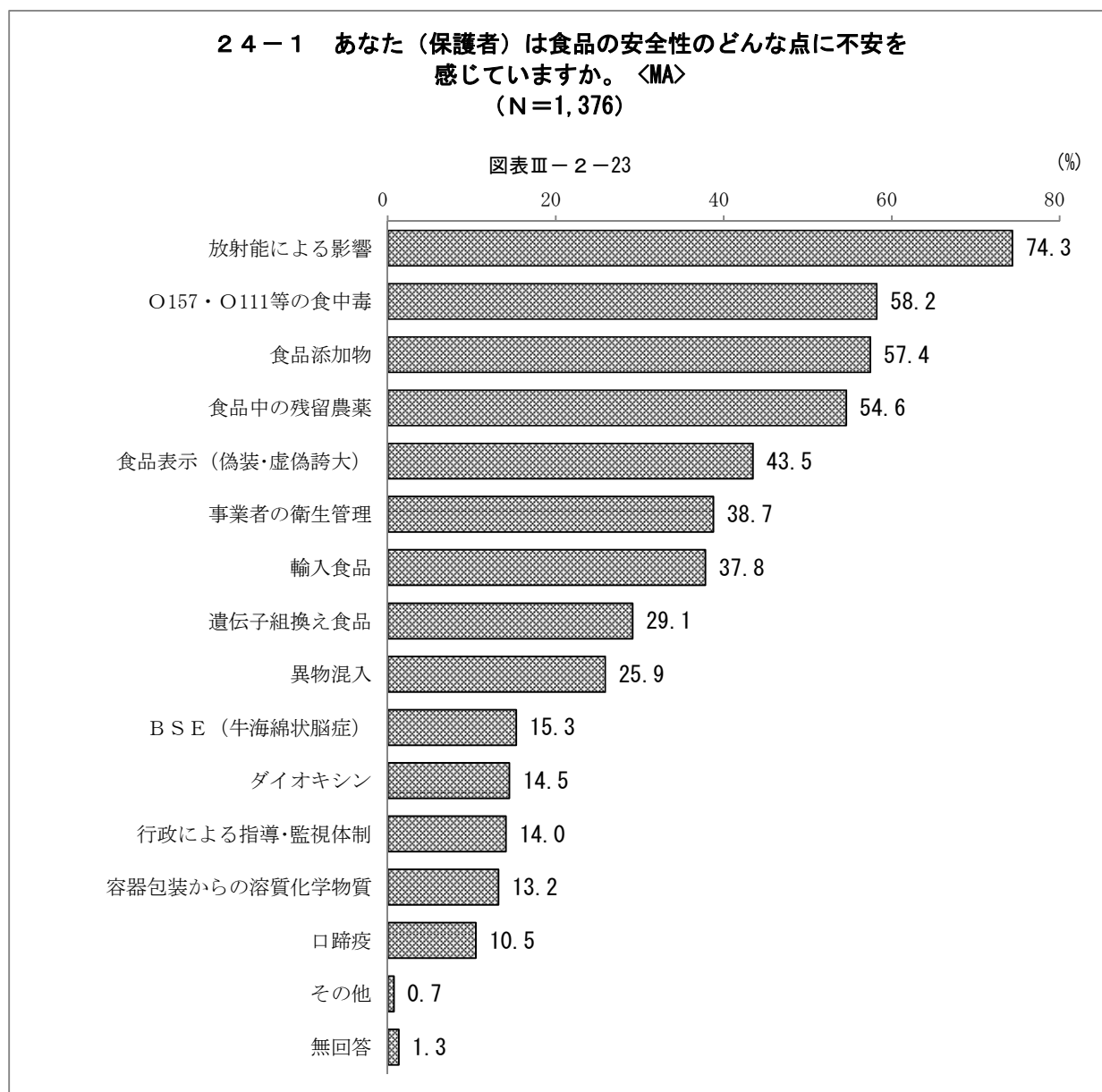
図表Ⅲ－2－22



(9-1) 不安の内容

24-1 あなた（保護者）は食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「放射能による影響」が7割台半ば



前問で「感じている」と答えた人に、食品の安全性のどのような点に不安を感じているか聞いたところ、「放射能による影響」が74.3%と突出している。以下、「○157・○111等の食中毒」（58.2%）、「食品添加物」（57.4%）、「食品中の残留農薬」（54.6%）の順で、いずれも50%を超えている。（図表Ⅲ-2-23）

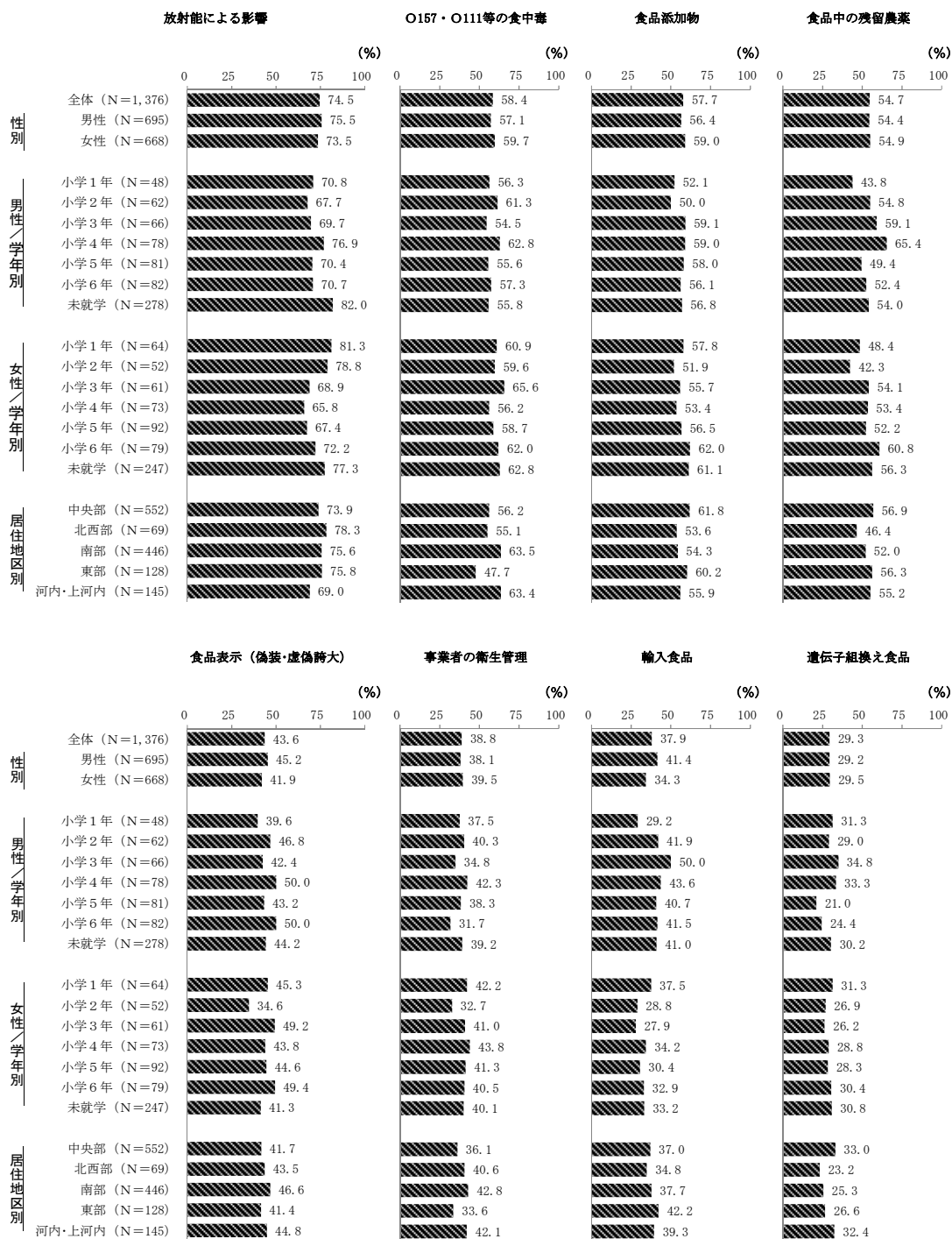
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別で見ると、「放射能による影響」は、男性未就学（82.0%）、女性小学1年（81.3%）で8割を超えている。「食品中の残留農薬」は、男性小学4年（65.4%）で6割台半ばに上っている。

居住地区別では、「東部」では、「O157・O111等の食中毒」（47.7%）4割台半ばと、他地区に比べ低くなっている。（図表Ⅲ－2－24）

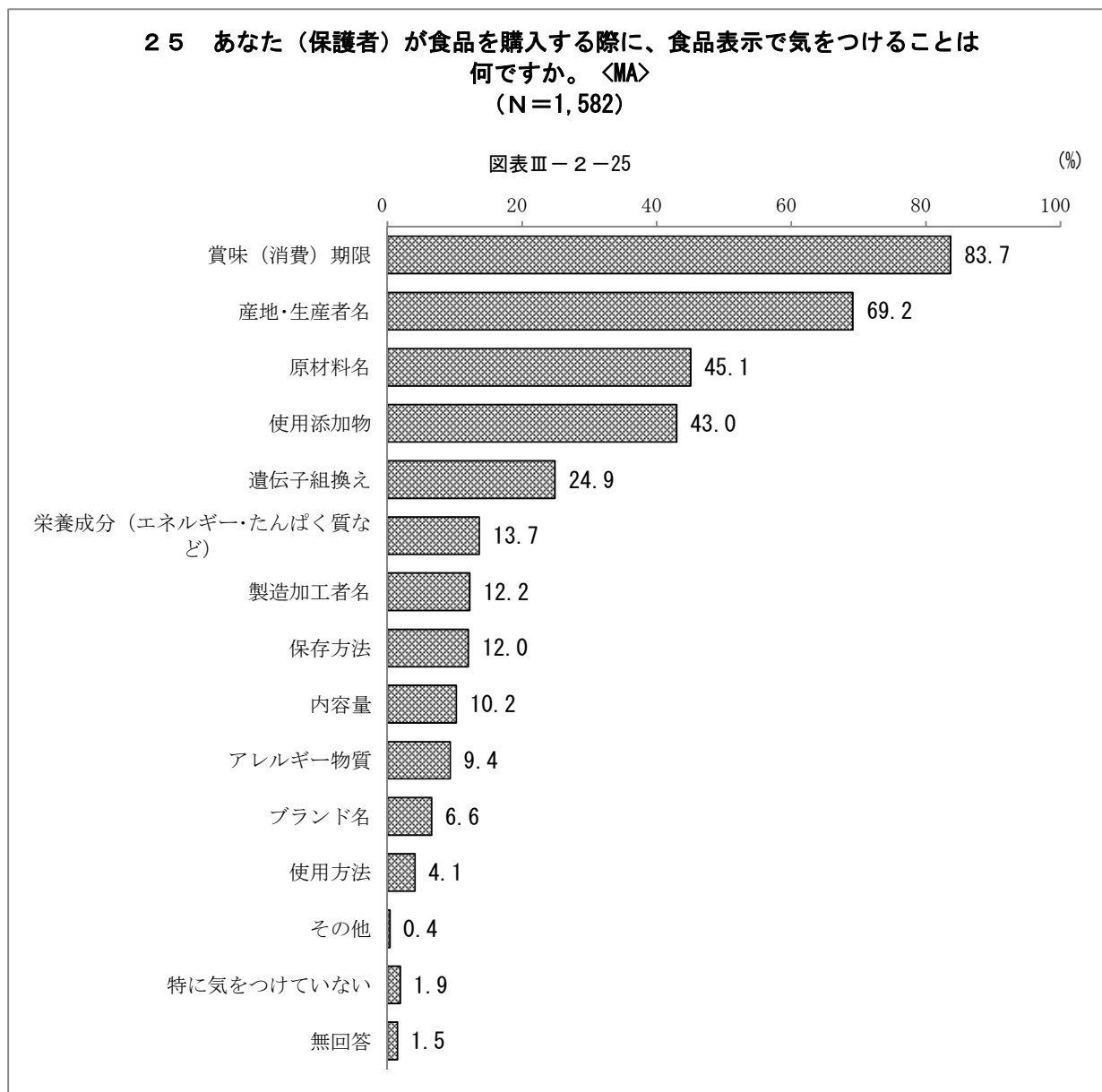
図表Ⅲ－2－24



(10) 食品表示で気をつける点

25 あなた（保護者）が食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは何ですか。

◆「賞味（消費）期限」が8割



食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは、「賞味（消費）期限」（83.7%）が8割台で突出している。次いで、「産地・生産者名」（69.2%）が約7割となっており、以下、「原材料名」（45.1%）、「使用添加物」（43.0%）の順となっている。（図表Ⅲ-2-25）

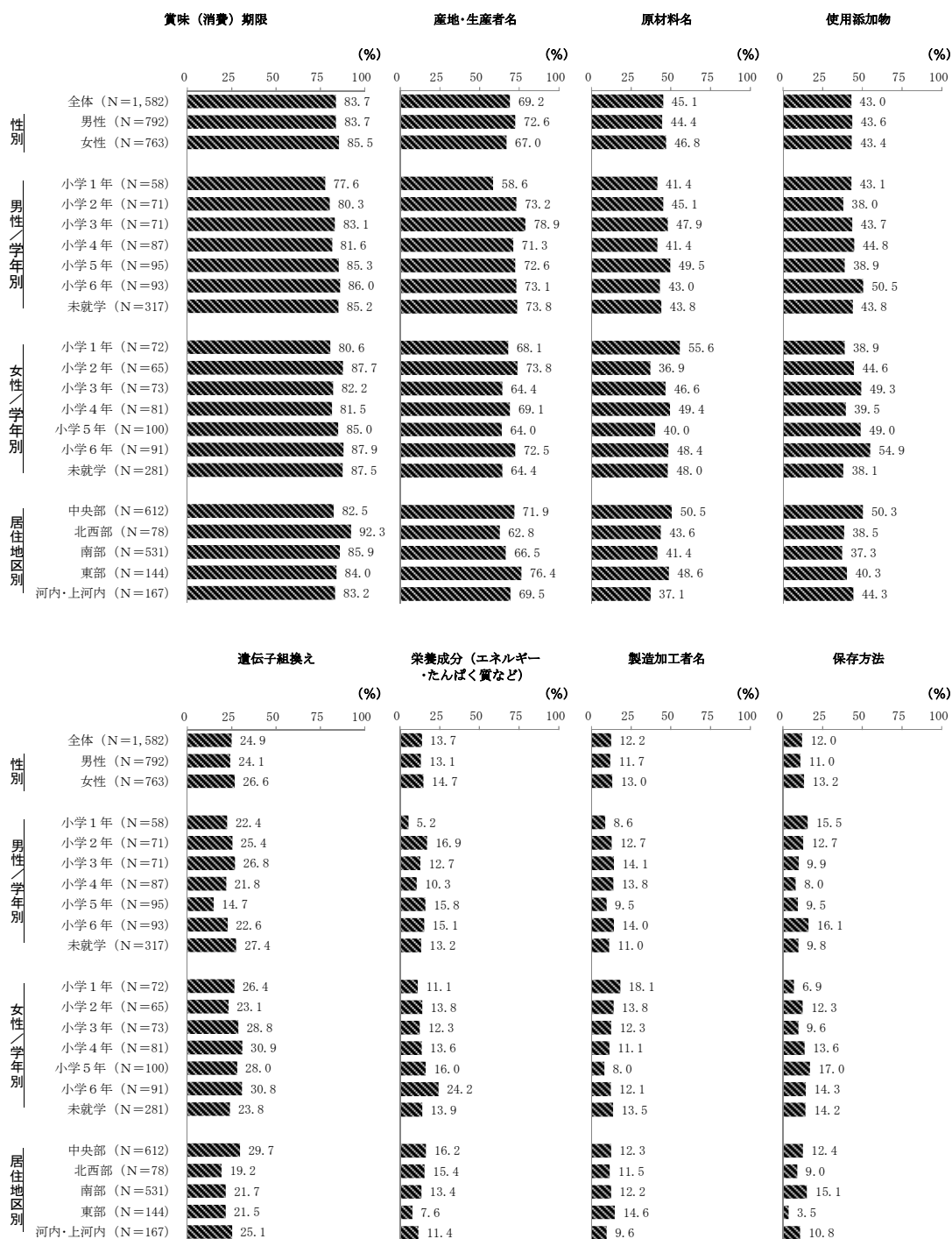
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、「産地・生産者名」は、男性（72.6%）が女性（67.0%）より約5%高くなっている。

性・学年別では、男女間でそれほど大きな差は見られないが、「原材料名」で、女性小学1年（55.6%）が5割を超え、突出している。

居住地区別では、「北西部」で、「賞味（消費）期限」（92.3%）が9割を超えている。また、「中央部」で、「原材料名」（50.5%）、「使用添加物」（50.3%）が5割を超え、突出している。（図表Ⅲ－2－26）

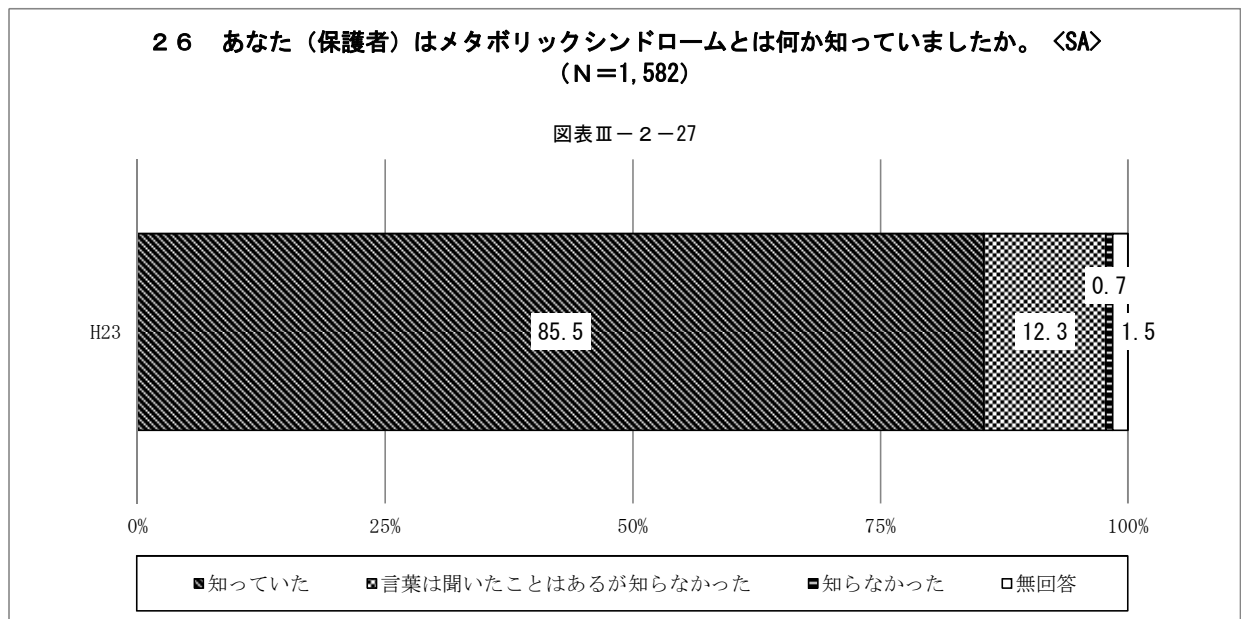
図表Ⅲ－2－26



(11) メタボリックシンドロームの認知度

26 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が8割台半ば

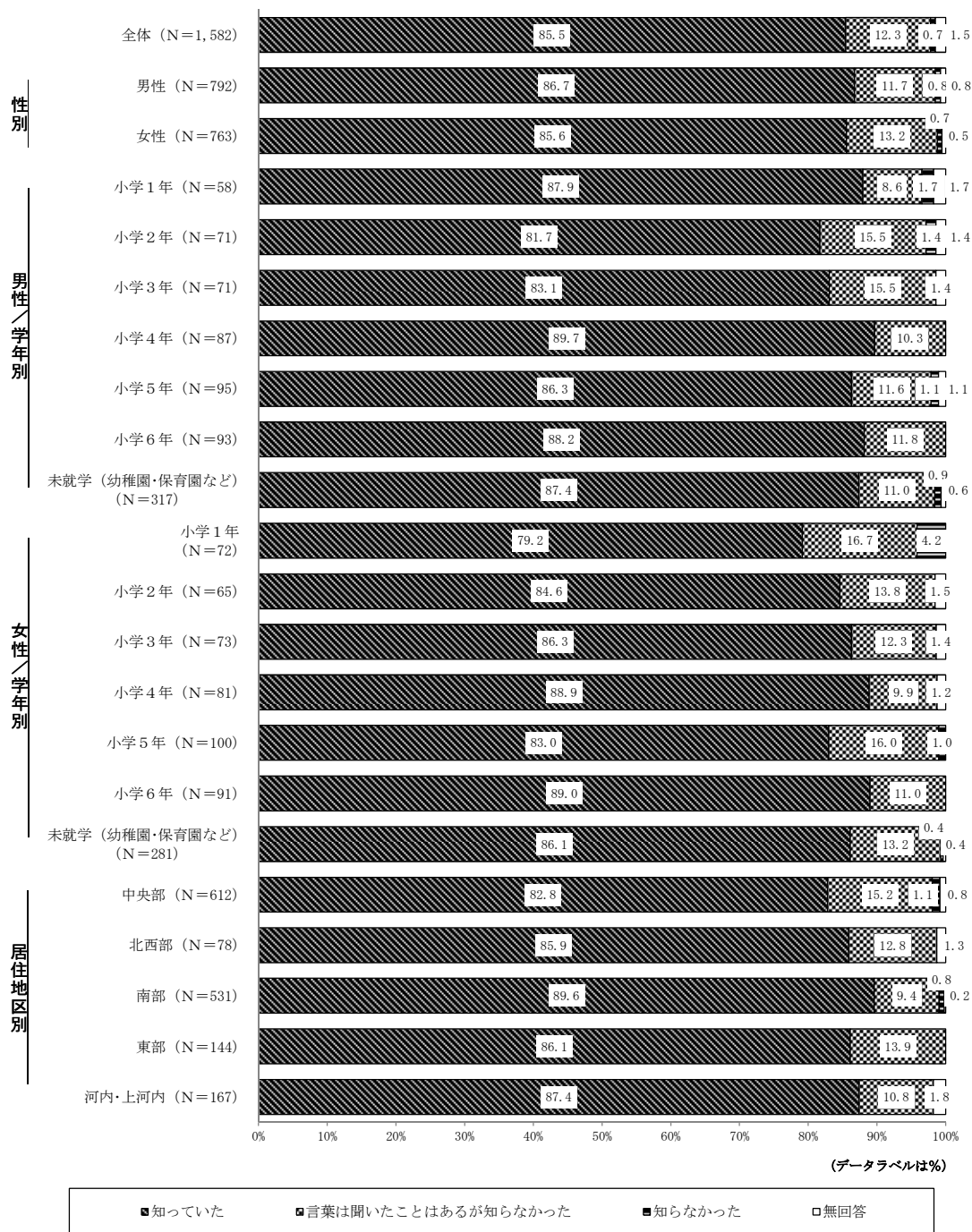


メタボリックシンドロームの認知度は、「知っていた」が85.5%と大半を占め、「知らなかった」は0.7%に留まっている。(図表Ⅲ-2-27)

【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

「メタボリックシンドローム」の認知度は高く、子どもの性別・学年、居住地区全てで「知っていた」の割合が高く、8割台となっている。(図表Ⅲ－2－28)

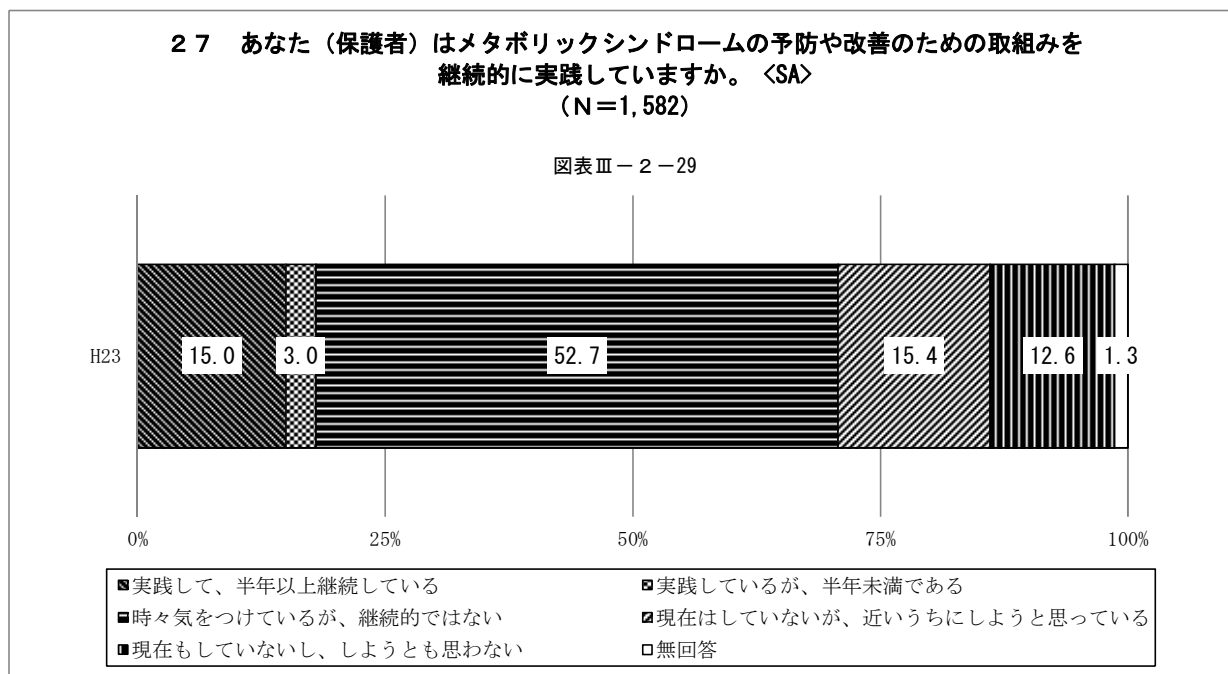
図表Ⅲ－2－28



(12) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践

27 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践していますか。

◆「時々気をつけているが、継続的ではない」が半数以上



メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続性は、「時々気をつけているが、継続的ではない」(52.7%)が半数以上を占めている。次いで、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」(15.4%)となっており、「継続している」は15.0%留まっている。(図表Ⅲ-2-29)

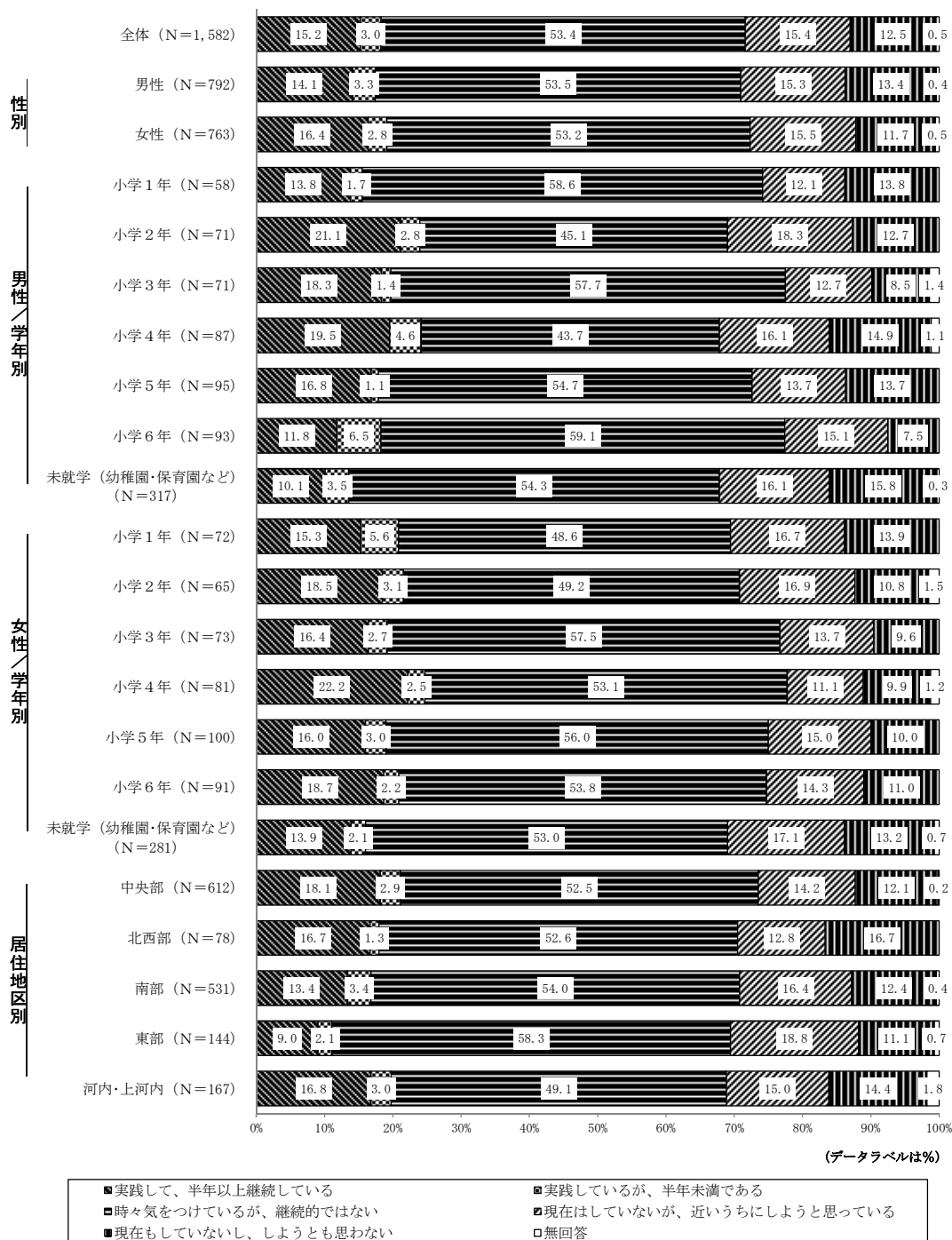
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別で見ると、男女とも「時々気をつけているが、継続的ではない」が5割前後を占めている。男性小学4年（14.9%）と男性未就学（15.8%）では、「現在もしていないし、使用とも思わない」が15%前後見られる。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－2－30）

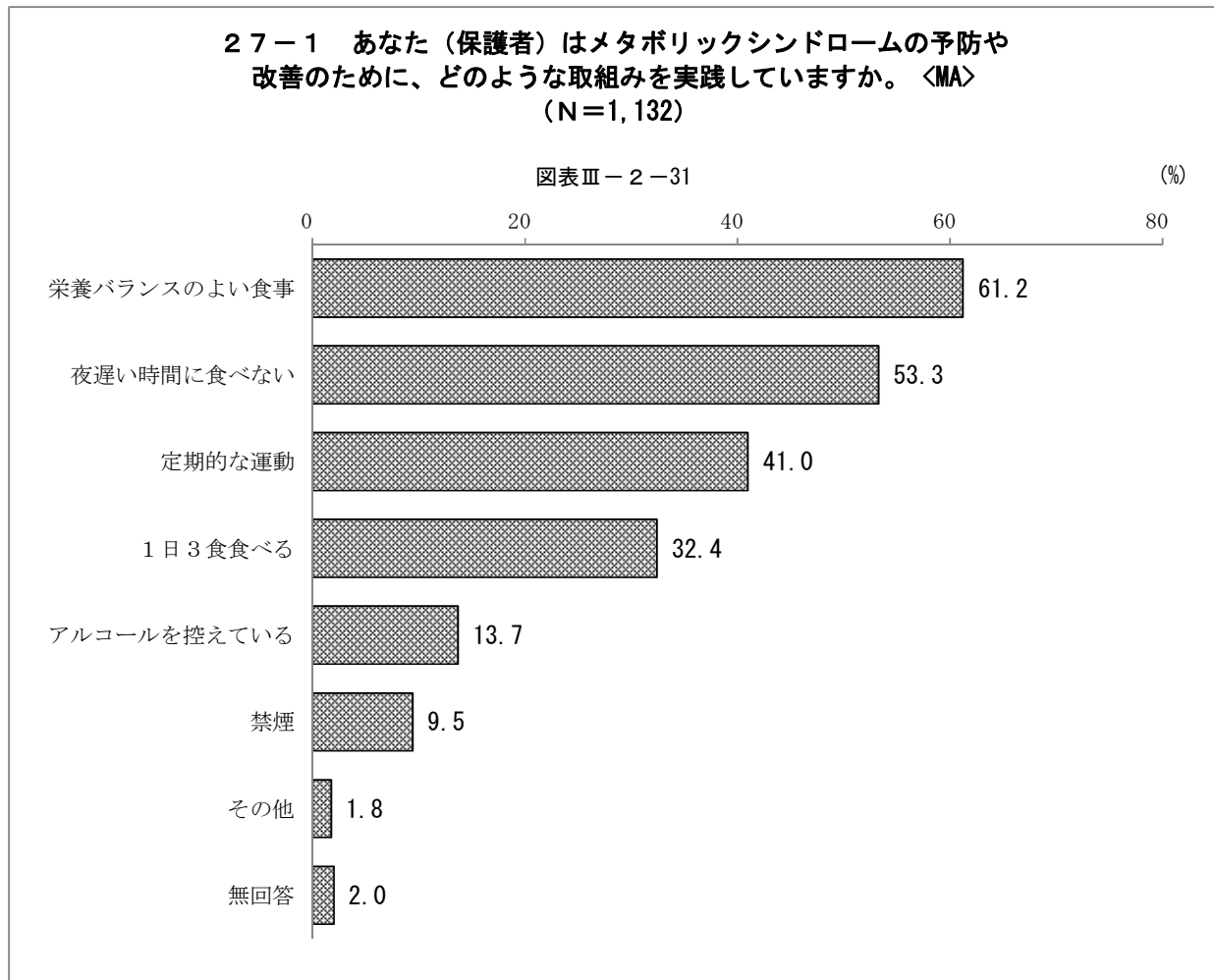
図表Ⅲ－2－30



(12-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組

27-1 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組を実践していますか。

◆「栄養バランスの良い食事」が6割



メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組は、「栄養バランスの良い食事」(61.2%)が最も多く、次いで「夜遅い時間に食べない」(53.3%)、「定期的な運動」(41.0%)となっている。(図表Ⅲ-2-31)

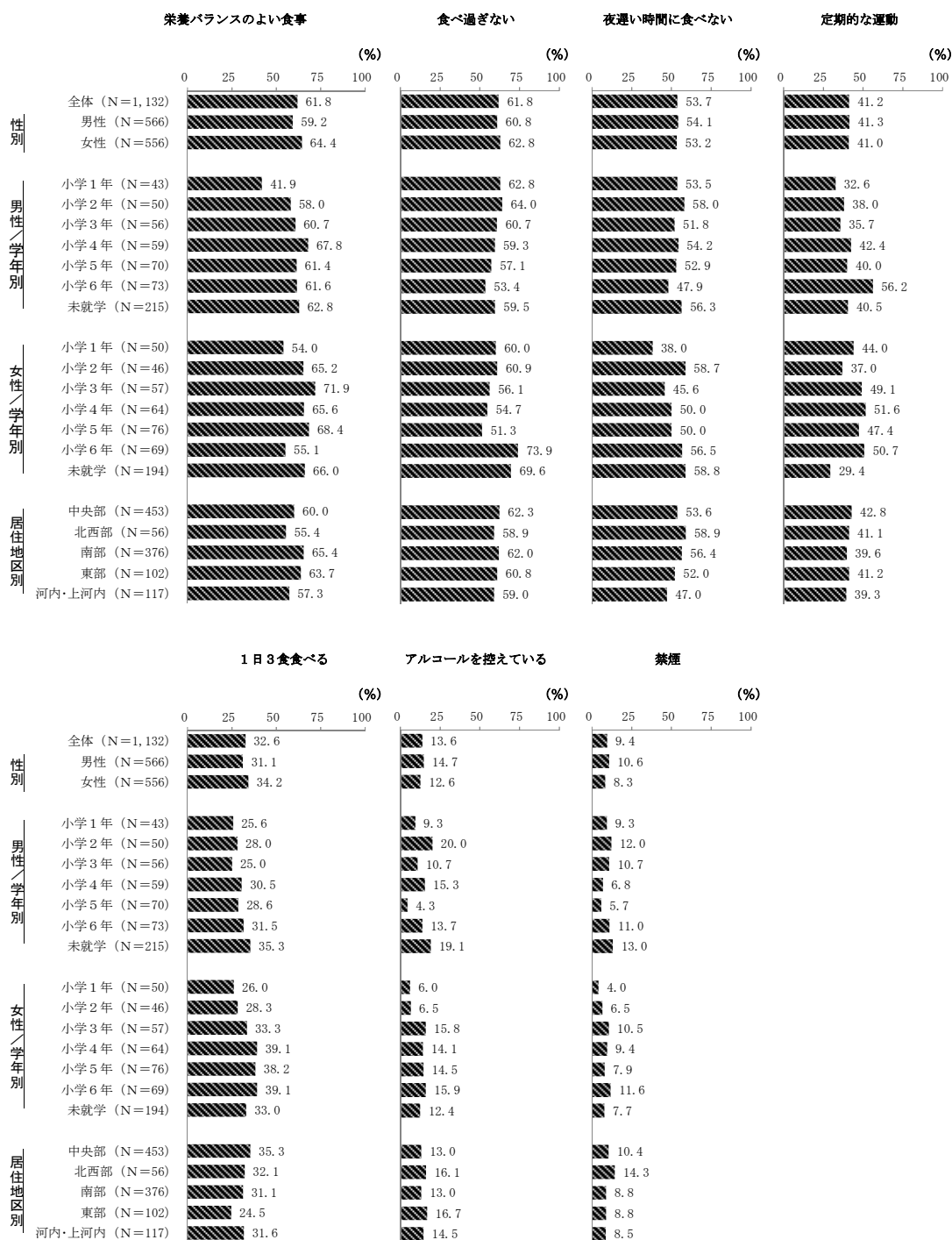
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別で見ると、「栄養バランスのよい食事」で、女性（64.4%）が男性（59.2%）より約5%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男性小学1年で、「栄養バランスのよい食事」（41.9%）が4割台で、女性小学1年は、「夜遅い時間に食べない」（38.0%）が、他の学年に比べ低くなっている。また、女性小学6年（73.9%）、女性未就学（69.6%）は、「食べすぎない」では7割前後と突出している。

居住地区別では、「北西部」（55.4%）、「河内・上河内」（57.3%）で、「栄養バランスのよい食事」が他地区に比べ低くなっている。（図表Ⅲ－2－32）

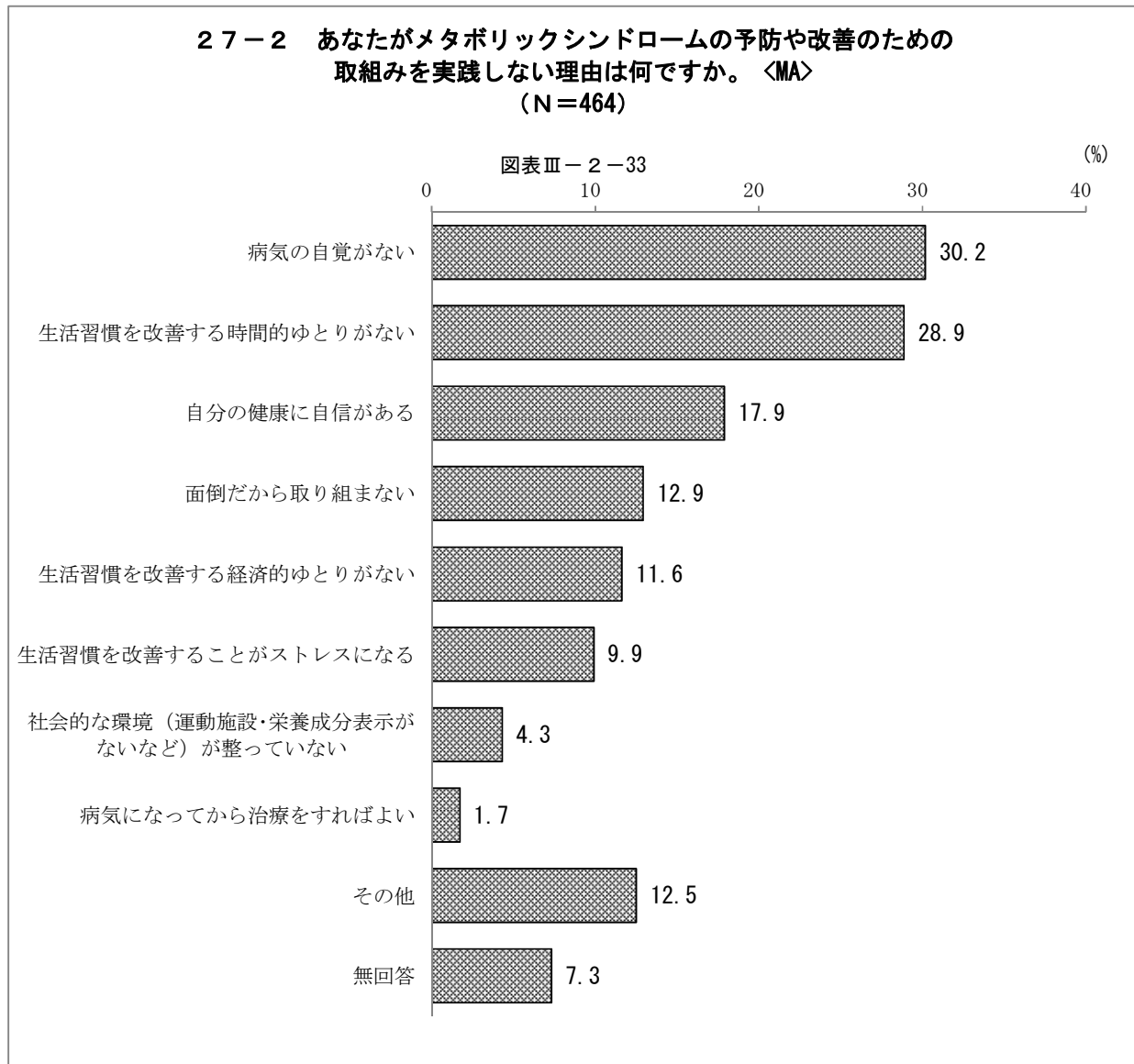
図表Ⅲ－2－32



(12-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由

27-2 あなたがメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は何ですか。

◆「病気の自覚がない」が3割



メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は、「病気の自覚がない」(30.2%)が最も多く、以下、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」(28.9%)、「自分の健康に自信がある」(17.9%)、「面倒だから」(12.9%)の順となっている。(図表Ⅲ-2-33)

【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、全体的に男性の方の割合が高くなっている。

子どもの性・学年別では、「病気の自覚がない」の割合が、男性小学6年（45.5%）が4割台半ばで、突出している。

居住地区別では、「病気の自覚がない」の割合が「東部」（42.2%）で4割強となっており、突出している。（図表Ⅲ－2－34）

図表Ⅲ－2－34

